

# 敦賀市都市計画マスタープラン

市民意向調査集計結果

令和元年 11 月

敦賀市

## 目 次

1	アンケート調査の概要	1
2	調査結果	3
2-1.	あなたご自身のことについて	3
2-2.	居住地域における生活環境について	7
2-3.	敦賀市の将来像について	25
2-4.	今後のまちづくりの方針について	36
2-5.	住民参加のまちづくりについて	50

# 1 アンケート調査の概要

## ① 調査の目的

本調査は、「敦賀市都市計画マスタープラン」の改定にあたり、居住地域や市全体のまちづくりに対する市民の意向を調査し、本計画策定に係る基礎資料とすることを目的に実施した。

## ② 調査方法

- ・調査対象者：市内に居住する18歳以上の男女
- ・抽出方法：無作為に抽出
- ・配布・回収方法：郵送による配布。返信用封筒による回収
- ・調査期間：令和元年8月13日～8月30日

## ③ 配布・回収状況

- ・配付数：3,000票／回収数：1,190票／回収率：39.7%

## ④ 集計について

- ・百分率の基数は、回答者数1,190人を100%とした。
- ・図表中の百分率の数値は、小数点第2位で四捨五入しているため、百分率の合計が100%にならない場合がある。
- ・複数回答の場合は、回答者数1,190人のうち何人の方が、そのように考えているかを表すという趣旨から、百分率を合計すると100%を超える場合がある。

## ⑤ 設問内容

表. 設問項目

問 1. 性別	問 1 4. 今後の防災安全性について
問 2. 年齢	問 1 5. 今後の景観づくりについて
問 3. 職業	問 1 6. 今後の農地と宅地開発について
問 4. 世帯構成	問 1 7. 今後の道路・交通について
問 5. 居住地区	問 1 8. 敦賀市の今後のまちづくりの方針について
問 6. 居住年数	問 1 9. 今後、重点的に整備すべきと考える地区について
問 7. 通勤・通学地	問 2 0. 今後、敦賀市において特に推進すべきと考える取組みについて
問 8. 通勤・通学の主な交通手段	問 2 1. “コンパクトなまちづくり”に必要な施策について
問 9. お住まいの地域における生活環境について	問 2 2. 今後の敦賀駅周辺（駅東側）の土地利用について
問 1 0. お住まいの地域における現在の土地や建物の状況について	問 2 3. 今後の「まちづくり」への参加意思について
問 1 1. 生活行動の主な「行き先」と「交通手段」について	問 2 4. 「住民参加型のまちづくり」を進めるために大切なことについて
問 1 2. 中心市街地に必要な施設（機能）について	問 2 5. 今後のまちづくりへの意見等について（自由回答）
問 1 3. 今後の防災対策について	

## ⑥ 前回調査との比較

表. 前回調査との比較

区 分	今回調査	前回調査
調査対象	市内に居住する18歳以上の男女	市内に居住する20歳以上の男女
調査期間	令和元年8月13日～8月30日	平成20年5～6月
配布数等	配付数：3,000票、回収数：1,190票、回収率：39.7%	配付数：3,000票、回収数：1,151票、回収率：38.4%
設問内容	問 1. 性 別	・性 別
	問 2. 年 齢	・年 齢
	問 3. 職 業	・職 業
	問 4. 世帯構成	・家族構成
	問 5. 居住地区	・居住地区・町名
	問 6. 居住年数	—
	問 7. 通勤・通学地	・通勤・通学地
	問 8. 通勤・通学の主な交通手段	・通勤・通学の主な交通手段
	問 9. お住まいの地域における生活環境について	・居住地区の生活環境の評価・満足度
	問10. お住まいの地域における現在の土地や建物の状況について	—
	問11. 生活行動の主な「行き先」と「交通手段」について	・買い物動向 ・選んだ店に買い物に行く理由 ・買い物に行くときの交通手段
	問12. 中心市街地に必要な施設（機能）について	—
	問13. 今後の防災対策について	・安心して住むために特に重視すべき防災対策
	問14. 今後の防災安全性について	・都市災害の不安について
	問15. 今後の景観づくりについて	・景観整備の方向性について
	問16. 今後の農地と宅地開発について	・今後の農地と宅地開発について
	問17. 今後の道路・交通について	—
	問18. 敦賀市の今後のまちづくりの方針について	・敦賀市の今後のまちづくりの方針について
	問19. 今後、重点的に整備すべきと考える地区について	・重点的に整備すべき地区
	問20. 今後、敦賀市において特に推進すべきと考える取組みについて	・今後、敦賀市において充実させるべき機能
	問21. “コンパクトなまちづくり”に必要な施策について	—
	問22. 今後の敦賀駅周辺（駅東側）の土地利用について	—
	問23. 今後の「まちづくり」への参加意思について	・まちづくりへ参加について
	問24. 「住民参加型のまちづくり」を進めるために大切なことについて	—
	問25. 今後のまちづくりへの意見等について（自由回答）	・今後のまちづくりへの意見等について（自由回答）
	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地の商店街に買い物に行く頻度</li> <li>・中心市街地商店街までの所要時間</li> <li>・情報環境について</li> <li>・居住地区での交通事故の危険性</li> <li>・高齢者にやさしいまちづくりについて重視すべき内容</li> <li>・敦賀市をより快適なまちにするために力を入れるべきこと</li> <li>・公園の利用状況</li> <li>・今後の公園づくりの要望等</li> <li>・河川の浄化について</li> <li>・ゴミ問題について</li> <li>・「都市計画マスタープラン」の役割について</li> <li>・「コンパクトシティ」の認知状況</li> <li>・敦賀市における「コンパクトシティ」の必要性</li> </ul>

## 2 調査結果

### 2-1. あなたご自身のことについて

#### 問1. 性別

性別については、「女性」が 54.9%、「男性」が 44.9%であり、女性の回答割合がやや上回っています。敦賀市の性別構成比と比較すると、アンケート調査では女性の回答割合がやや高くなっています。

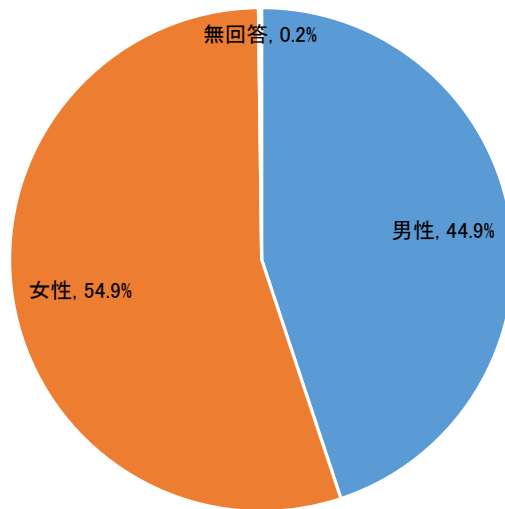
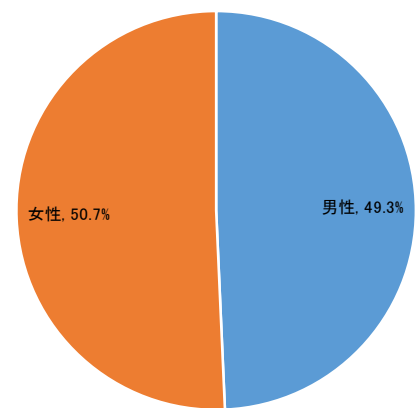


図. 性別 <N=1,190>



(参考) 図. 敦賀市の性別構成比 <N=66,056>

※平成 30 年 9 月末

#### 問2. 年齢

年齢については、「70歳代以上」が 23.9%を占め最も割合が高く、次いで「60歳代」(19.5%)、「50歳代」(18.7%)と続きます。敦賀市の年齢別構成比と比較すると、アンケート調査では「30歳代」、「60歳代」、「50歳代」の回答割合が高くなっています。

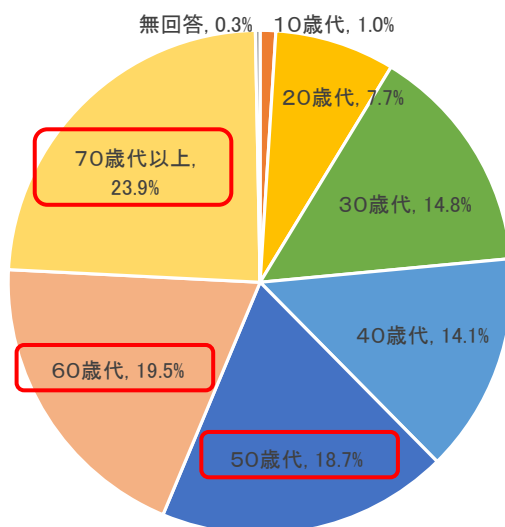
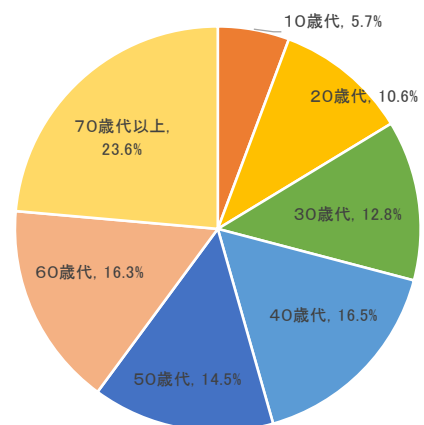


図. 年齢 <N=1,190>



(参考) 図. 敦賀市の年齢別構成比 <N=56,909>

※平成 31 年 3 月 29 日

※10歳代には、15~17歳人口を含む

### 問3. 職業

職業については、「会社員（正社員・契約社員・派遣社員を含む）」が 33.2%を占め最も割合が高く、次いで「アルバイトやパート等」（17.1%）、「無職」（15.9%）と続きます。

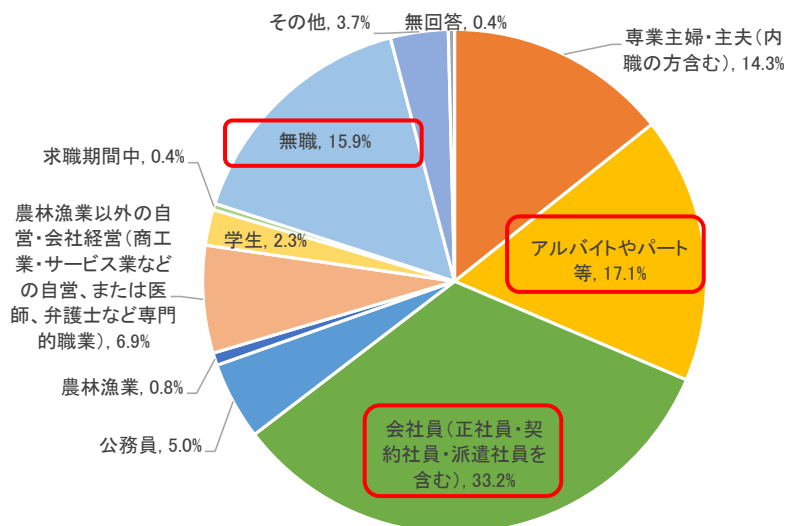


図. 職業 <N=1,190>

### 問4. 世帯構成

世帯構成については、「高齢者（65歳以上）の方」のいる世帯が 47.6%、「小・中・高校生の方」のいる世帯が 19.8%、「幼稚園児・保育園児の方」のいる世帯が 8.1%、「幼稚園・保育園に通っていない就学前児童の方」のいる世帯が 4.5%となっています。

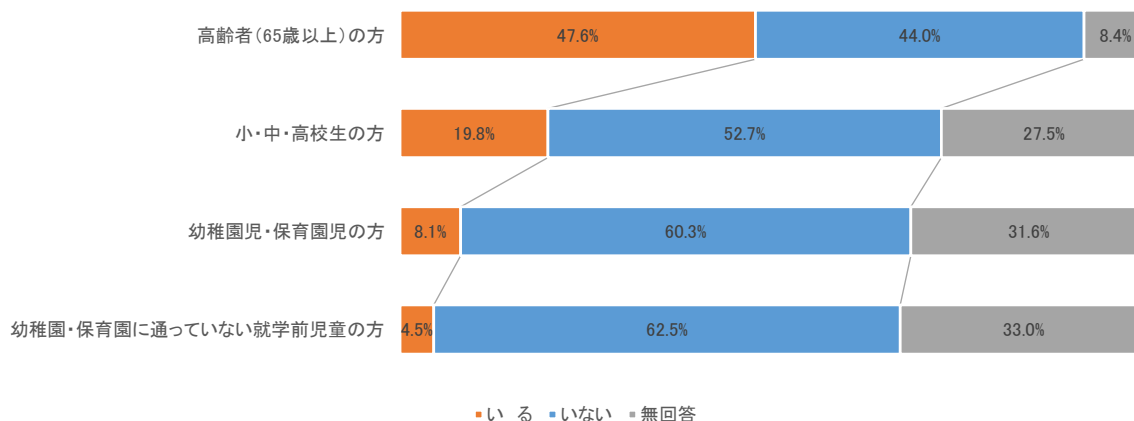


図. 世帯構成 <N=1,190>

### 問5. 居住地区

居住地区については、「栗野地区」が 33.3%を占め最も割合が高く、次いで「松原地区」（18.1%）、「西地区」（11.9%）と続きます。区域別の地区構成比を見ると、都市計画区域内が 29.4%、都市計画区域内外が 67.5%、都市計画区域外が 3.1%となっています。

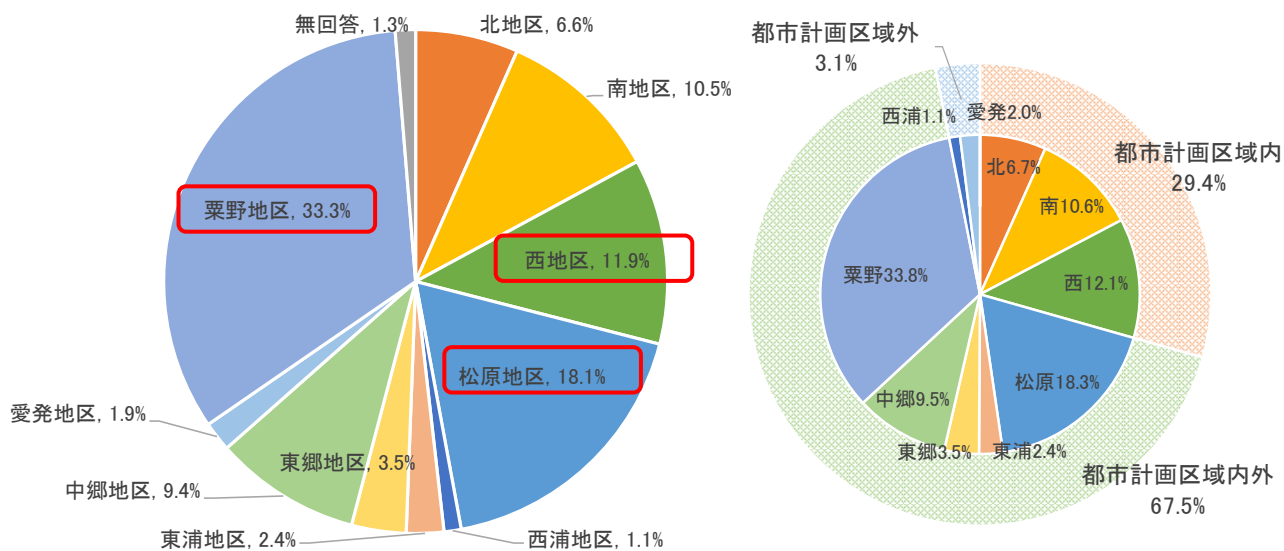


図. 居住地区 <N=1,190>

(参考) 図. 区域別の地区構成比 <N=1,174>  
※無回答を除く

### 問6. 居住年数

居住年数については、「30年以上」が 63.8%を占め最も割合が高く、次いで「20年以上30年未満」（14.5%）、「10年以上20年未満」（11.5%）と続きます。

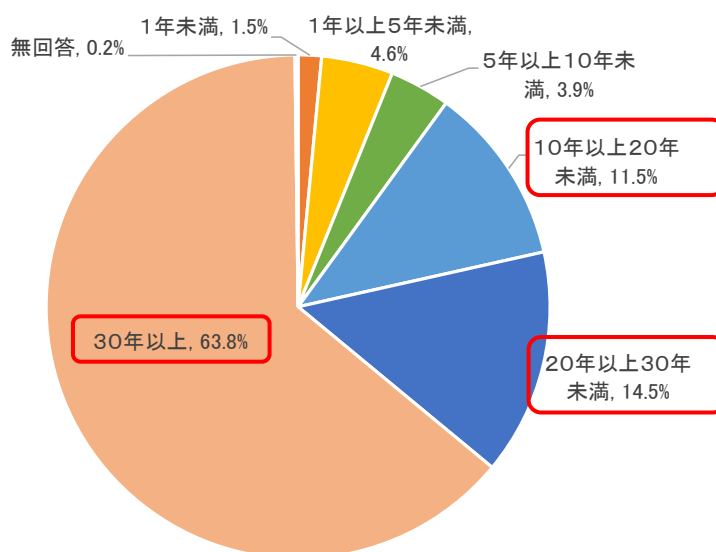


図. 居住年数 <N=1,190>

### 問7. 通勤・通学地

通勤・通学地については、「敦賀市内」が66.1%を占め最も割合が高く、次いで「その他の県内市町」（4.5%）、「美浜町」（4.0%）と続きます。（無回答を除く。）

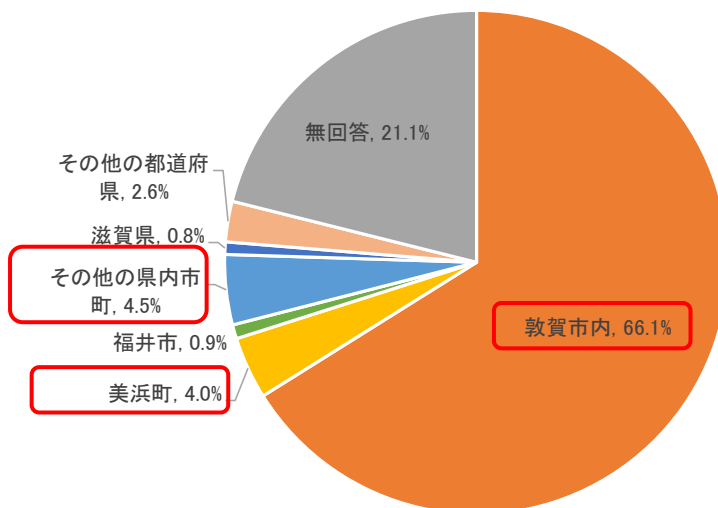


図. 通勤・通学地 <N=1,190>

### 問8. 通勤・通学の主な交通手段

通勤・通学の主な交通手段については、「自動車」が60.5%を占め最も割合が高く、次いで「徒歩」（4.8%）、「自宅で働いている」（3.9%）と続きます。（無回答を除く。）

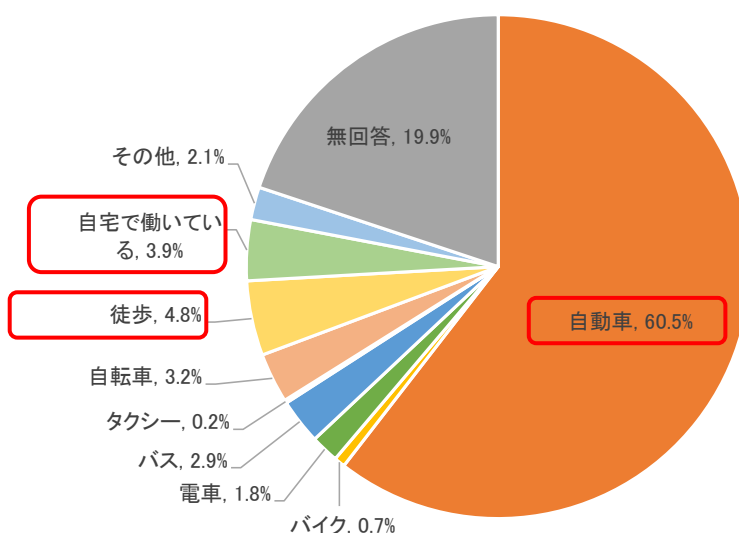


図. 通勤・通学の主な交通手段 <N=1,190>



## 2-2. 居住地域における生活環境について

### 問9. 居住地域における生活環境について

居住地域における生活環境（満足度）については、「満足」と「やや満足」の合計で「日照・通風」が42.9%を占め最も割合が高く、次いで「悪臭」（42.4%）、「ゴミ・し尿処理」（40.4%）と続きます。

一方、「不満」と「やや不満」の合計では、「公共交通機関（鉄道・バスなど）の便利さ」が54.2%を占め最も割合が高く、次いで「歩行者・自転車に対する道路の安全性」（43.3%）、「河川の整備」（36.4%）と続きます。

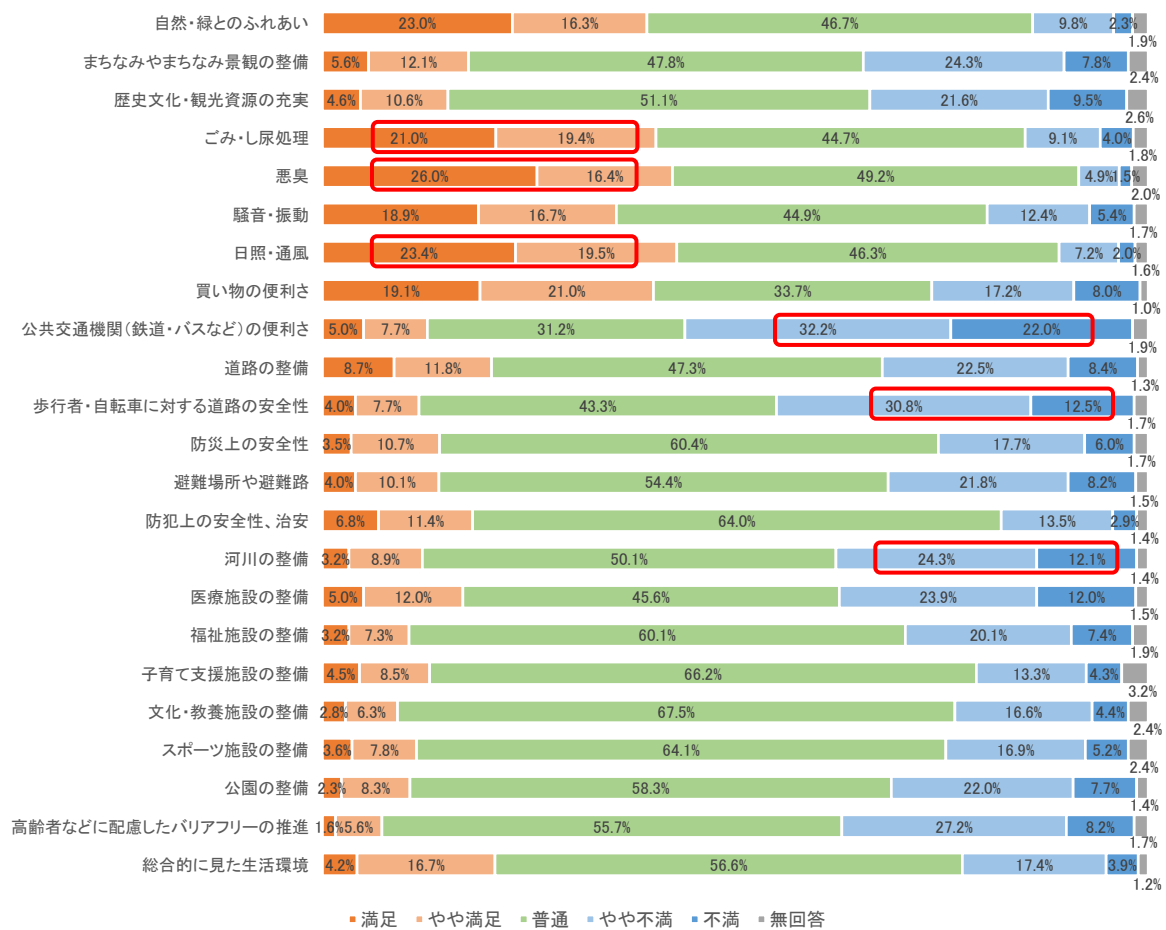


図. 居住地域における生活環境について（満足度） <N=1,190>

居住地域における生活環境（重要度）については、「重要」と「やや重要」の合計で「公共交通機関（鉄道・バスなど）の便利さ」が 75.4%を占め最も割合が高く、次いで「歩行者・自転車に対する道路の安全性」（72.7%）、「医療施設の整備」（72.5%）と続きます。

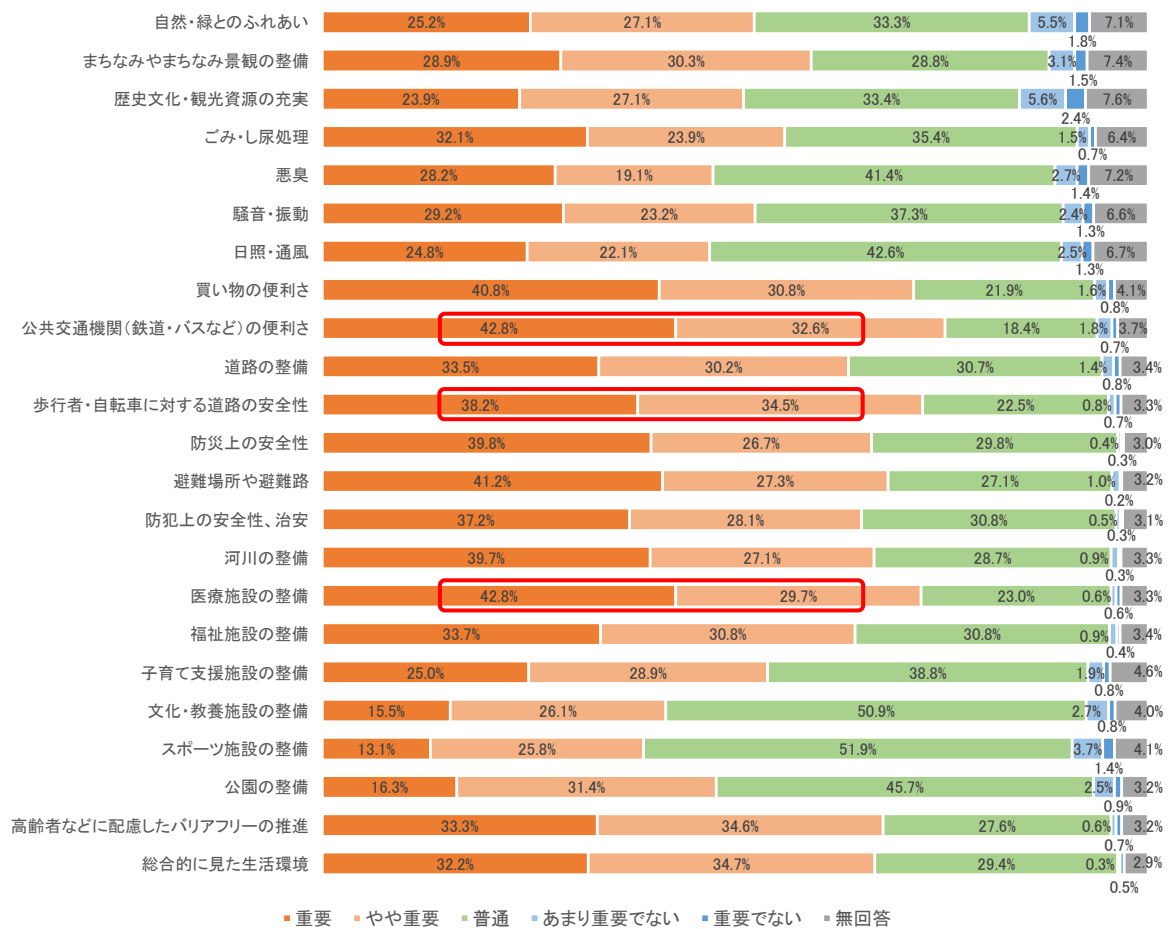


図. 居住地域における生活環境について（重要度） <N=1,190>

満足度と重要度の相関関係を見ると、平均より重要度は高いが満足度が低い項目として、「9) 公共交通機関（鉄道・バスなど）の便利さ」、「10) 道路の整備」、「11) 歩行者・自転車に対する道路の安全性」、「12) 防災上の安全性」、「13) 避難場所や避難路」、「15) 河川の整備」、「16) 医療施設の整備」、「17) 福祉施設の整備」、「22) 高齢者などに配慮したバリアフリーの推進」の9項目があがっています。

■全体

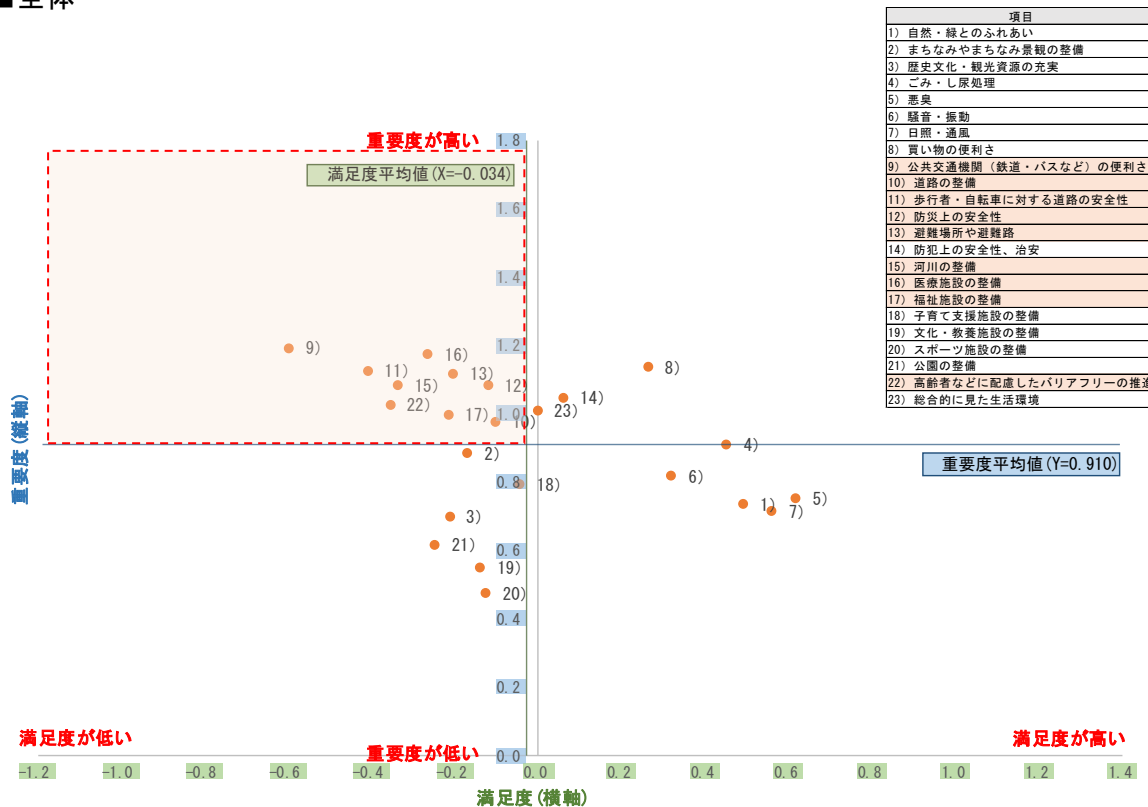


図. 全体の満足度と重要度の相関

10 歳代では、平均より重要度は高いが満足度が低い項目として、「9) 公共交通機関（鉄道・バスなど）の便利さ」、「8) 買い物の便利さ」などの7項目があがっています。

■年齢別（10 歳代）

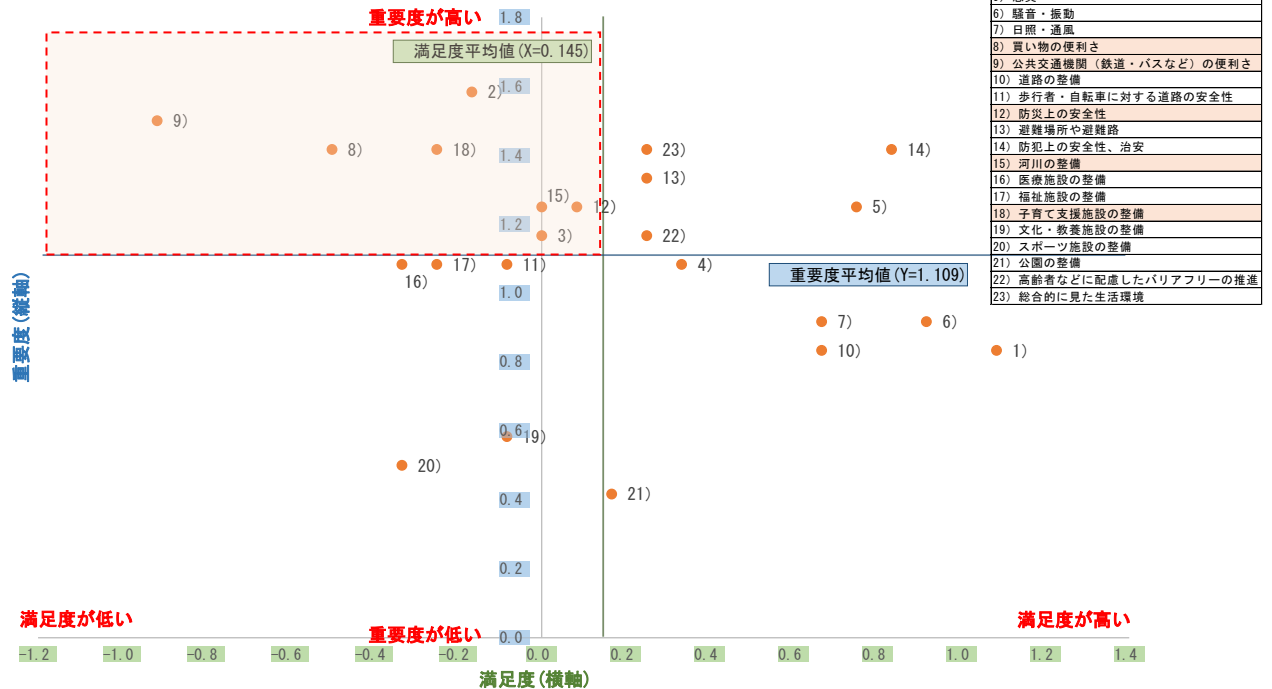


図. 年齢別の満足度と重要度の相関（10 歳代）

20 歳代では、平均より重要度は高いが満足度が低い項目として、「9) 公共交通機関（鉄道・バスなど）の便利さ」、「11) 歩行者・自転車に対する道路の安全性」などの10項目があがっています。

■年齢別（20 歳代）

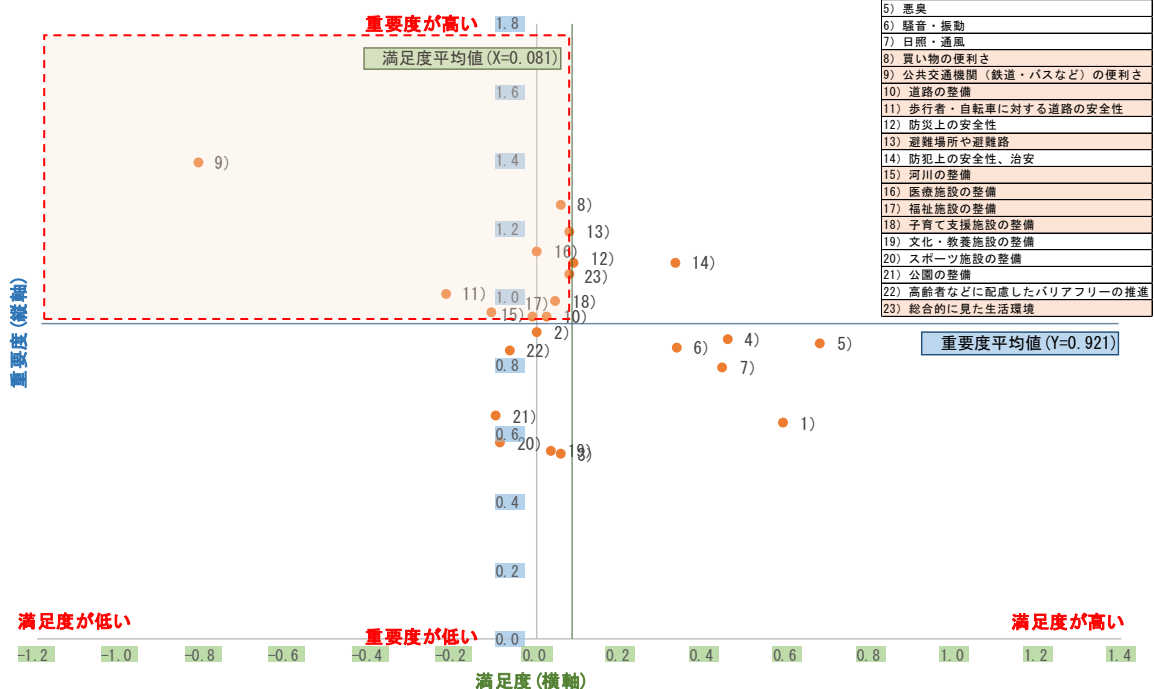


図. 年齢別の満足度と重要度の相関（20 歳代）

30 歳代では、平均より重要度は高いが満足度が低い項目として、「9) 公共交通機関（鉄道・バスなど）の便利さ」、「11) 歩行者・自転車に対する道路の安全性」などの 8 項目があがっています。

■年齢別（30 歳代）

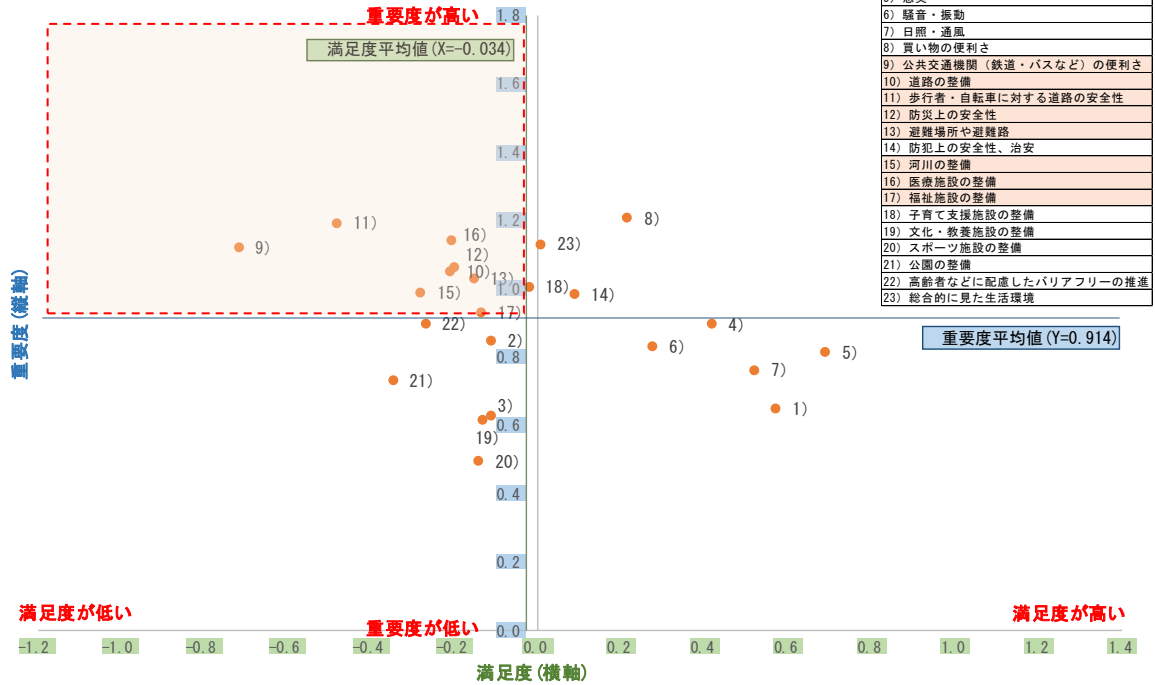


図. 年齢別の満足度と重要度の相関（30 歳代）

40 歳代では、平均より重要度は高いが満足度が低い項目として、「9) 公共交通機関（鉄道・バスなど）の便利さ」、「11) 歩行者・自転車に対する道路の安全性」などの 9 項目があがっています。

■年齢別（40 歳代）

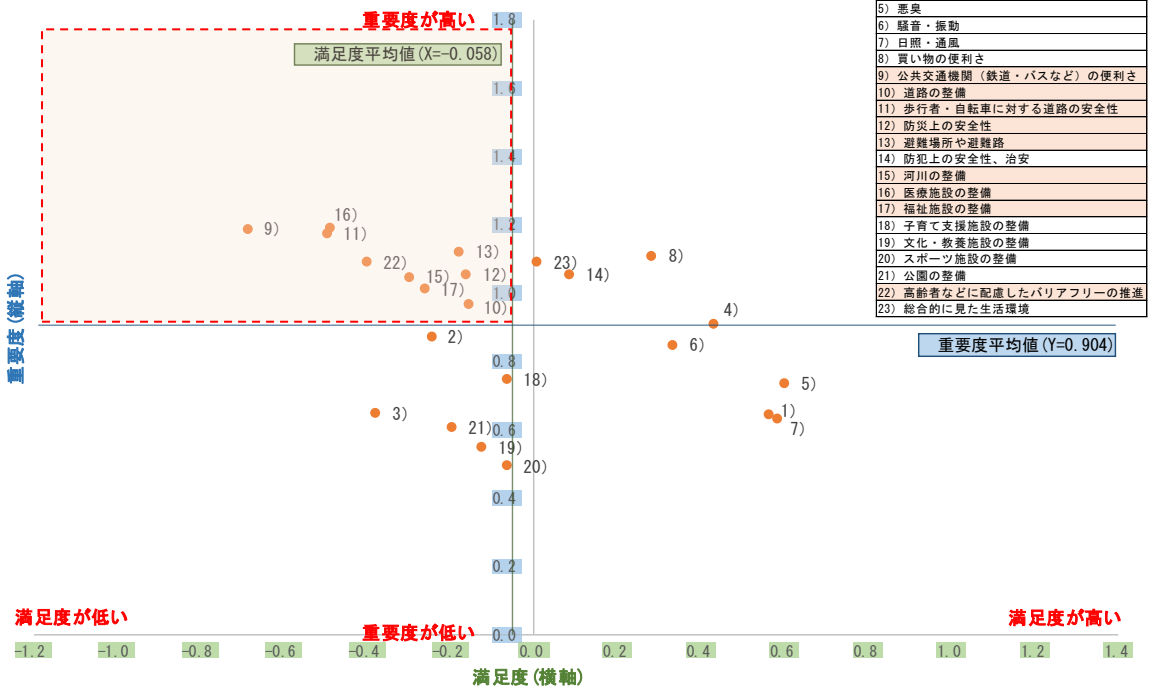


図. 年齢別の満足度と重要度の相関（40 歳代）

50 歳代では、平均より重要度は高いが満足度が低い項目として、「9) 公共交通機関（鉄道・バスなど）の便利さ」、「11) 歩行者・自転車に対する道路の安全性」などの 10 項目があがっています。

■年齢別（50 歳代）

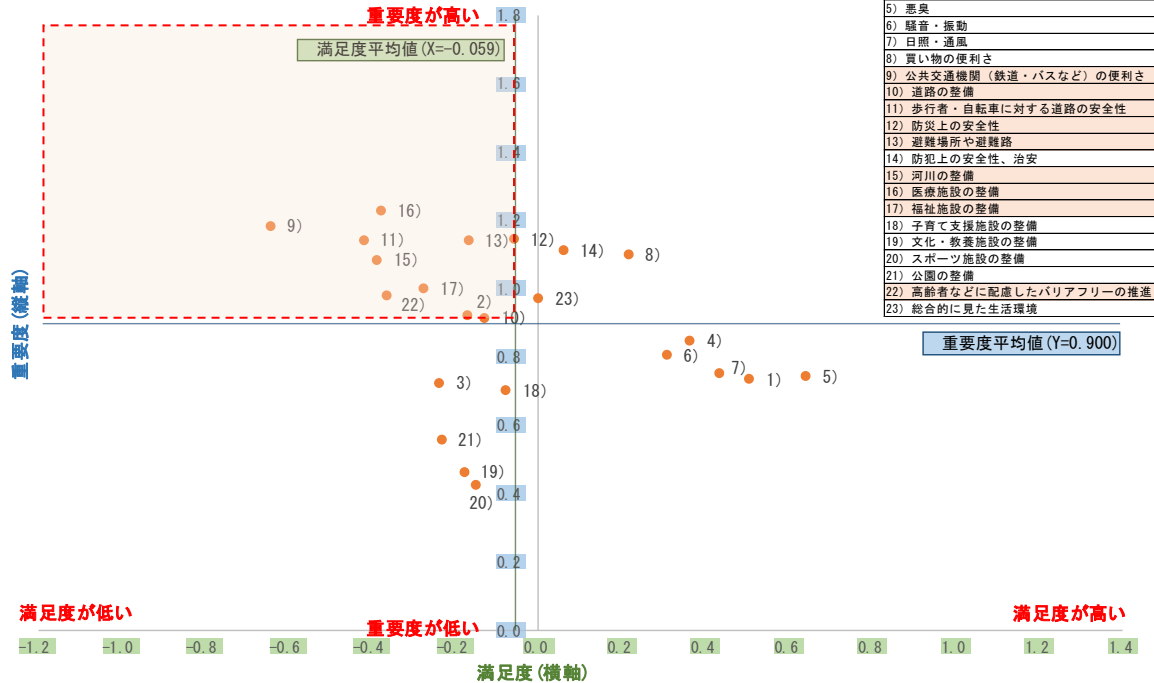


図. 年齢別の満足度と重要度の相関（50 歳代）

60 歳代では、平均より重要度は高いが満足度が低い項目として、「15) 河川の整備」、「9) 公共交通機関（鉄道・バスなど）の便利さ」などの 10 項目があがっています。

■年齢別（60 歳代）

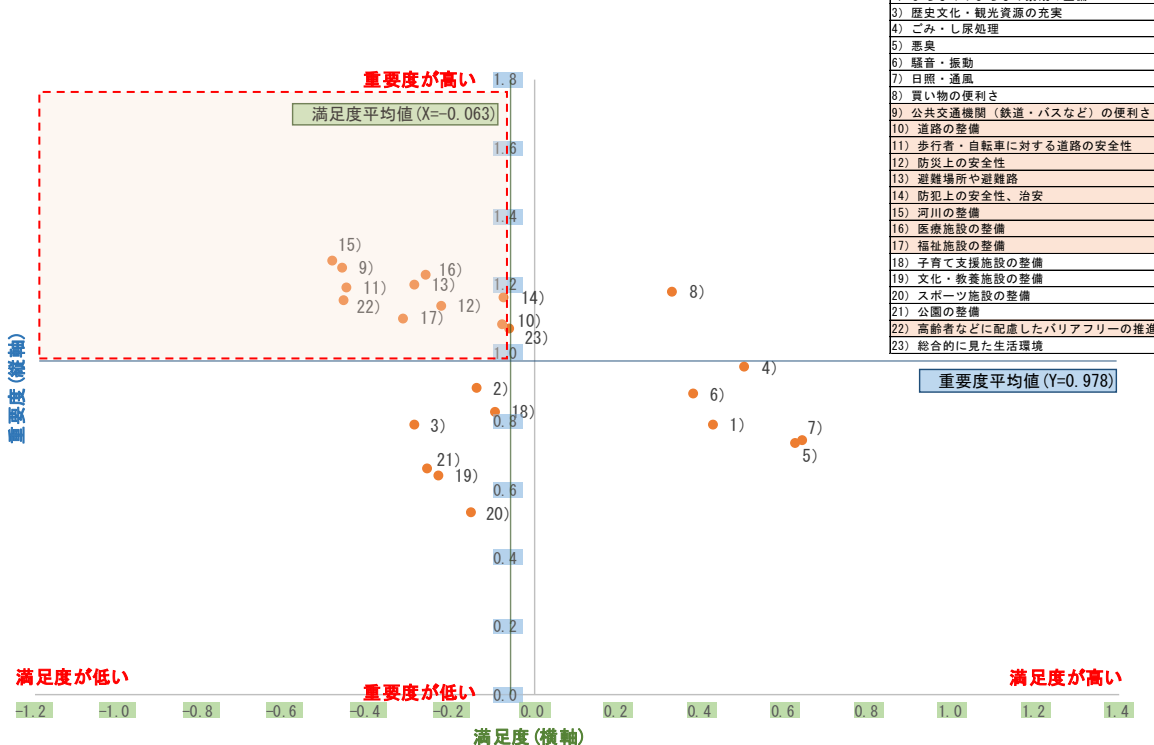


図. 年齢別の満足度と重要度の相関（60 歳代）

70 歳代以上では、平均より重要度は高いが満足度が低い項目として、「9) 公共交通機関（鉄道・バスなど）の便利さ」、「22) 高齢者などに配慮したバリアフリーの推進」などの9項目があがっています。

■年齢別（70 歳代以上）

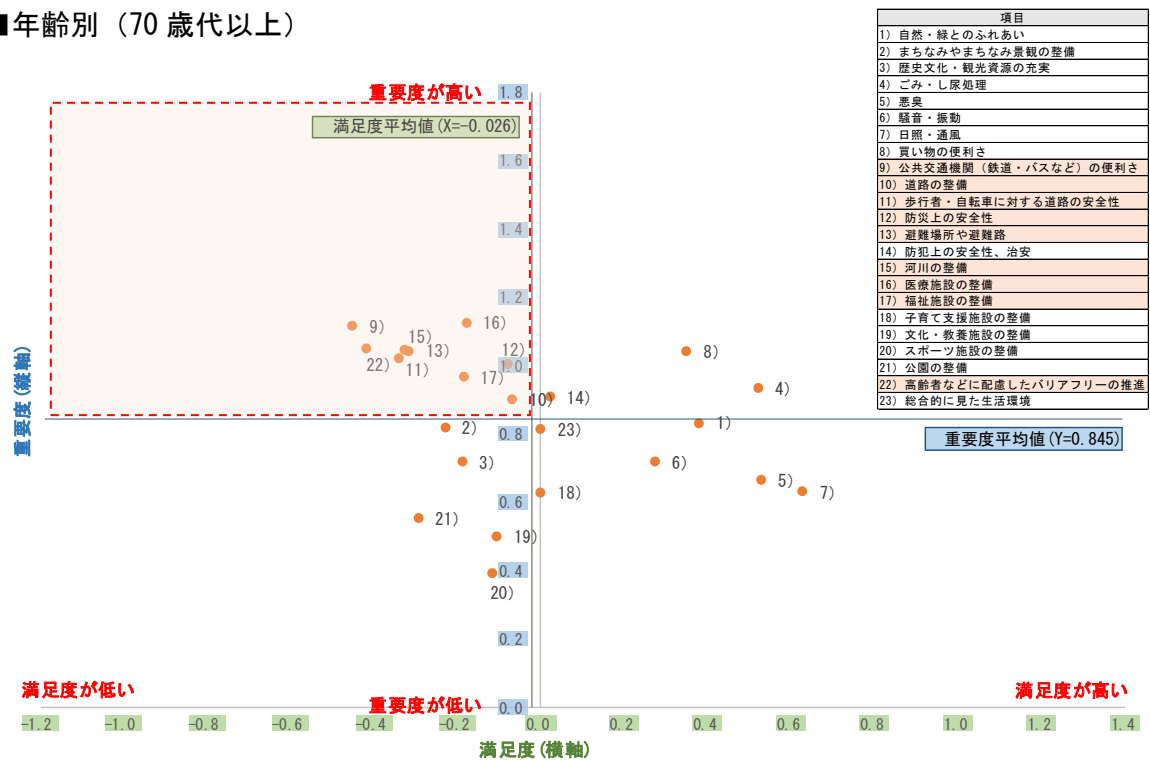


図. 年齢別の満足度と重要度の相関（70 歳代）

北地区では、平均より重要度は高いが満足度が低い項目として、「9) 公共交通機関（鉄道・バスなど）の便利さ」、「22) 高齢者などに配慮したバリアフリーの推進」などの11項目があがっています。

■地区別（北地区）

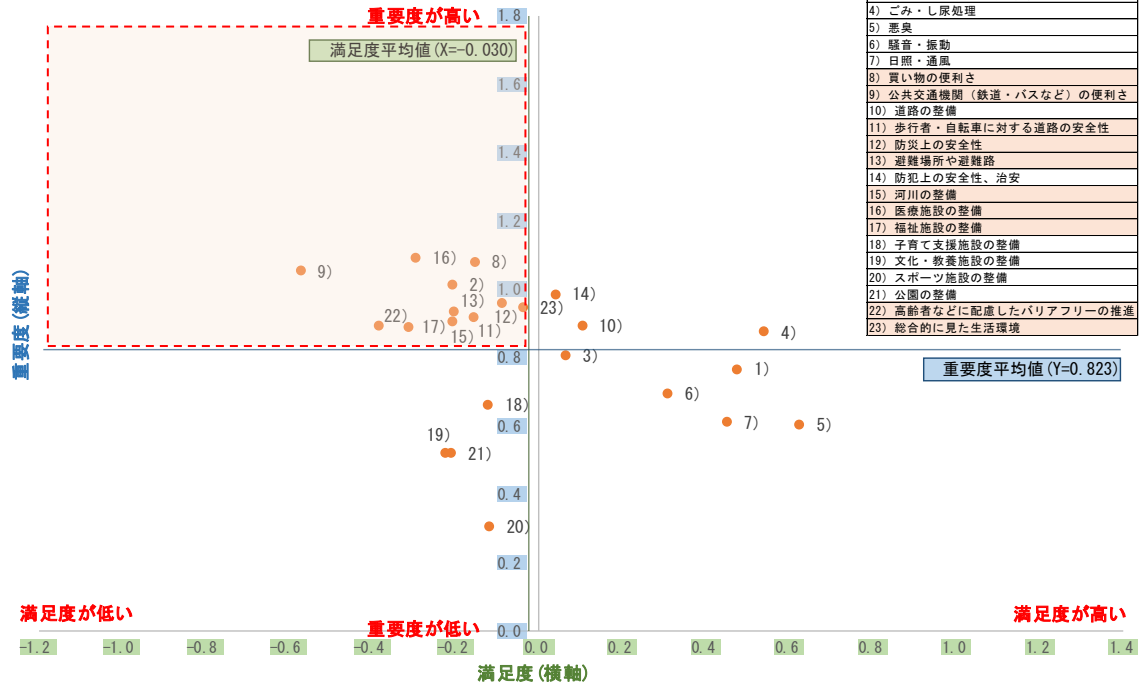


図. 地区別の満足度と重要度の相関（北地区）

南地区では、平均より重要度は高いが満足度が低い項目として、「15) 河川の整備」、「11) 歩行者・自転車に対する道路の安全性」などの9項目があがっています。

■地区別（南地区）

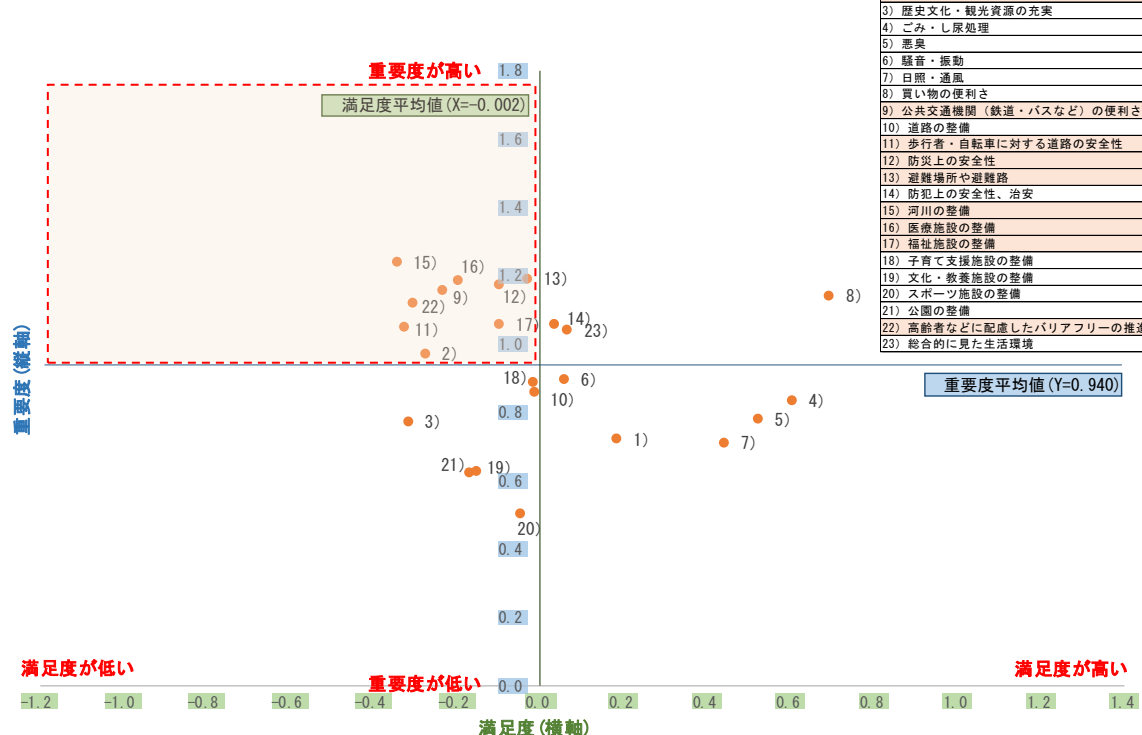


図. 地区別の満足度と重要度の相関（南地区）



西地区では、平均より重要度は高いが満足度が低い項目として、「15) 河川の整備」、  
「13) 避難場所や避難路」などの10項目があがっています。

■地区別（西地区）

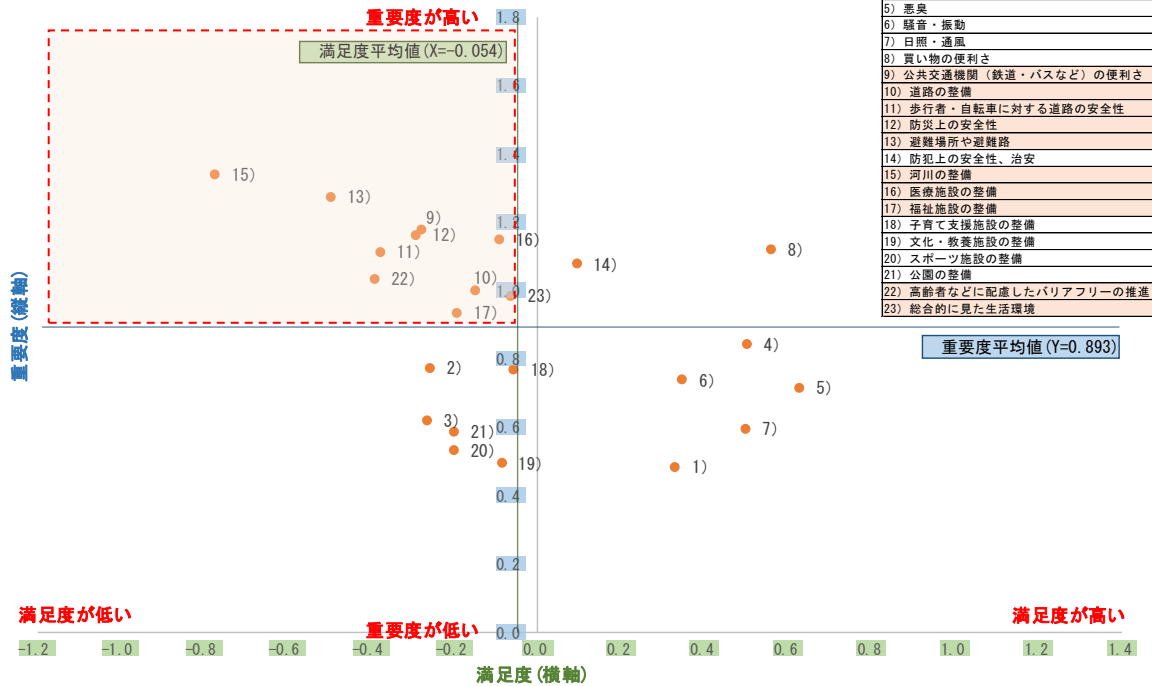


図. 地区別の満足度と重要度の相関（西地区）

松原地区では、平均より重要度は高いが満足度が低い項目として、「9) 公共交通機関（鉄道・バスなど）の便利さ」、  
「11) 歩行者・自転車に対する道路の安全性」などの9項目があがっています。

■地区別（松原地区）

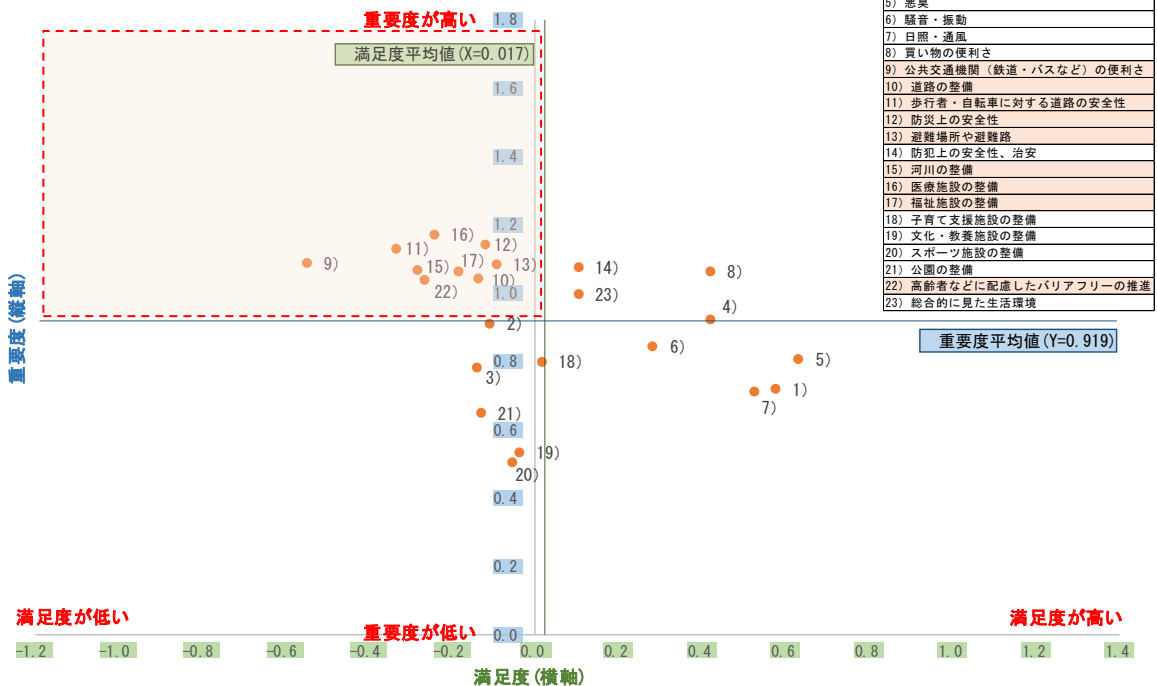


図. 地区別の満足度と重要度の相関（松原地区）

西浦地区では、平均より重要度は高いが満足度が低い項目として、「9) 公共交通機関（鉄道・バスなど）の便利さ」、「16) 医療施設の整備」、「17) 福祉施設の整備」などの10項目があがっています。

■地区別（西浦地区）

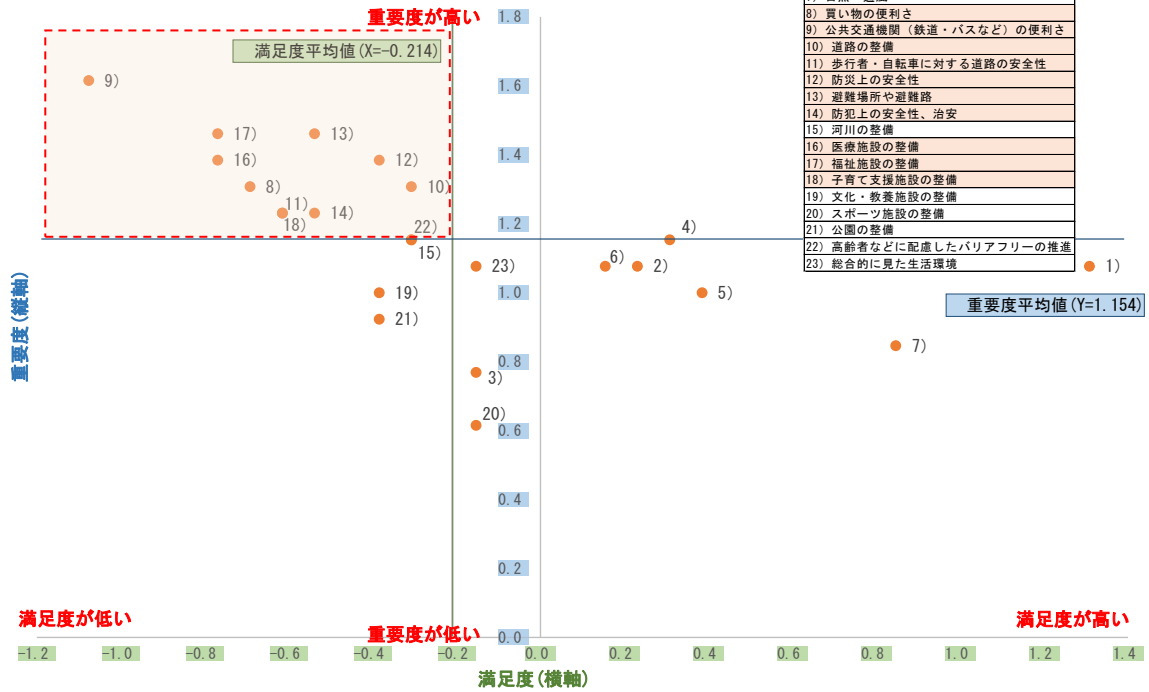


図. 地区別の満足度と重要度の相関（西浦地区）

東浦地区では、平均より重要度は高いが満足度が低い項目として、「9) 公共交通機関（鉄道・バスなど）の便利さ」、「8) 買い物の便利さ」などの9項目があがっています。

■地区別（東浦地区）

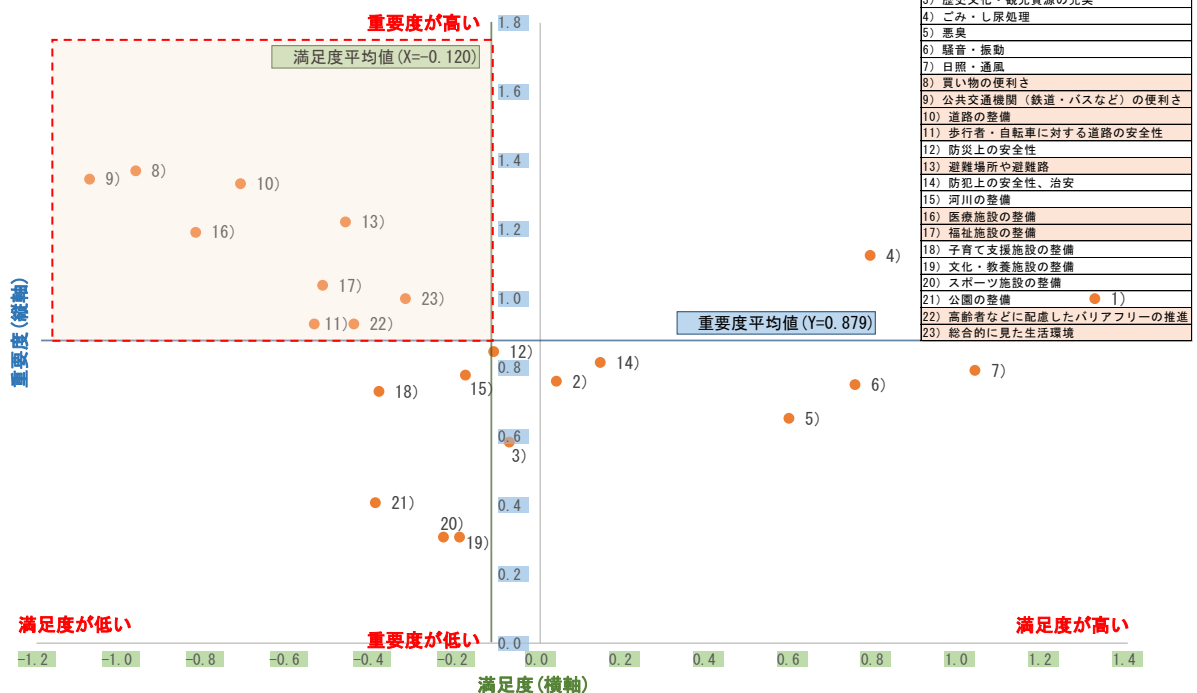


図. 地区別の満足度と重要度の相関（東浦地区）

東郷地区では、平均より重要度は高いが満足度が低い項目として、「9) 公共交通機関（鉄道・バスなど）の便利さ」、「8) 買い物の便利さ」などの11項目があがっています。

■地区別（東郷地区）

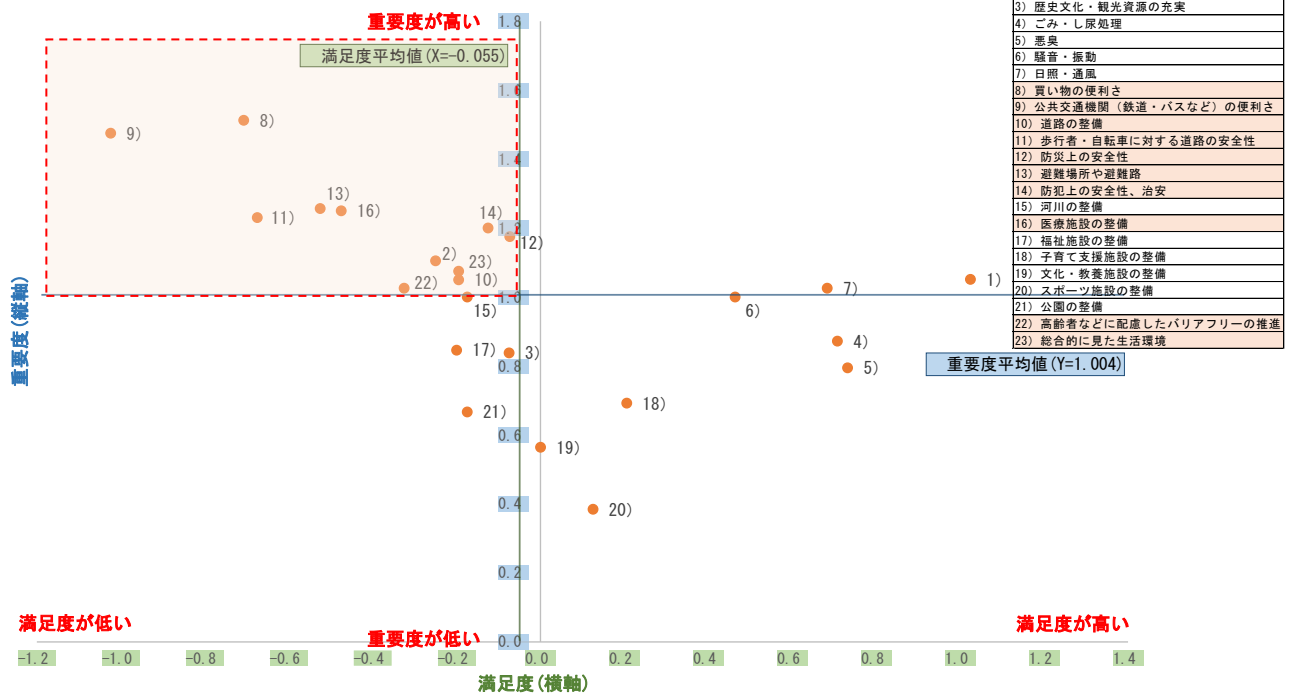


図. 地区別の満足度と重要度の相関（東郷地区）

中郷地区では、平均より重要度は高いが満足度が低い項目として、「9) 公共交通機関（鉄道・バスなど）の便利さ」、「11) 歩行者・自転車に対する道路の安全性」などの9項目があがっています。

■地区別（中郷地区）

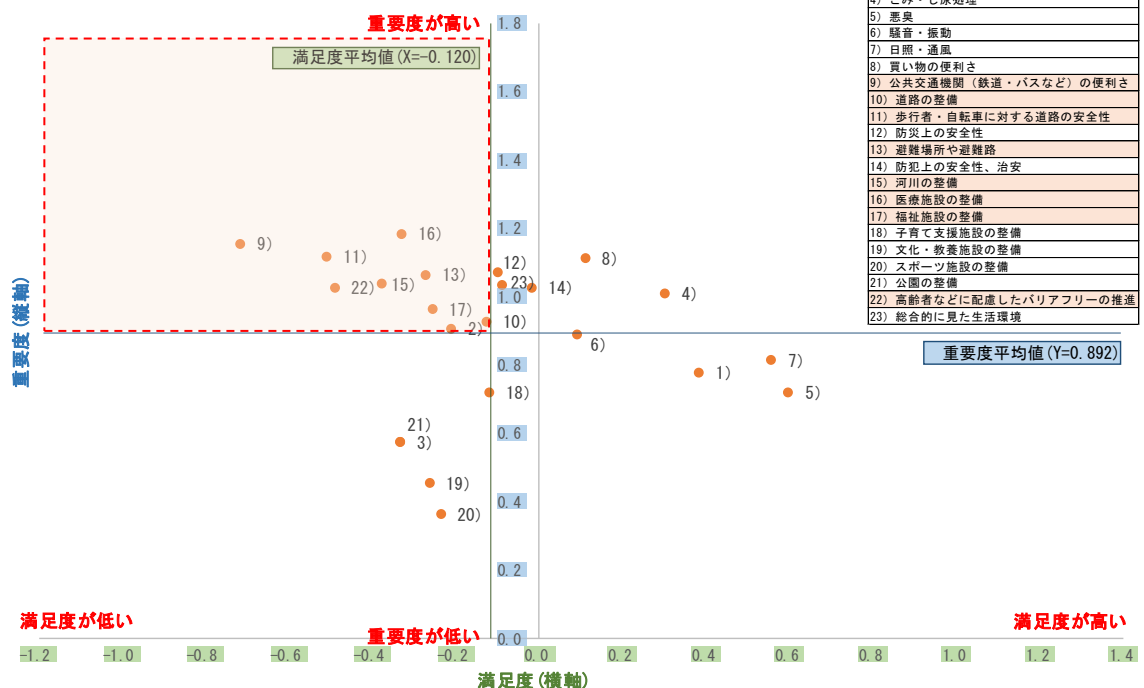


図. 地区別の満足度と重要度の相関（中郷地区）

愛発地区では、平均より重要度は高いが満足度が低い項目として、「9) 公共交通機関（鉄道・バスなど）の便利さ」、「17) 福祉施設の整備」などの 10 項目があがっています。

■地区別（愛発地区）

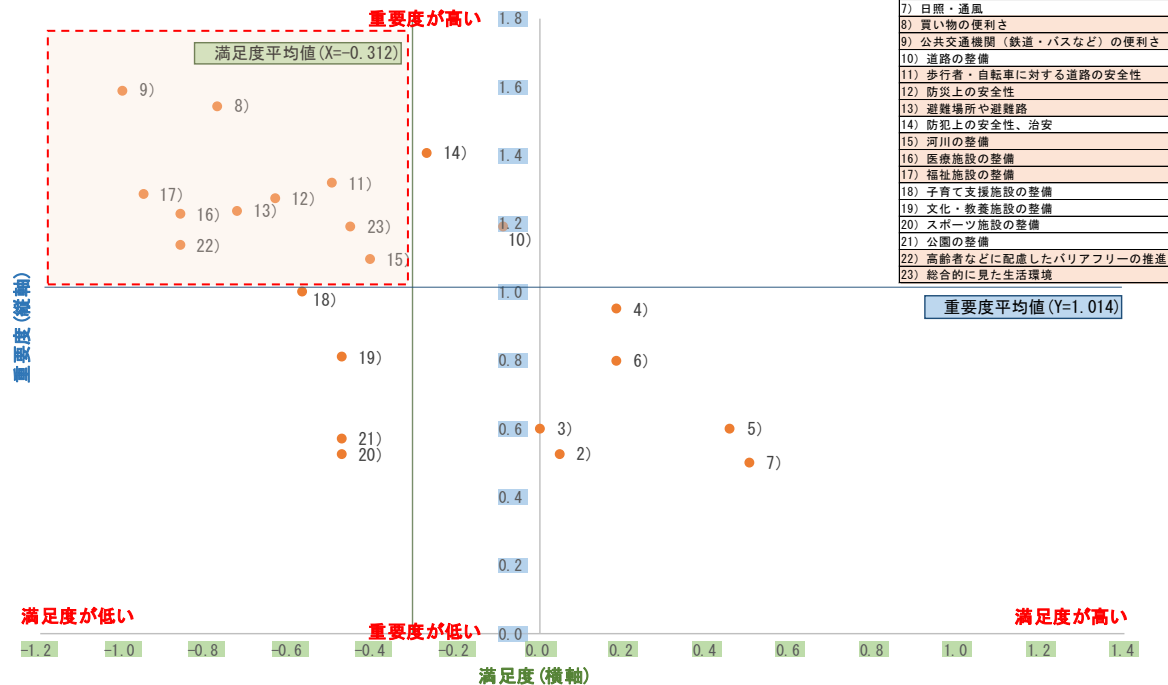


図. 地区別の満足度と重要度の相関（愛発地区）

栗野地区では、平均より重要度は高いが満足度が低い項目として、「9) 公共交通機関（鉄道・バスなど）の便利さ」、「11) 歩行者・自転車に対する道路の安全性」などの 9 項目があがっています。

■地区別（栗野地区）

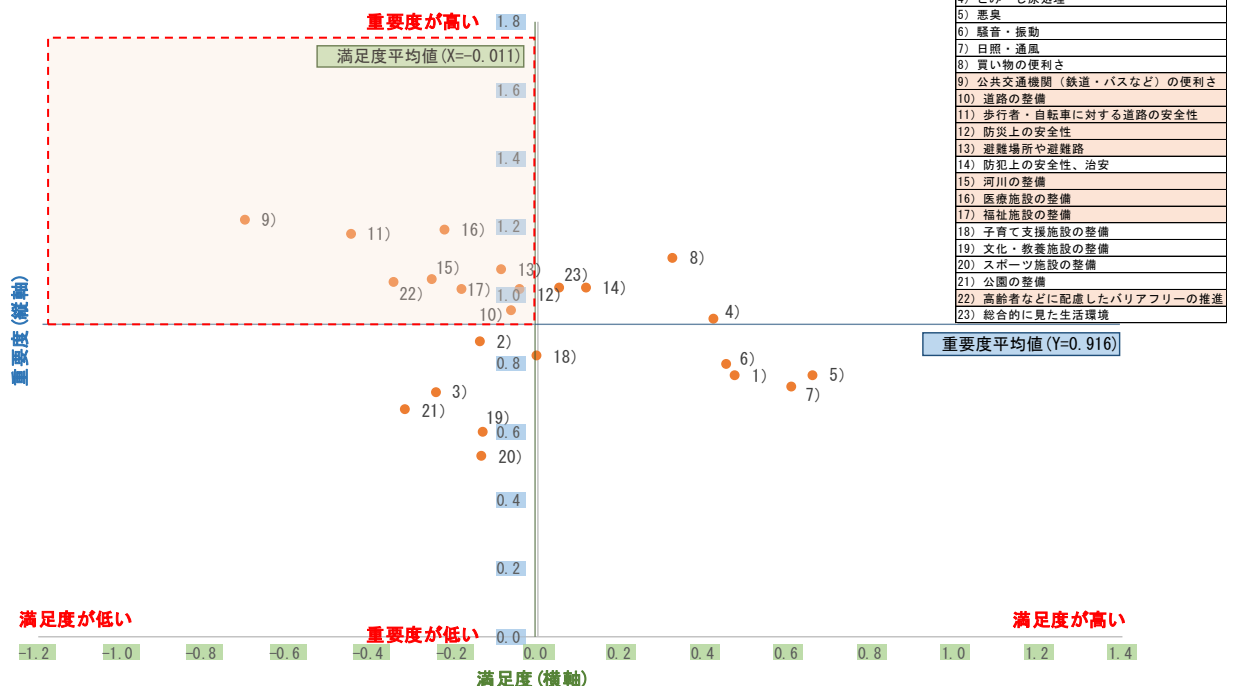


図. 地区別の満足度と重要度の相関（栗野地区）

## 問10. 居住地域における現在の土地や建物の状況について

居住地域における現在の土地や建物の状況については、「そう思う」と「少しそう思う」の合計で「空き家が増えてきた」が58.2%を占め最も割合が高く、次いで「集合住宅（アパートなど）が増えてきた」（48.2%）、「管理されていない空き地が増えてきた」（46.7%）と続きます。

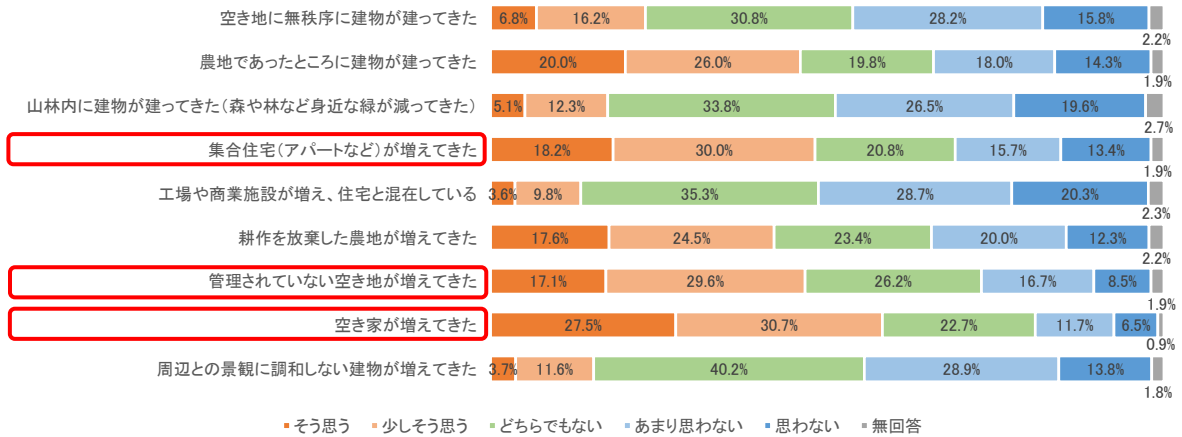


図. 居住地域における現在の土地や建物の状況について <N=1,190>

地区別に見ると、「そう思う」と「少しそう思う」の合計で、北地区、南地区、西地区、松原地区、東浦地区、東郷地区、愛発地区では「空き家が増えてきた」、西浦地区では「耕作を放棄した農地が増えてきた」、中郷地区では「集合住宅（アパートなど）が増えてきた」、栗野地区では「農地であったところに建物が建ってきた」の割合が最も高くなっています。

### ■地区別（北地区）

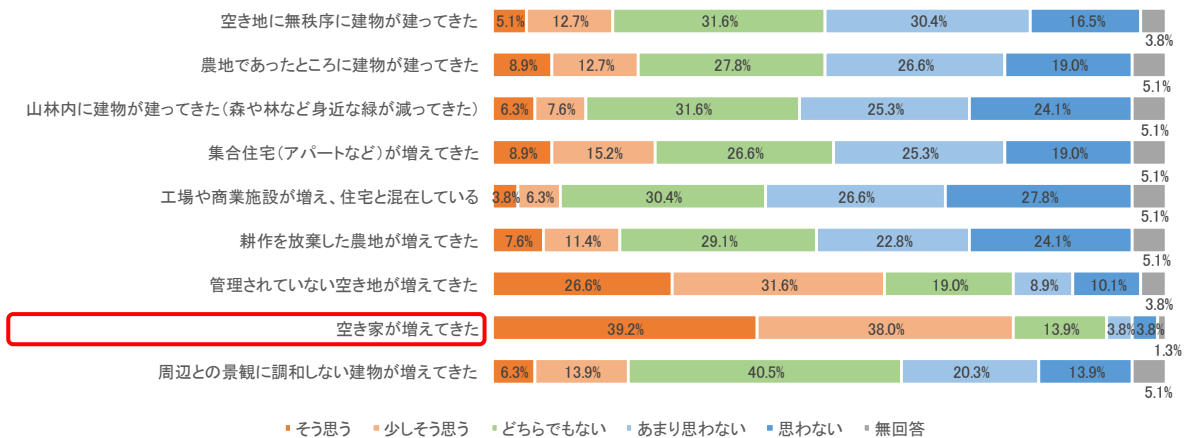


図. 居住地域における現在の土地や建物の状況について（北地区） <N=79>

## ■ 地区別（南地区）

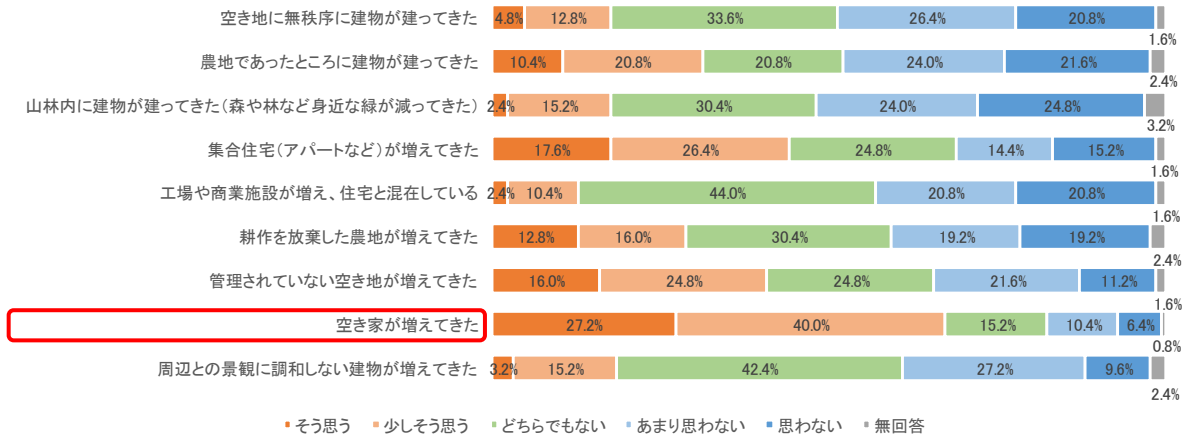


図. 居住地域における現在の土地や建物の状況について（南地区） 〈N=125〉

## ■ 地区別（西地区）

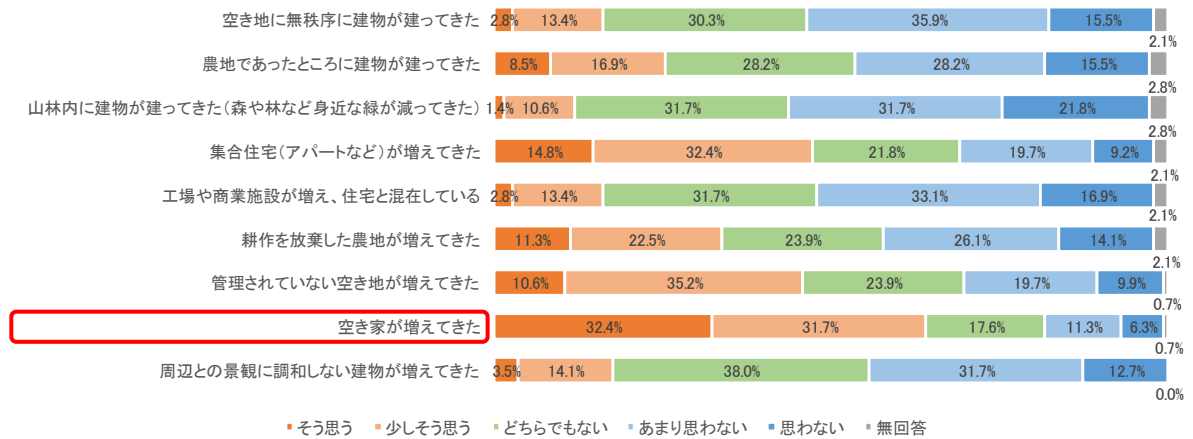


図. 居住地域における現在の土地や建物の状況について（西地区） 〈N=142〉

## ■ 地区別（松原地区）

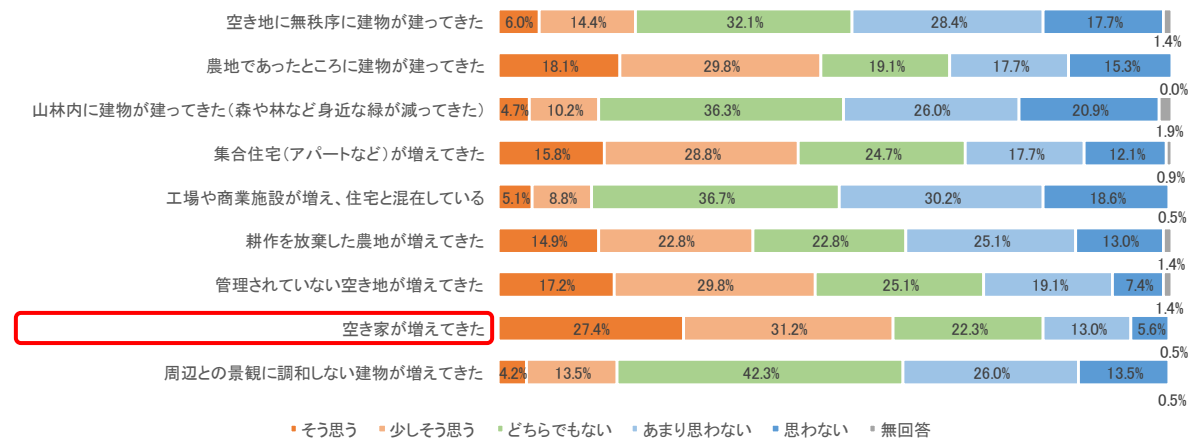


図. 居住地域における現在の土地や建物の状況について（松原地区） 〈N=215〉

## ■ 地区別（西浦地区）

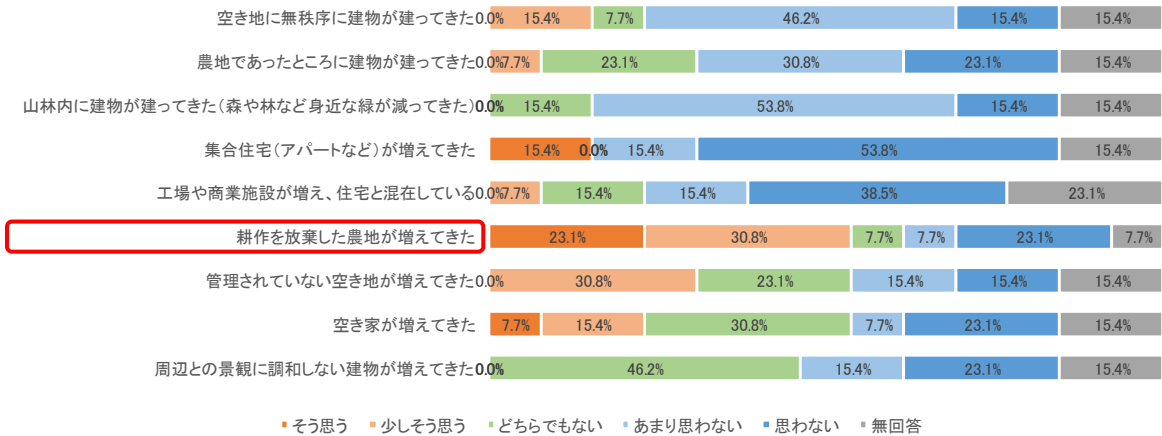


図. 居住地域における現在の土地や建物の状況について（西浦地区） 〈N=13〉

## ■ 地区別（東浦地区）

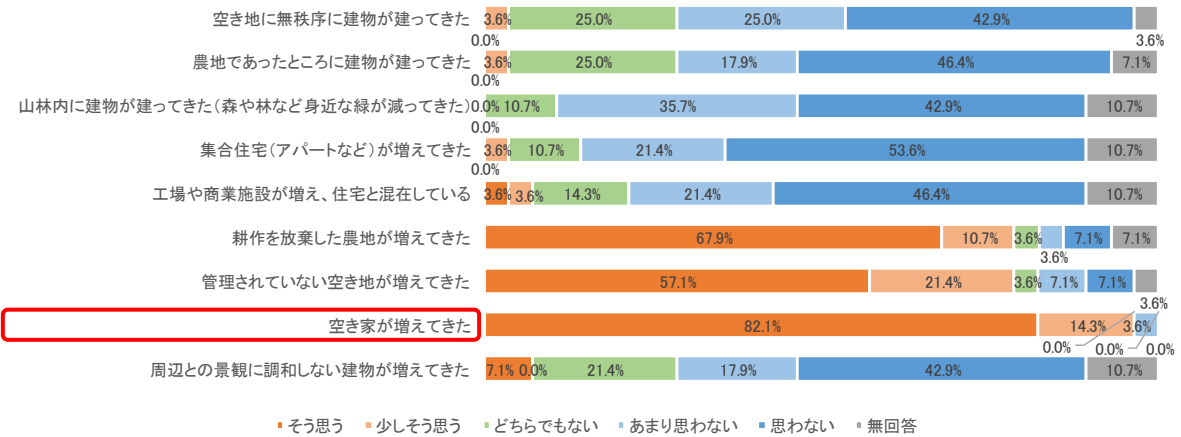


図. 居住地域における現在の土地や建物の状況について（東浦地区） 〈N=28〉

## ■ 地区別（東郷地区）

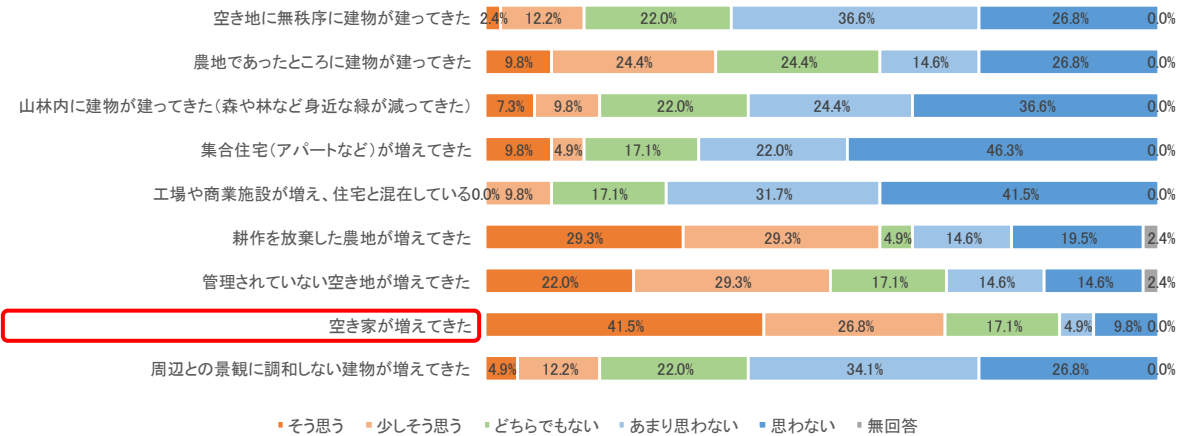


図. 居住地域における現在の土地や建物の状況について（東郷地区） 〈N=41〉

## ■ 地区別（中郷地区）

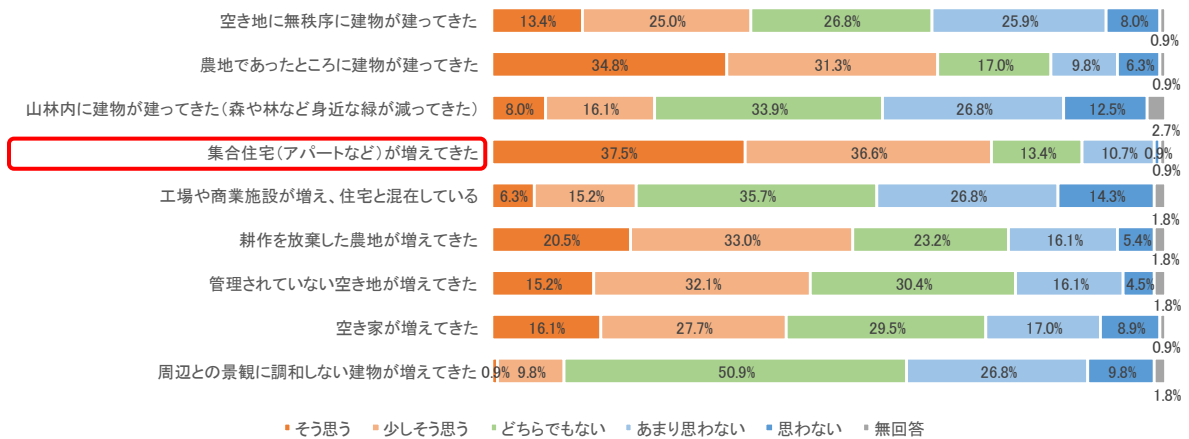


図. 居住地域における現在の土地や建物の状況について（中郷地区） 〈N=112〉

## ■ 地区別（愛発地区）

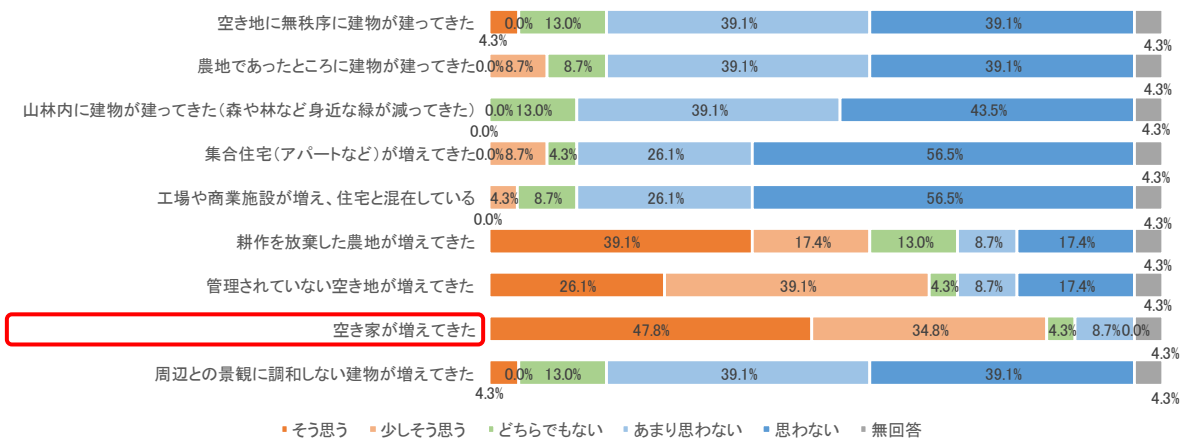


図. 居住地域における現在の土地や建物の状況について（愛発地区） 〈N=23〉

## ■ 地区別（栗野地区）

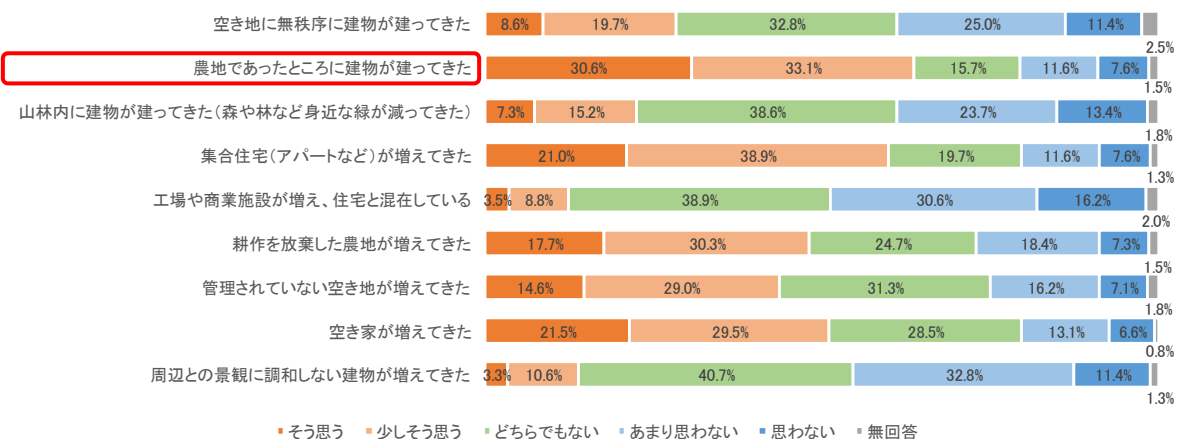


図. 居住地域における現在の土地や建物の状況について（栗野地区） 〈N=396〉



## 問 1 1. 生活行動の主な「行き先」と「交通手段」について

生活行動の主な「行き先」については、自宅・自宅周辺への「買い物（毎日の食料品など）」（35.1%）、その他の地区への「公共施設の利用」（40.7%）、「買い物（家電・家具・衣料品など）」（40.6%）、「病院等医療施設への通院」（40.4%）、「公園・広場やスポーツ・レクリエーション施設の利用」（34.2%）、「金融機関の利用」（31.7%）、「教養・文化活動」（31.4%）が3割を超えて高くなっています。

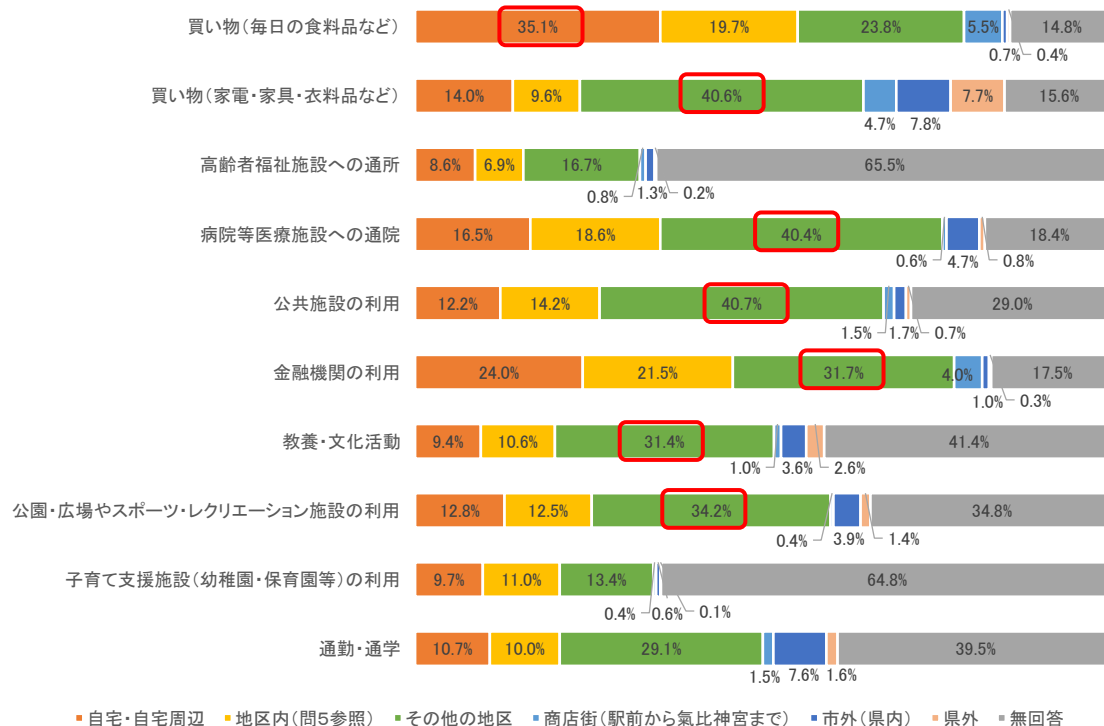


図. 生活行動の主な「行き先」について <N=1,190>

生活行動の主な「交通手段」については、大半の行き先への交通手段は車・バイクであり、「子育て支援施設（幼稚園・保育園等）の利用」（32.4%）、「高齢者福祉施設への通所」（30.4%）、以外は過半数を超えています。

特に、「買い物（家電・家具・衣料品など）」（87.5%）、「買い物（毎日の食料品など）」（83.9%）、「病院等医療施設への通院」（83.5%）は、8割を超えて高くなっています。

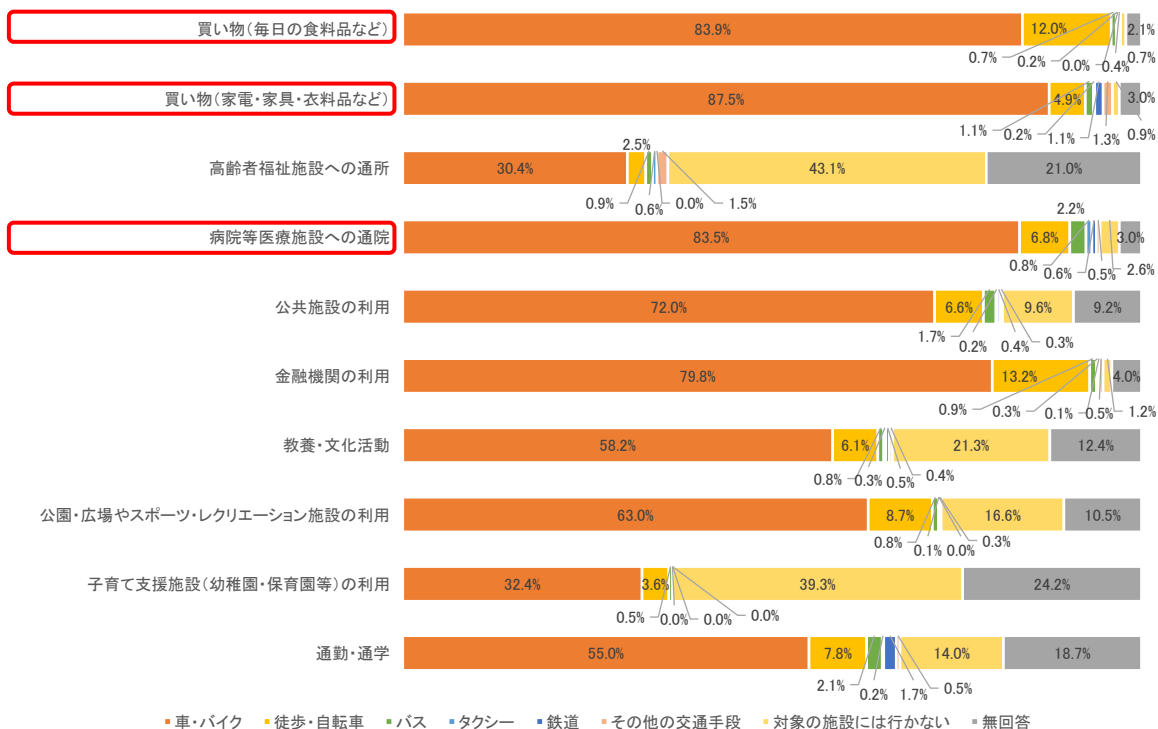
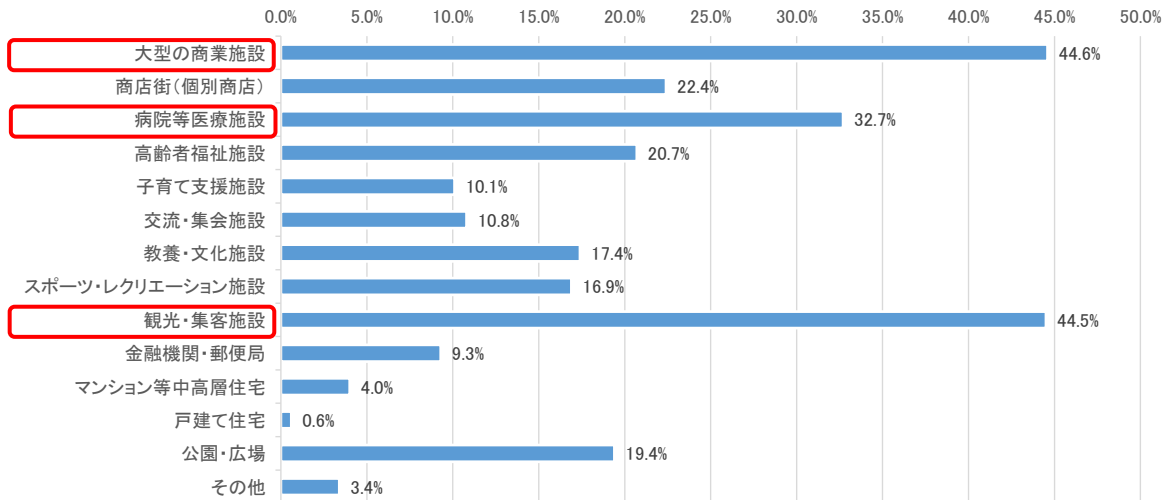


図. 生活行動の主な「交通手段」について <N=1,190>

## 2-3. 敦賀市の将来像について

### 問12. 中心市街地に必要な施設（機能）について

中心市街地に必要な施設（機能）については、「大型の商業施設」が44.6%を占め最も割合が高く、次いで「観光・集客施設」（44.5%）、「病院等医療施設」（32.7%）と続きます。



※無回答は表示していない

図. 中心市街地に必要な施設（機能）について 〈複数回答、N=1,190〉

年齢別に見ると、10歳代～50歳代では、全体と同様に「大型の商業施設」、「観光・集客施設」、「病院等医療施設」の順に高い割合を示していますが、60歳代では、「観光・集客施設」が最も高く、次いで「大型の商業施設」と「病院等医療施設」が続き、70歳代以上では、「病院等医療施設」、「高齢者福祉施設」、「観光・集客施設」の順となっています。

#### ■年齢別（10歳代）

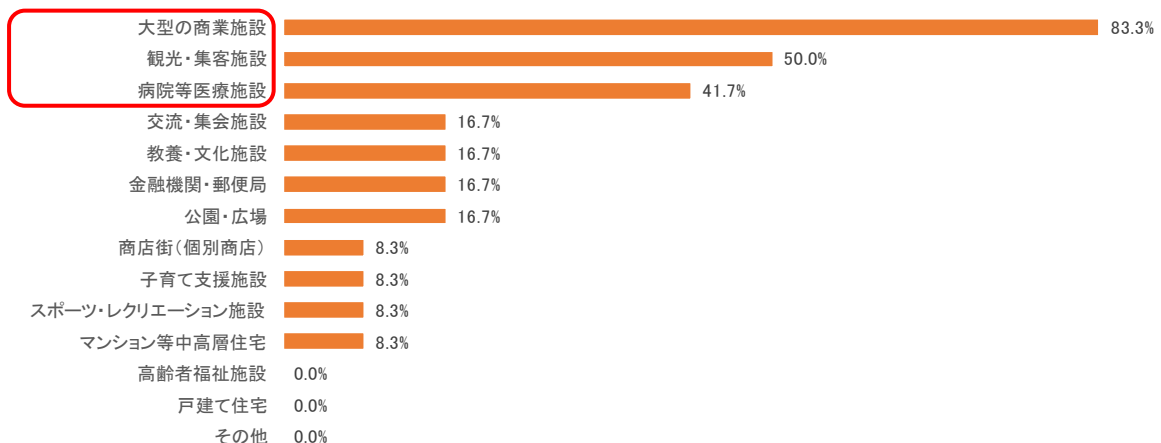


図. 中心市街地に必要な施設（機能）について（10歳代） 〈複数回答、N=12〉

### ■年齢別（20 歳代）

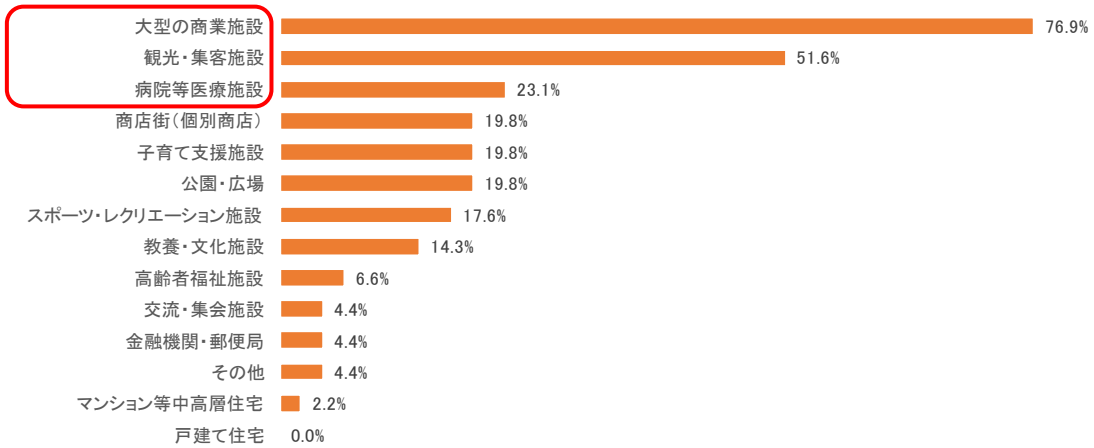


図. 中心市街地に必要な施設（機能）について（20 歳代）〈複数回答、N=91〉

### ■年齢別（30 歳代）

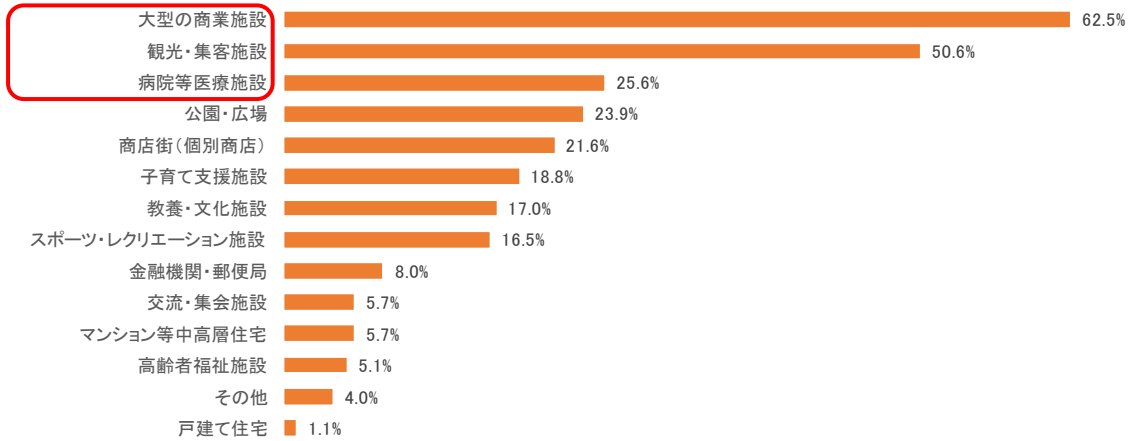


図. 中心市街地に必要な施設（機能）について（30 歳代）〈複数回答、N=176〉

### ■年齢別（40 歳代）

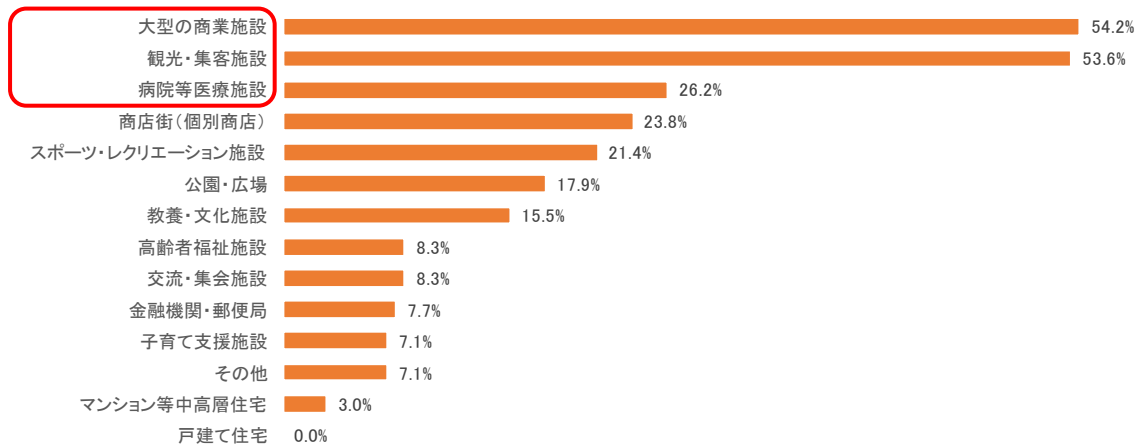


図. 中心市街地に必要な施設（機能）について（40 歳代）〈複数回答、N=168〉

### ■年齢別（50歳代）

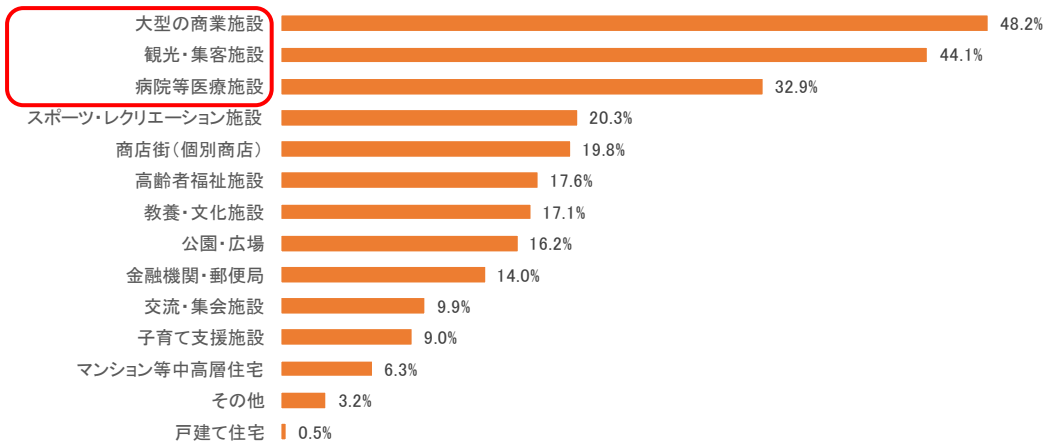


図. 中心市街地に必要な施設（機能）について（50歳代）〈複数回答、N=222〉

### ■年齢別（60歳代）

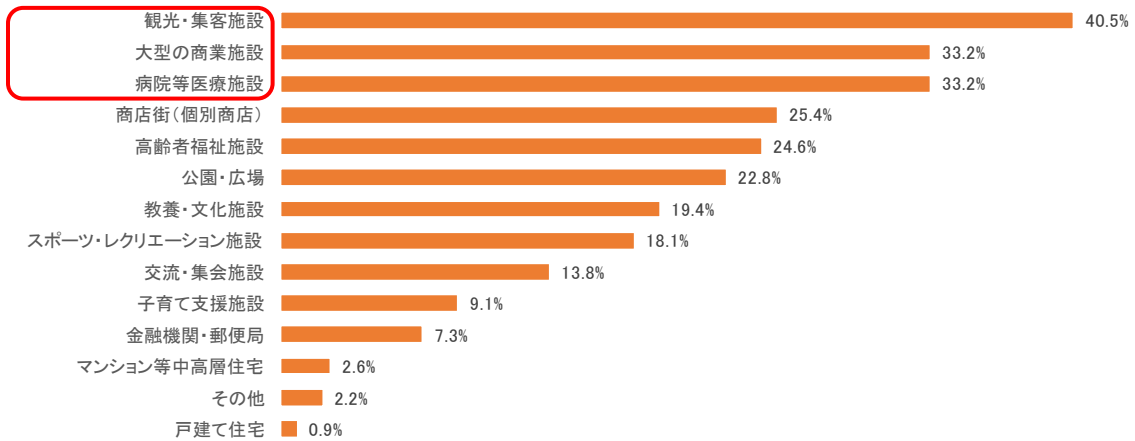


図. 中心市街地に必要な施設（機能）について（60歳代）〈複数回答、N=232〉

### ■年齢別（70歳代以上）

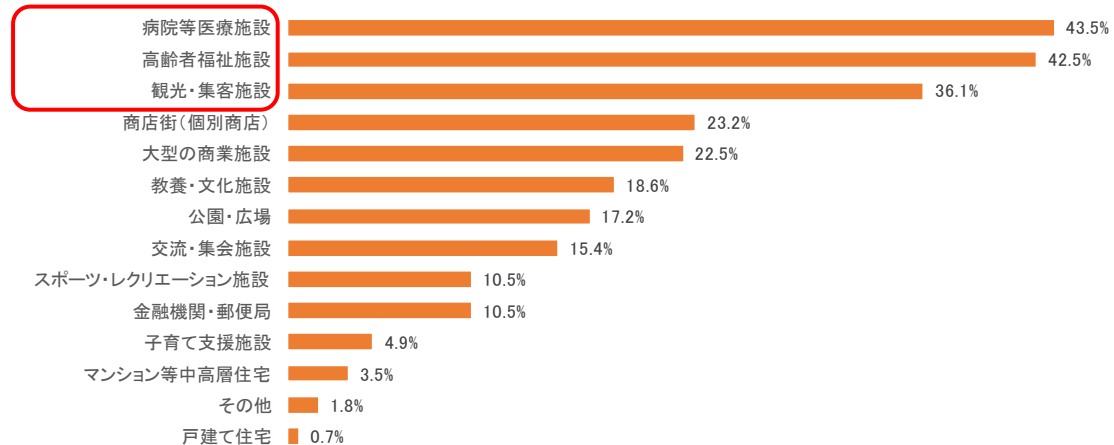


図. 中心市街地に必要な施設（機能）について（70歳代）〈複数回答、N=285〉

中心市街地に必要な施設を世帯構成別に見ると、“小・中・高校生の方がいる世帯”や“小・中・高校生、幼稚園児・保育園児、就学前児童の方がいる世帯”では、全体と同様に「大型の商業施設」、「観光・集客施設」、「病院等医療施設」の順に高い割合を示しています。

一方、“幼稚園児・保育園児の方がいる世帯”や“幼稚園・保育園に通っていない就学前児童の方がいる世帯”では、「大型の商業施設」、「観光・集客施設」、「公園・広場」の順となっており、“高齢者（65歳以上）の方がいる世帯”では、「観光・集客施設」、「病院等医療施設」、「大型の商業施設」の順となっています。

### ■世帯構成別（高齢者（65歳以上）の方がいる世帯）

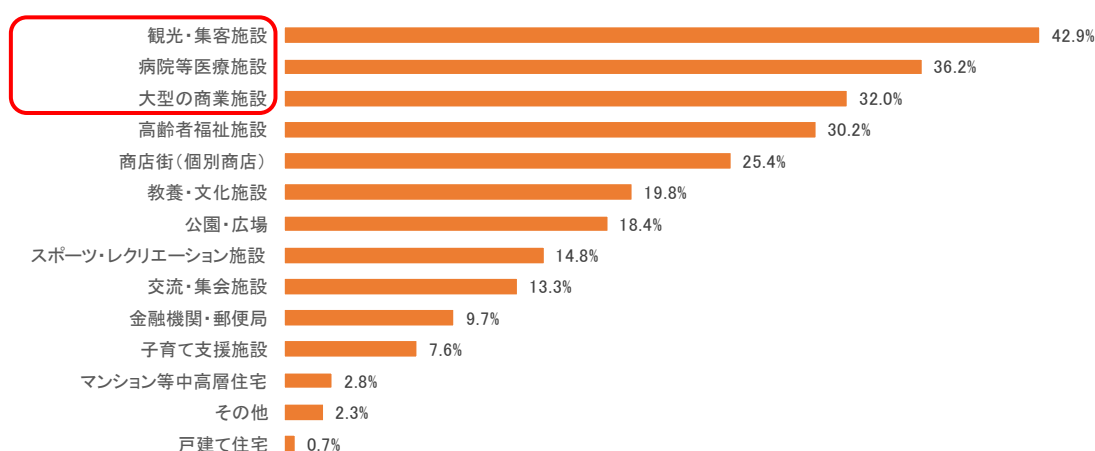


図. 中心市街地に必要な施設（機能）について 〈複数回答、N=566〉

### ■世帯構成別（小・中・高校生の方がいる世帯）

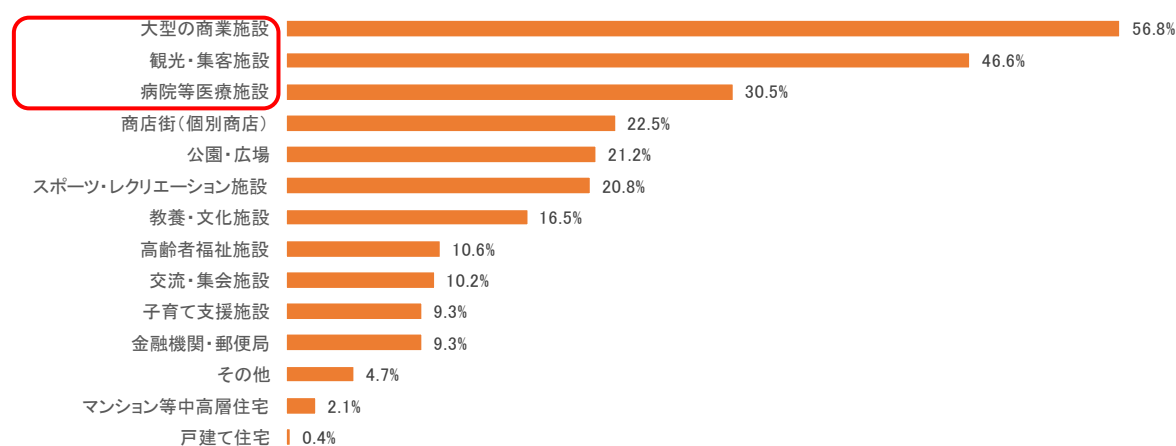


図. 中心市街地に必要な施設（機能）について 〈複数回答、N=236〉

■世帯構成別（幼稚園児・保育園児の方がいる世帯）

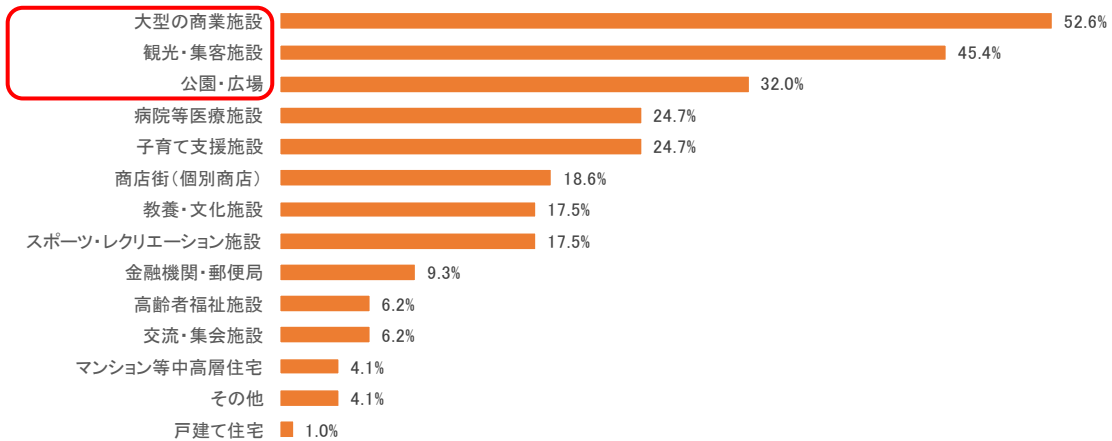


図. 中心市街地に必要な施設（機能）について 〈複数回答、N=97〉

■世帯構成別（幼稚園・保育園に通っていない就学前児童の方がいる世帯）

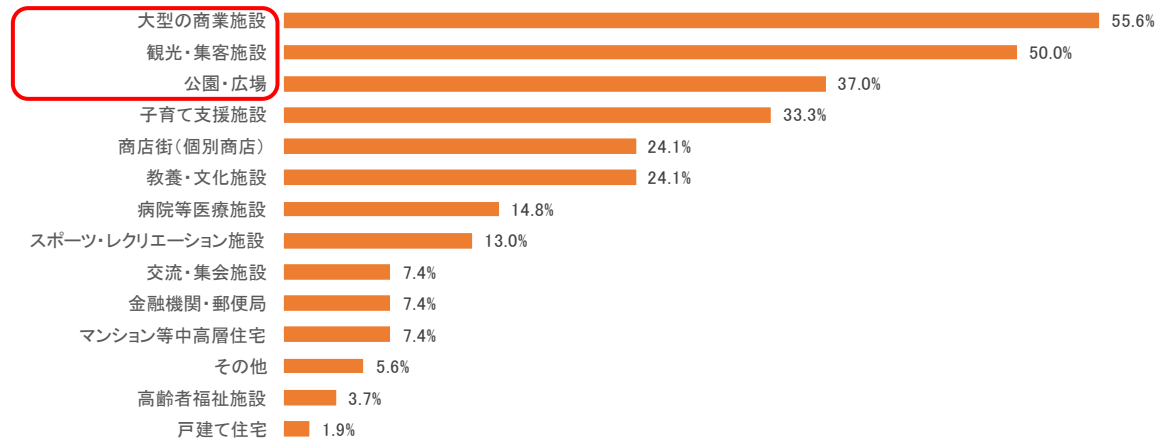


図. 中心市街地に必要な施設（機能）について 〈複数回答、N=54〉

■世帯構成別（小・中・高校生、幼稚園児・保育園児、就学前児童の方がいる世帯）

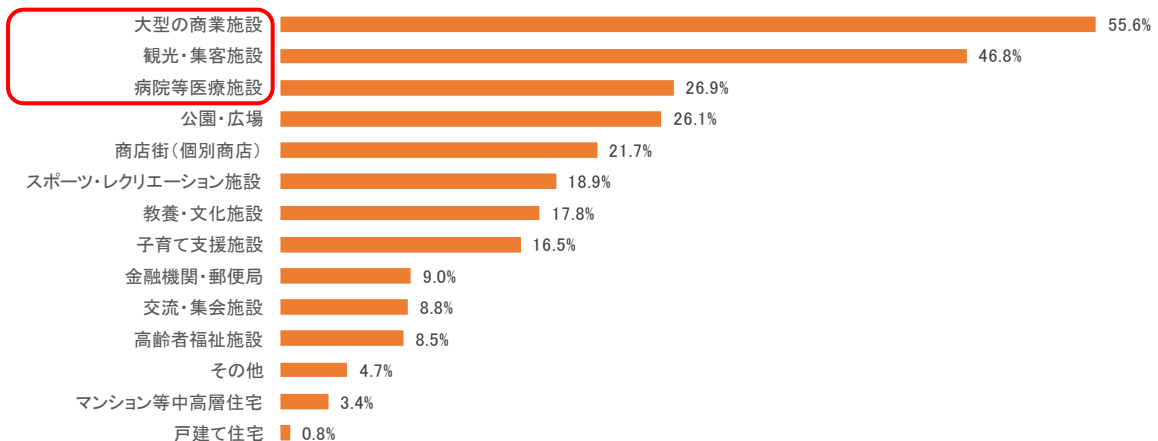


図. 中心市街地に必要な施設（機能）について 〈複数回答、N=387〉

### 問13. 今後の防災対策について

今後の防災対策については、「河川浸水対策」が33.4%を占め最も割合が高く、次いで「原子力安全対策」（20.7%）、「地震対策」（15.2%）と続きます。

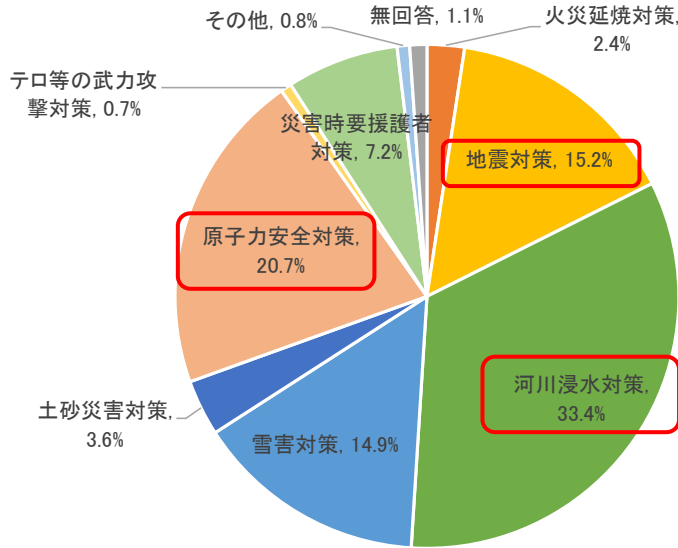


図. 今後の防災対策について <N=1,190>

地区別に見ると、北地区、南地区、西地区、松原地区、中郷地区、栗野地区では、「河川浸水対策」、西浦地区では、「河川浸水対策」及び「雪害対策」、東浦地区では、「災害時要援護者対策」、東郷地区では、「地震対策」、愛発地区では、「雪害対策」の割合が最も高くなっています。

#### ■地区別

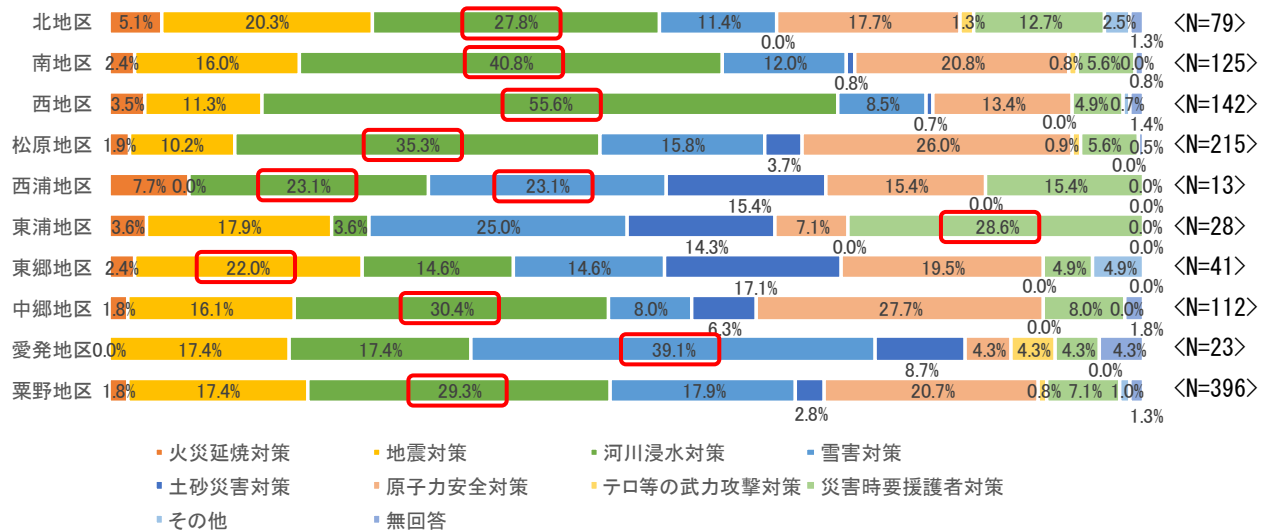


図. 今後の防災対策について <地区別、無回答を除く>



今後の防災対策について、前回調査と比較し、今回調査では「雪害対策」が6.7ポイント高くなっています。（その他を除く。）

### ■ 前回調査との比較

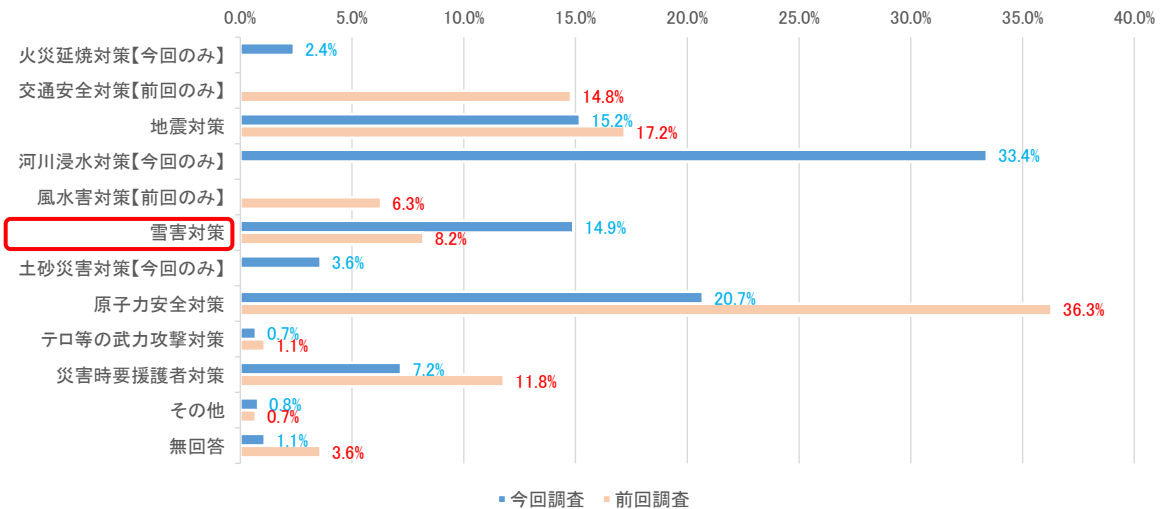


図. 今後の防災対策について <今回：N=1,190、前回：N=1,151>

### 問14. 今後の防災安全性について

今後の防災安全性については、「避難所の施設・設備が不十分（耐震化やバリアフリー化など）」が30.8%を占め最も割合が高く、次いで「特に防災安全性に問題はない」（28.8%）、「避難場所が遠く、行きにくい」（16.4%）と続きます。

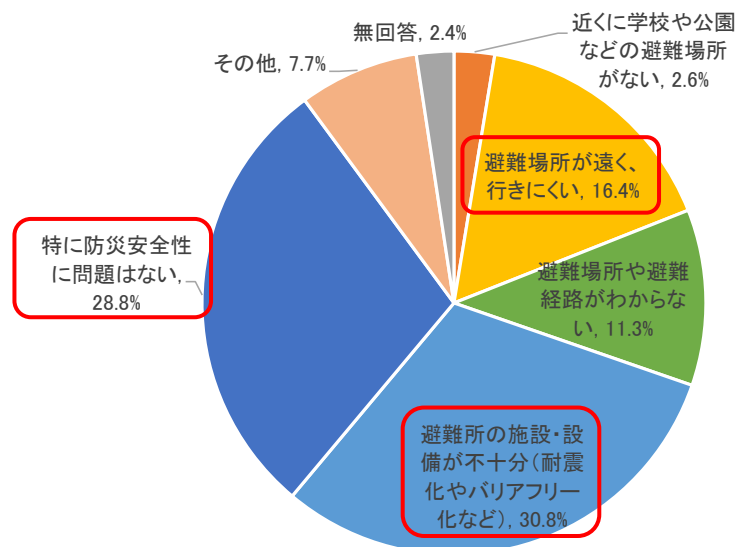


図. 今後の防災安全性について <N=1,190>

地区別に見ると、東浦地区、中郷地区、粟野地区では、「避難所の施設・設備が不十分（耐震化やバリアフリー化など）」、北地区、南地区、松原地区では、「特に防災安全性に問題はない」、西地区、東郷地区、愛発地区では、「避難場所が遠く、行きにくい」、西浦地区では、「避難場所が遠く、行きにくい」及び「避難所の施設・設備が不十分（耐震化やバリアフリー化など）」の割合が最も高くなっています。

## ■地区別

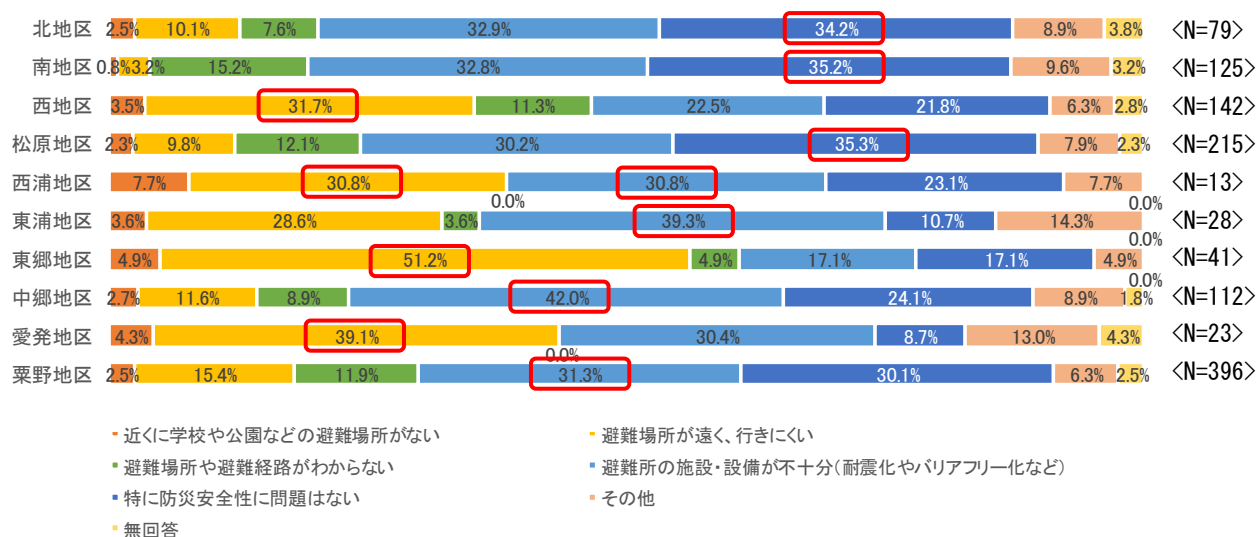


図. 今後の防災安全性について 〈地区別、無回答を除く〉

## 問15. 今後の景観づくりについて

今後の景観づくりについては、「中心市街地のメインストリート」が38.1%を占め最も割合が高く、次いで「JR敦賀駅周辺」（29.1%）、「敦賀湾一帯」（7.3%）と続きます。

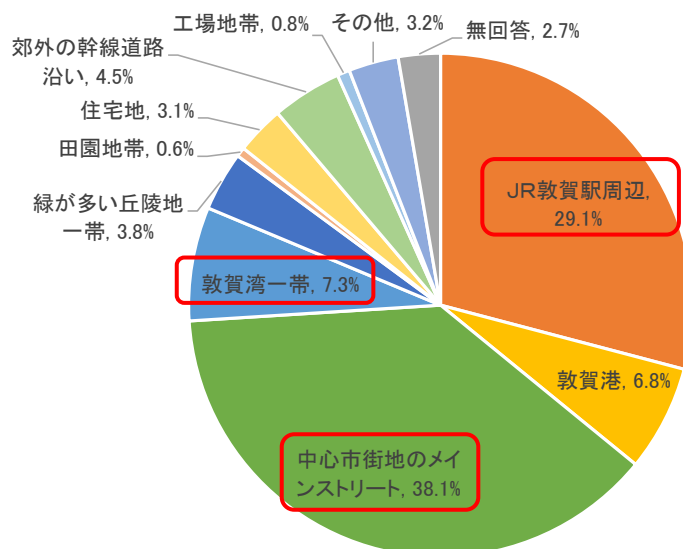


図. 今後の景観づくりについて <N=1,190>

今後の景観づくりについて、前回調査と比較し、今回調査では「中心市街地のメインストリート」が18.7ポイント、「敦賀湾」が1.7ポイント、「敦賀湾一帯」が0.2ポイント高くなっています。（その他を除く。）

また、JR敦賀駅周辺よりも中心市街地のメインストリートへの関心が高まっていることがわかります。

### ■ 前回調査との比較

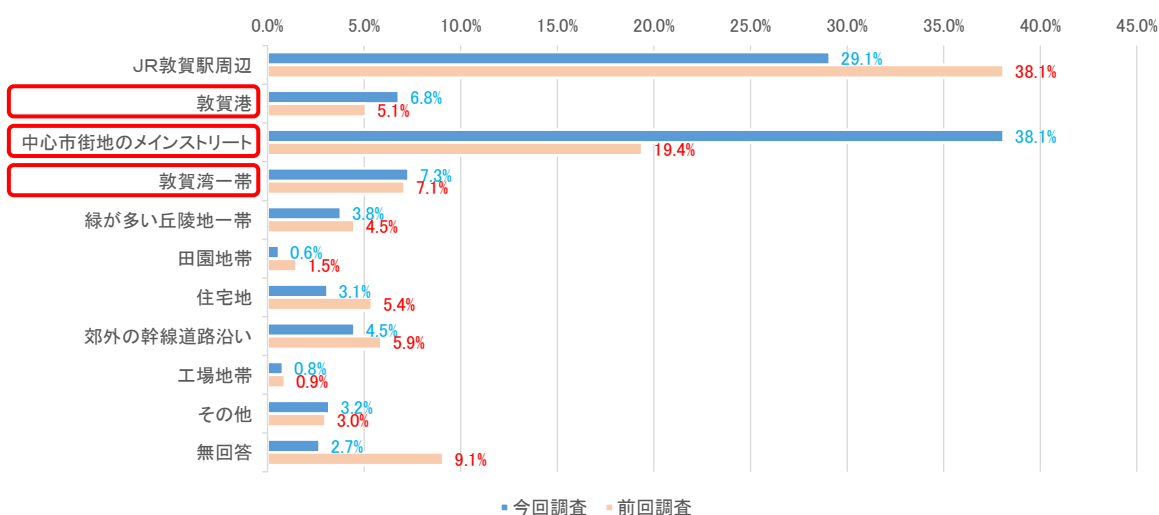


図. 今後の景観づくりについて <今回：N=1,190、前回：N=1,151>

## 問16. 今後の農地と宅地開発について

今後の農地と宅地開発については、「市民農園や観光農園の整備で農地を守るべき」が27.8%を占め最も割合が高く、次いで「わからない」（16.3%）、「宅地開発によって農地がなくなるのは仕方がない」（14.1%）と続きます。

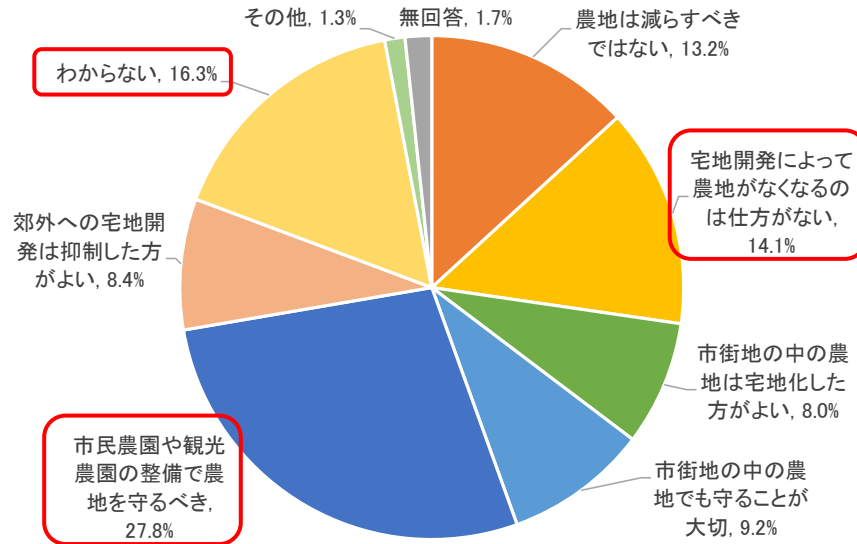


図. 今後の農地と宅地開発について <N=1,190>

今後の農地と宅地開発について、前回調査と比較し、今回調査では「宅地開発によって農地がなくなるのは仕方がない」が6.9ポイント、「わからない」が4.0ポイント、「市街地の中の農地は宅地化した方がよい」が2.9ポイント高くなっています。

また、農地は減らすべきではないといった考えから、宅地開発によって農地がなくなることは仕方がないといった考えに転換していることがわかります。

### ■ 前回調査との比較

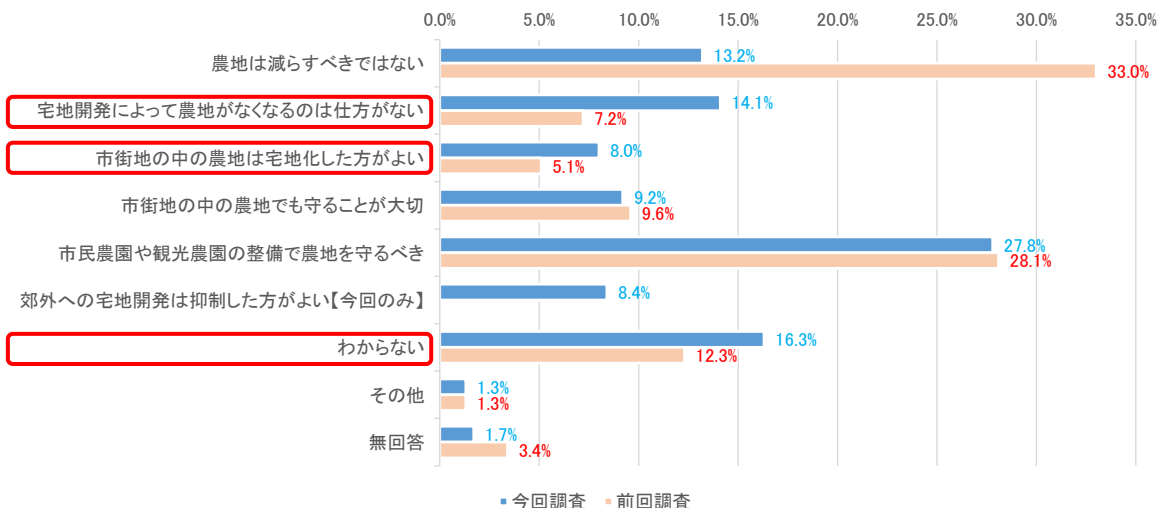
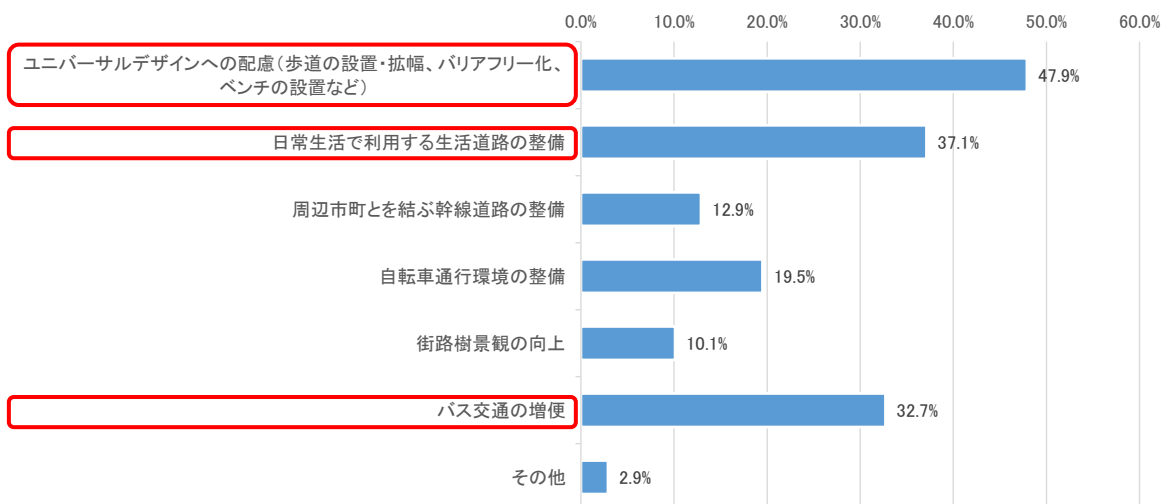


図. 今後の農地と宅地開発について <今回：N=1,190、前回：N=1,151>

### 問17. 今後の道路・交通について

今後の道路・交通については、「ユニバーサルデザインへの配慮（歩道の設置・拡幅、バリアフリー化、ベンチの設置など）」が47.9%を占め最も割合が高く、次いで「日常生活で利用する生活道路の整備」（37.1%）、「バス交通の増便」（32.7%）と続きます。



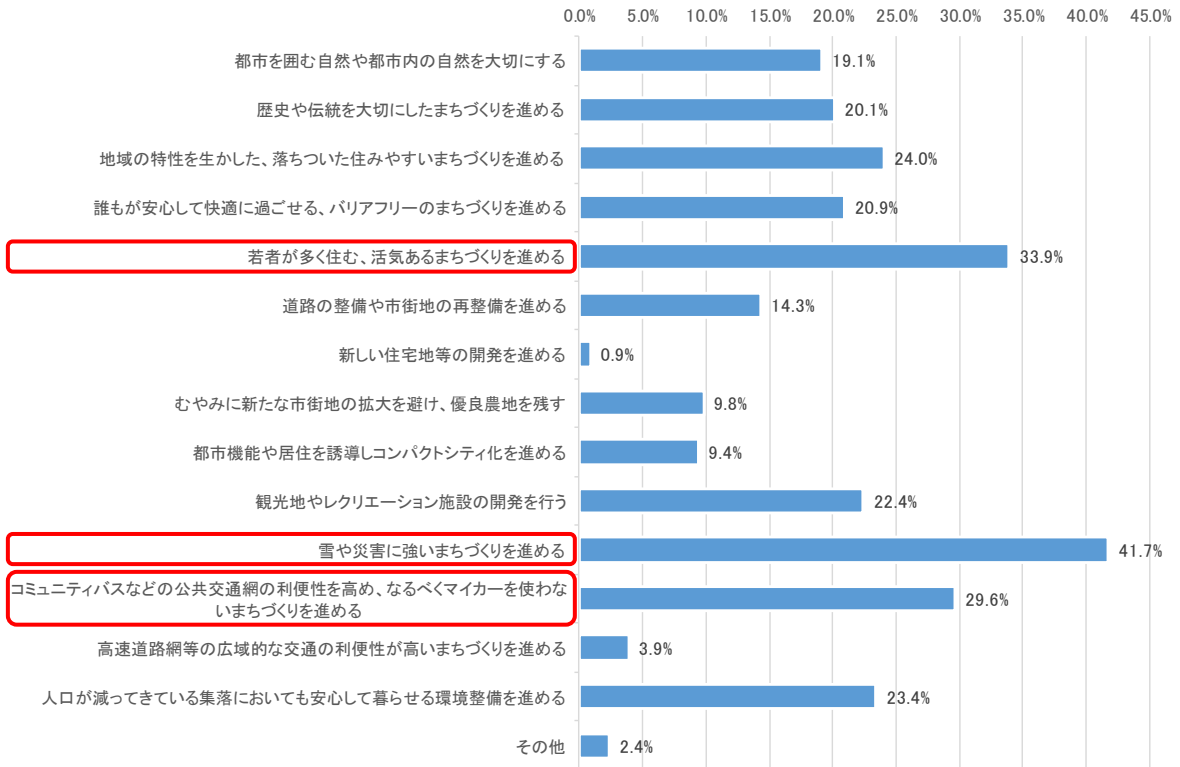
※無回答は表示していない

図. 今後の道路・交通について <複数回答、N=1,190>

## 2-4. 今後のまちづくりの方針について

### 問18. 敦賀市の今後のまちづくりの方針について

敦賀市の今後のまちづくりの方針については、「雪や災害に強いまちづくりを進める」が41.7%を占め最も割合が高く、次いで「若者が多く住む、活気あるまちづくりを進める」(33.9%)、「コミュニティバスなどの公共交通網の利便性を高め、なるべくマイカーを使わないまちづくりを進める」(29.6%)と続きます。



※無回答は表示していない

図. 敦賀市の今後のまちづくりの方針について <複数回答、N=1,190>

年齢別に見ると、20歳代～70歳代以上では、全体と同様に「雪や災害に強いまちづくりを進める」の割合が最も高くなっていますが、10歳代では、「若者が多く住む、活気あるまちづくりを進める」の割合が最も高くなっています。

### ■年齢別

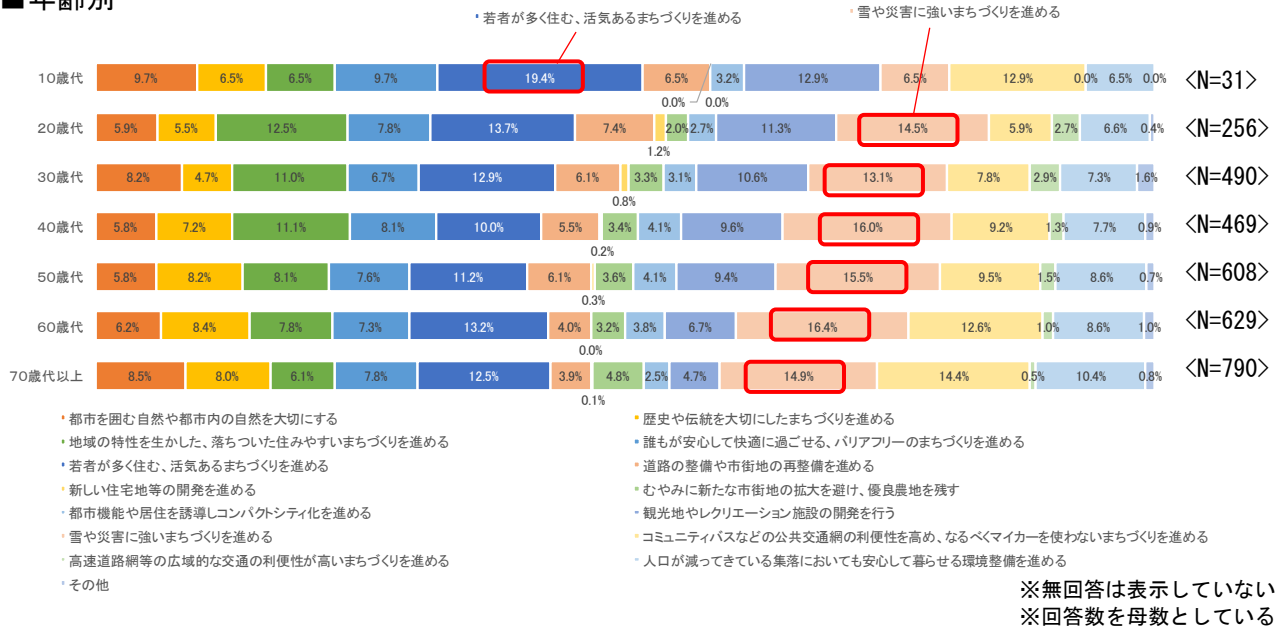


図. 敦賀市の今後のまちづくりの方針について〈複数回答、年齢別、無回答を除く〉

地区別に見ると、北地区、南地区、西地区、松原地区、西浦地区、中郷地区、愛発地区、栗野地区では、全体と同様に「雪や災害に強いまちづくりを進める」の割合が最も高くなっていますが、東浦地区、東郷地区では、「人口が減ってきている集落においても安心して暮らせる環境整備を進める」の割合が最も高くなっています。

### ■地区別

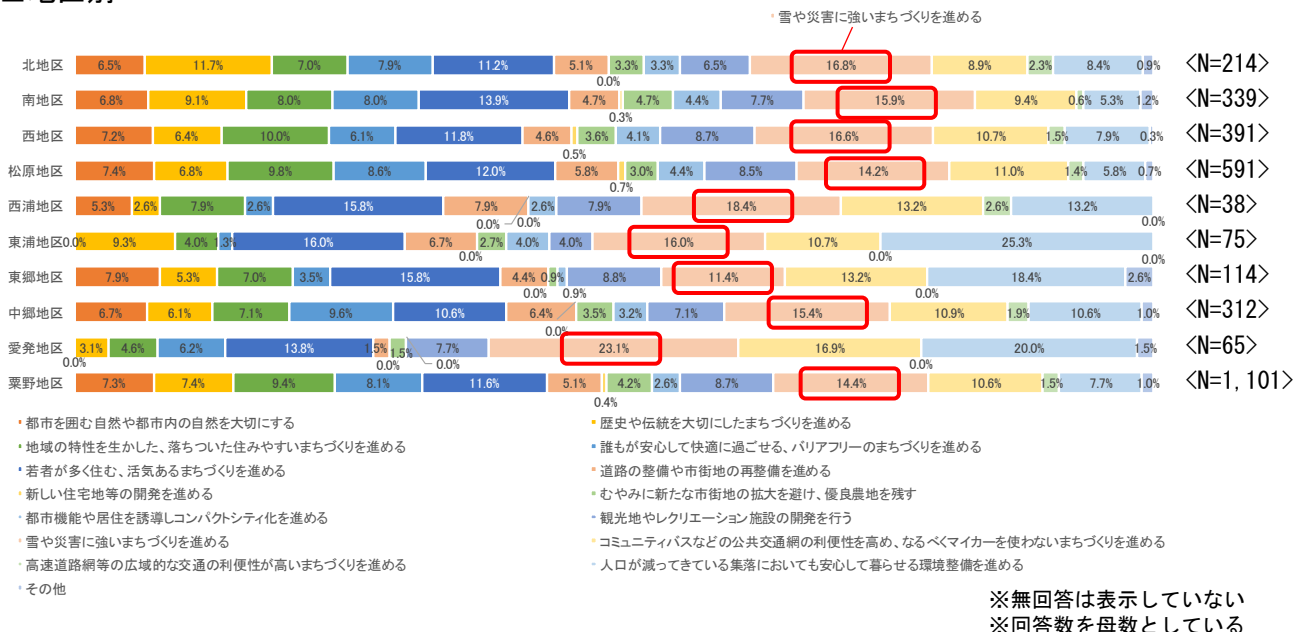


図. 敦賀市の今後のまちづくりの方針について〈複数回答、地区別、無回答を除く〉

敦賀市の今後のまちづくりの方針について、前回調査と比較し、今回調査では「雪や災害に強いまちづくりを進める」が 12.9 ポイント、「人口が減ってきている集落においても安心して暮らせる環境整備を進める」が 8.9 ポイント、「道路の整備や市街地の再整備を進める」が 6.7 ポイント、「観光地やレクリエーション施設の開発を行う」が 3.3 ポイント、「若者が多く住む、活気あるまちづくりを進める」が、1.0 ポイント、「コミュニティバスなどの公共交通網の利便性を高め、なるべくマイカーを使わないまちづくりを進める」が 0.8 ポイント高くなっています。（その他を除く。）

また、近年自然災害が頻発していることから、災害の雪や災害に強いまちづくりを進めること、郊外化の影響から人口が減ってきている集落においても安心して暮らせる環境整備への関心が高まっています。

### ■ 前回調査との比較

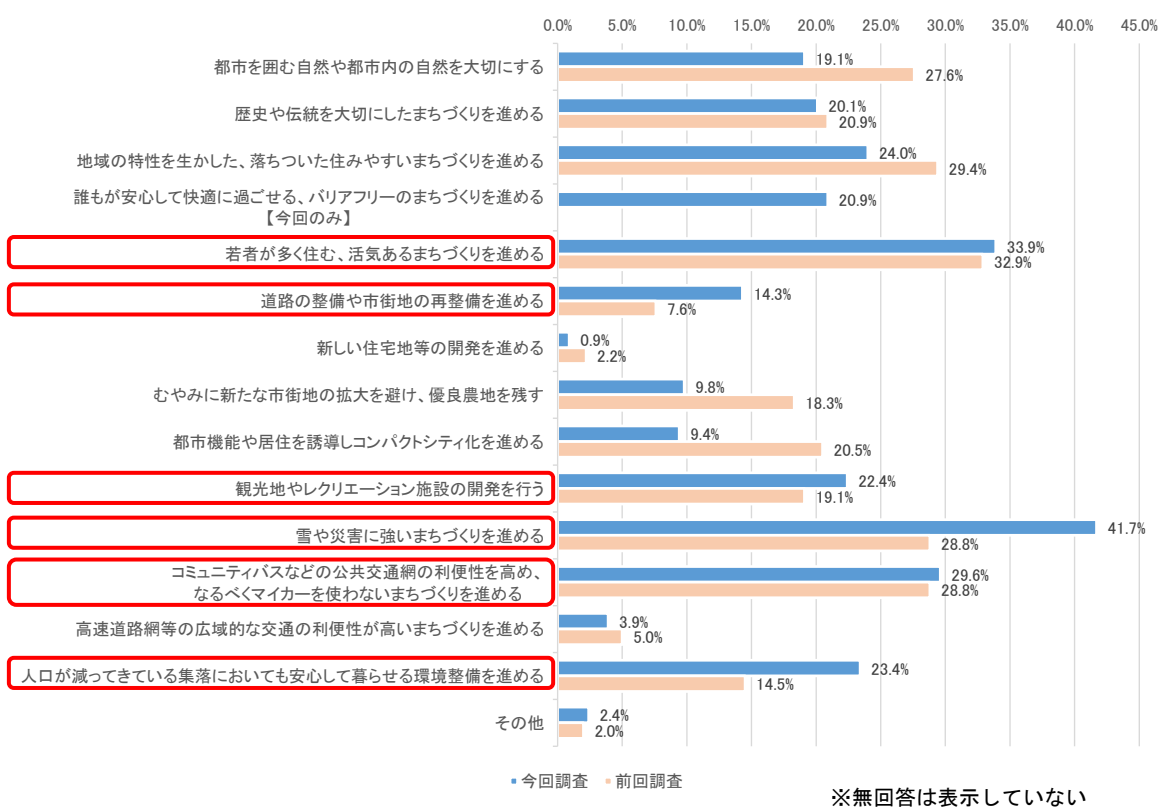


図. 敦賀市の今後のまちづくりの方針について <複数回答、今回：N=1,190、前回：N=1,151>



### 問19. 今後、重点的に整備すべきと考える地区について

今後、重点的に整備すべきと考える地区については、「中心市街地」が31.3%を占め最も割合が高く、次いで「駅東（新幹線敦賀駅側）周辺地区」（19.3%）、「駅西（敦賀駅側）地区」（16.5%）と続きます。

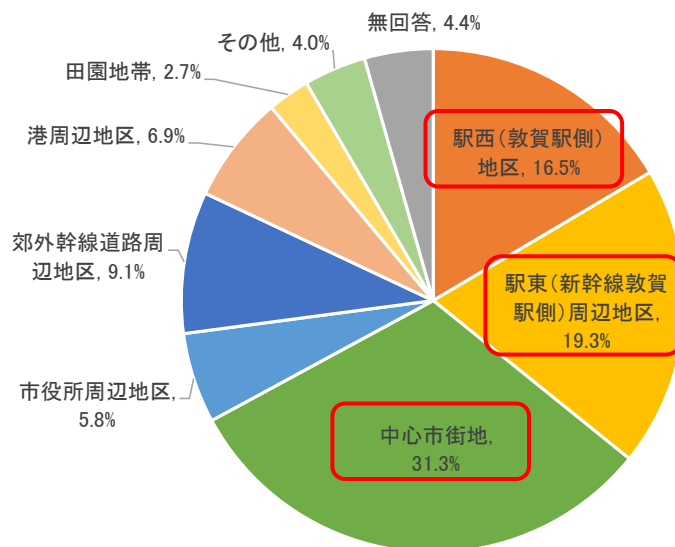


図. 今後、重点的に整備すべきと考える地区について <N=1,190>

年齢別に見ると、すべての年齢において、全体と同様に「中心市街地」の割合が最も高くなっています。

#### ■ 年齢別

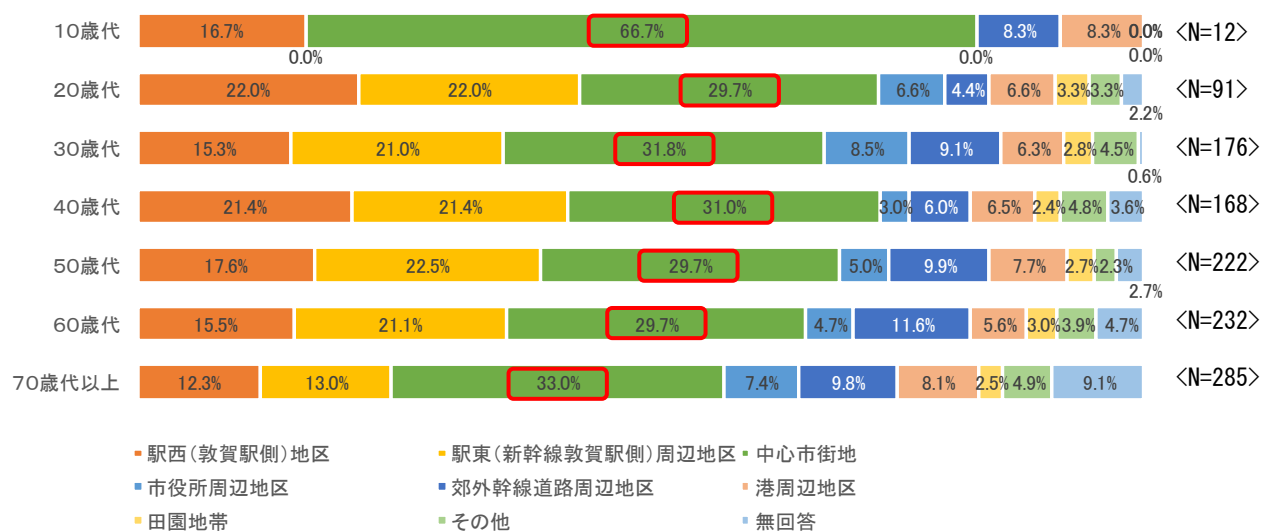


図. 今後、重点的に整備すべきと考える地区について <年齢別、無回答を除く>

今後、重点的に整備すべきと考える地区について、前回調査と比較し、今回調査では「中心市街地」が8.6ポイント、「駅東（新幹線敦賀駅側）周辺地区」が6.3ポイント高くなっています。

また、中心市街地と駅東周辺地区を重点整備する考えが多くなっています。

### ■ 前回調査との比較

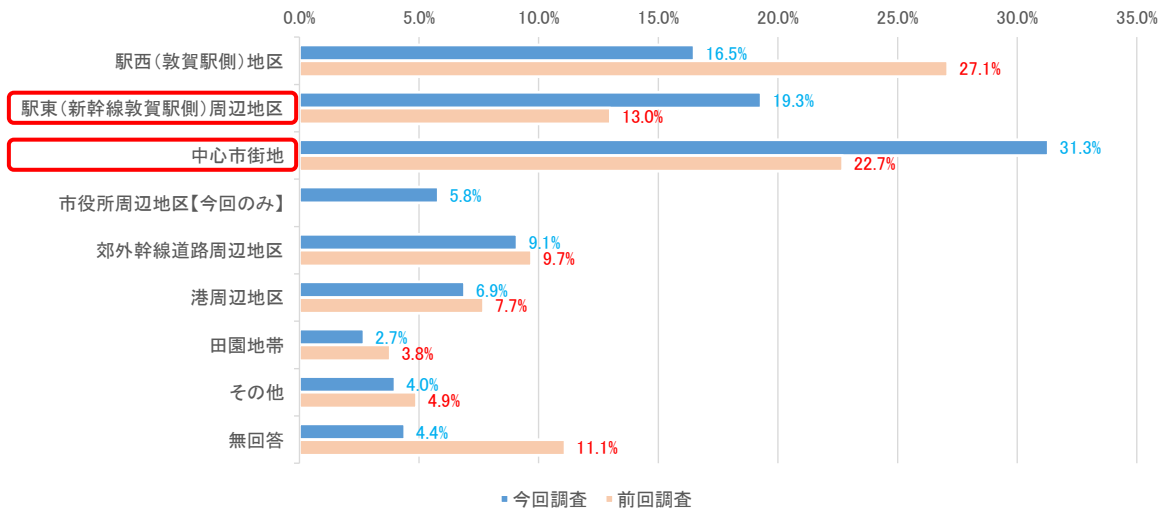
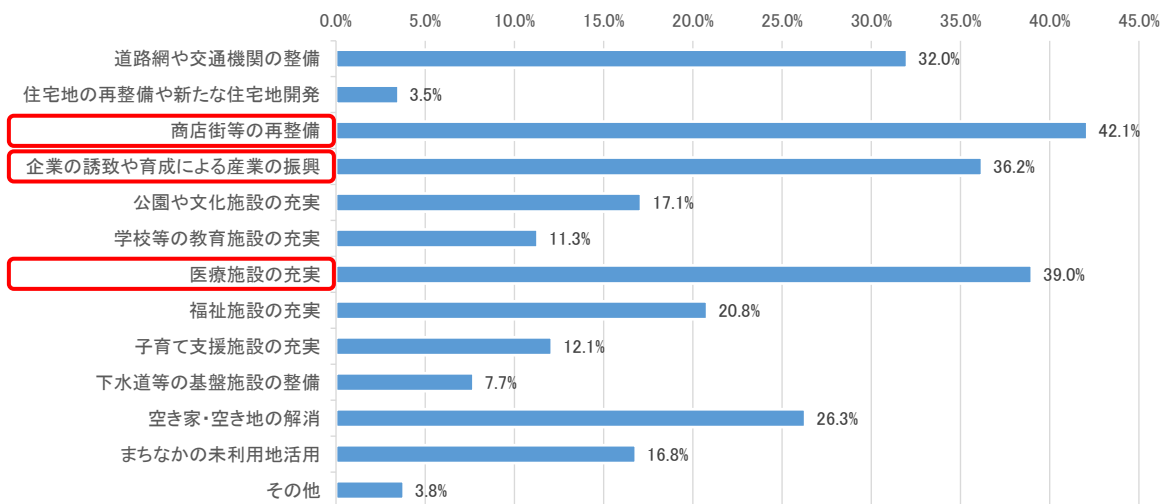


図. 今後、重点的に整備すべきと考える地区について <今回：N=1,190、前回：N=1,151>

## 問20. 今後、敦賀市において特に推進すべきと考える取組みについて

今後、敦賀市において特に推進すべきと考える取組みについては、「商店街等の再整備」が42.1%を占め最も割合が高く、次いで「医療施設の充実」(39.0%)、「企業の誘致や育成による産業の振興」(36.2%)と続きます。



※無回答は表示していない

図. 今後、敦賀市において特に推進すべきと考える取組みについて <複数回答、N=1,190>

年齢別に見ると、10歳代～50歳代では、全体と同様に「商店街等の再整備」の割合が最も高くなっていますが、60歳代～70歳代以上では、「医療施設の充実」の割合が最も高くなっています。

### ■年齢別

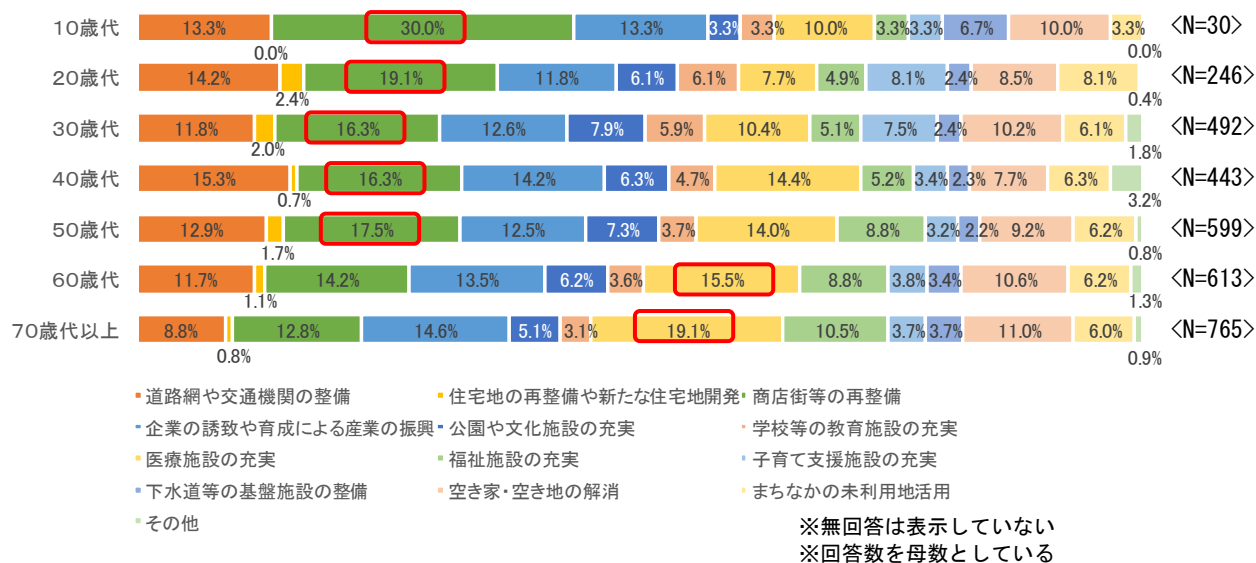


図. 今後、敦賀市において特に推進すべきと考える取組みについて <複数回答、年齢別、無回答を除く>

地区別に見ると、北地区、南地区、西地区、松原地区、栗野地区では、「商店街等の再整備」、東郷地区、中郷地区、愛発地区では、「医療施設の充実」、西浦地区では、「企業の誘致や育成による産業の振興」、東浦地区では、「商店街等の再整備」及び「空き家・空き地の解消」の割合が最も高くなっています。

### ■地区別

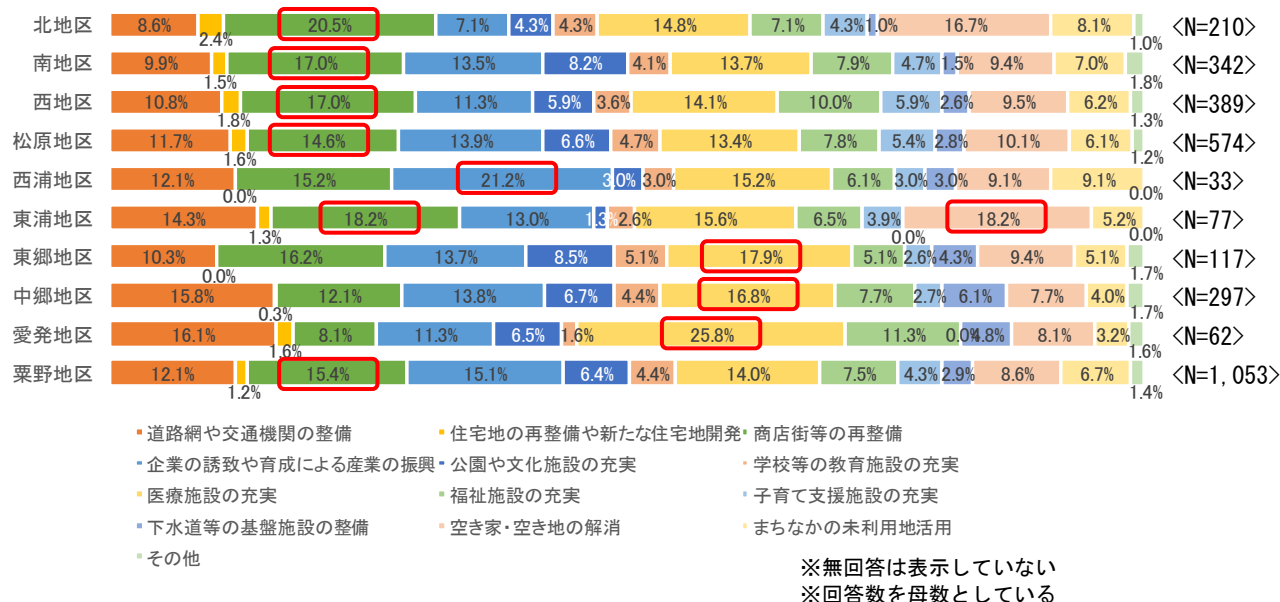


図. 今後、敦賀市において特に推進すべきと考える取組みについて 〈複数回答、地区別、無回答を除く〉

世帯構成別に見ると、「小・中・高校生の方がいる世帯」、「幼稚園児・保育園児の方がいる世帯」、「小・中・高校生、幼稚園児・保育園児、就学前児童の方がいる世帯」では、「商店街等の再整備」、「幼稚園・保育園に通っていない就学前児童の方がいる世帯」では、「商店街等の再整備」及び「企業の誘致や育成による産業の振興」、「高齢者（65歳以上）の方がいる世帯」では、「医療施設の充実」の割合が最も高くなっています。

### ■世帯構成別

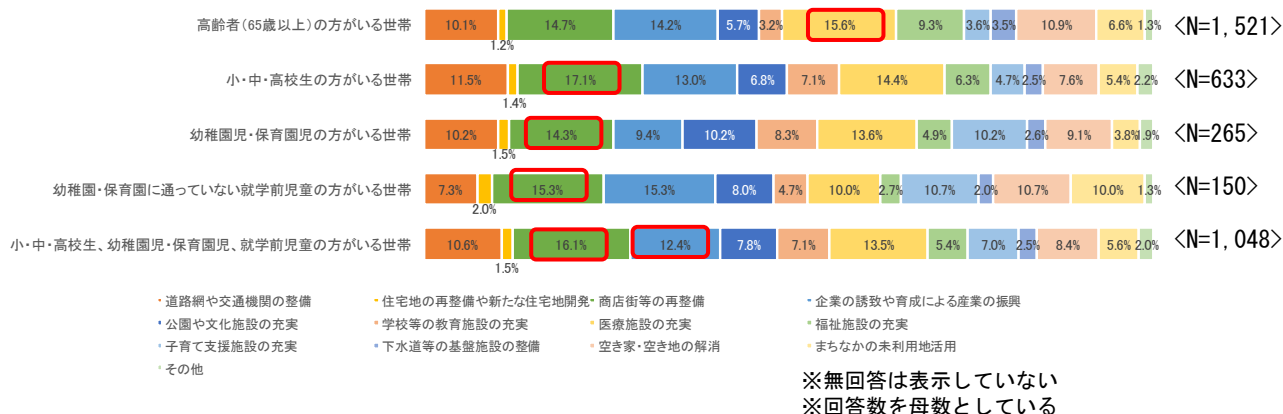


図. 今後、敦賀市において特に推進すべきと考える取組みについて 〈複数回答、世帯構成別〉

今後、敦賀市において特に推進すべきと考える取組みについて、前回調査と比較し、今回調査では「道路網や交通機関の整備」が 5.5 ポイント、「商店街等の再整備」が 5.1 ポイント、「公園や文化施設の充実」が 2.7 ポイント高くなっています。（その他を除く。）

## ■ 前回調査との比較

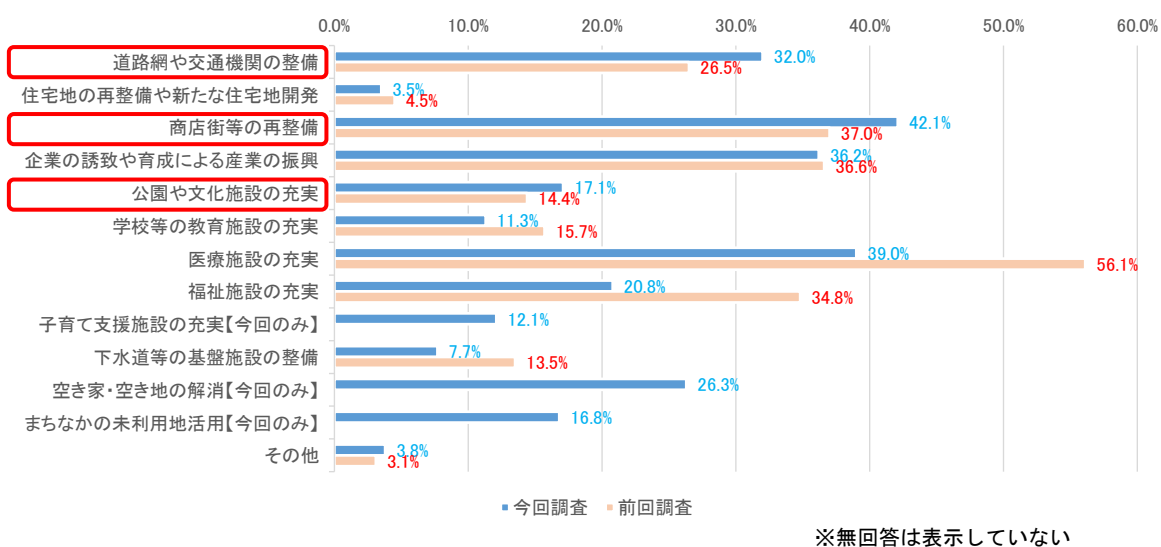


図. 今後、敦賀市において特に推進すべきと考える取組みについて

<複数回答、今回：N=1,190、前回：N=1,151>

## 問2 1. “コンパクトなまちづくり”に必要な施策について

“コンパクトなまちづくり”に必要な施策について、1位では「中心市街地、商店街の活性化」が26.9%を占め最も割合が高く、次いで「医療・福祉環境向上」（25.2%）、「コミュニティバス交通網の維持・向上」（10.9%）と続きます。

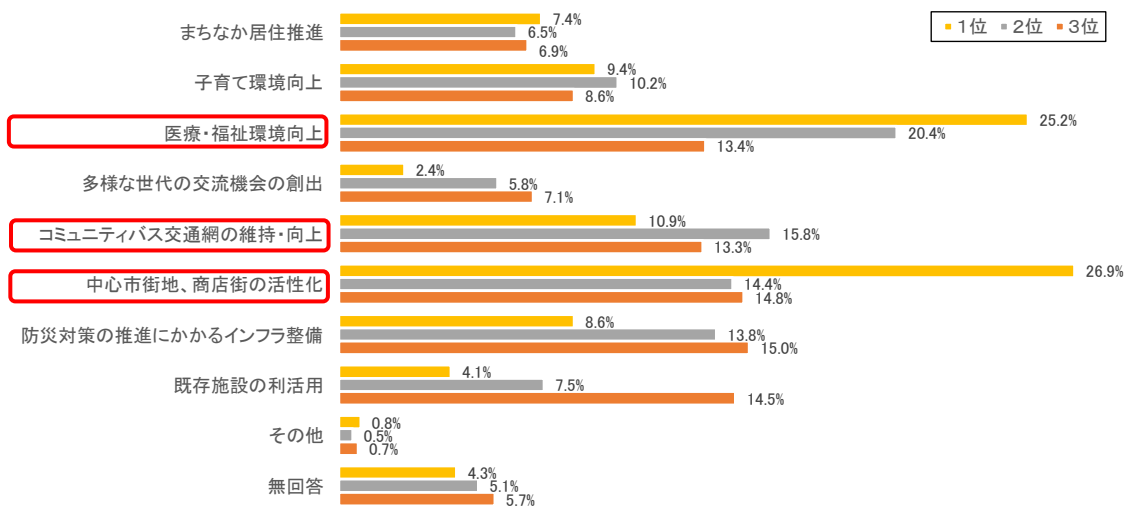


図. “コンパクトなまちづくり”に必要な施策について <N=1,190>

年齢別に見ると、1位について、10歳代～50歳代では、全体と同様に「中心市街地、商店街の活性化」の割合が最も高くなっていますが、60歳代～70歳代以上では、「医療・福祉環境向上」の割合が最も高くなっています。

### ■年齢別（10歳代）

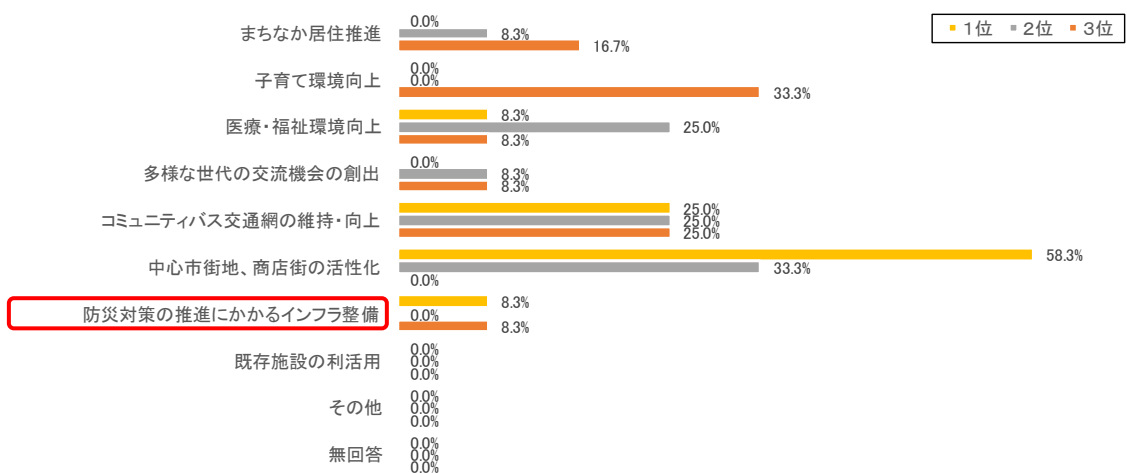


図. “コンパクトなまちづくり”に必要な施策について <N=12>

■ 年齢別（20 歳代）

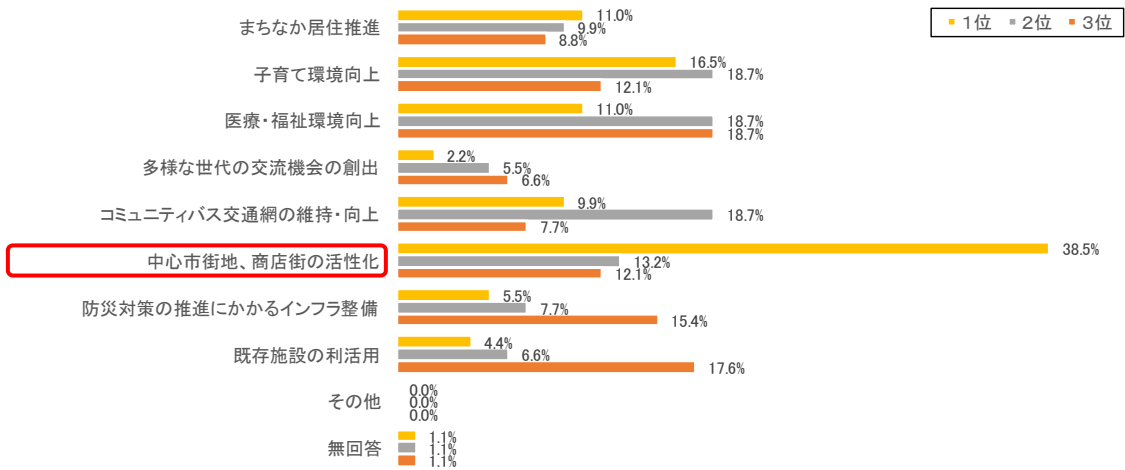


図. “コンパクトなまちづくり”に必要な施策について <N=91>

■ 年齢別（30 歳代）

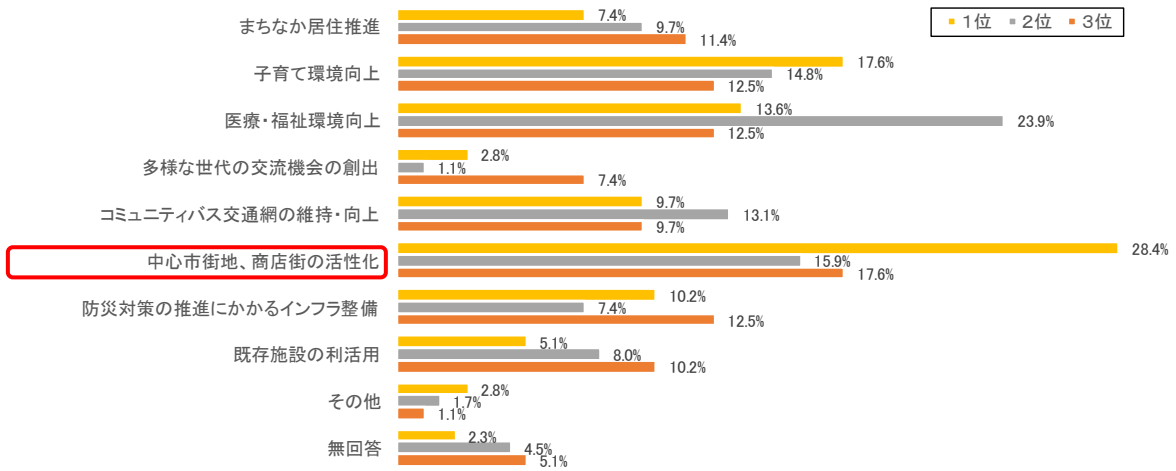


図. “コンパクトなまちづくり”に必要な施策について <N=176>

■ 年齢別（40 歳代）

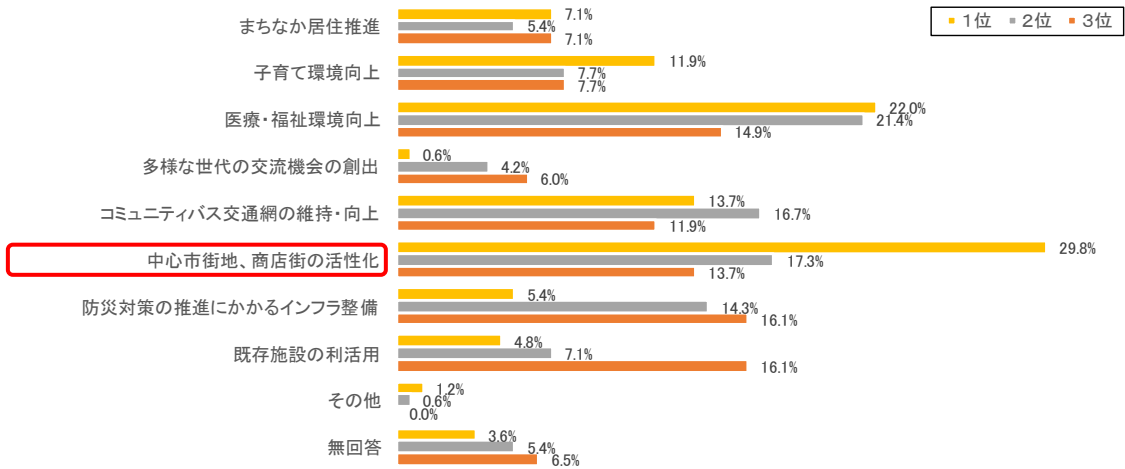


図. “コンパクトなまちづくり”に必要な施策について <N=168>

### ■年齢別（50歳代）

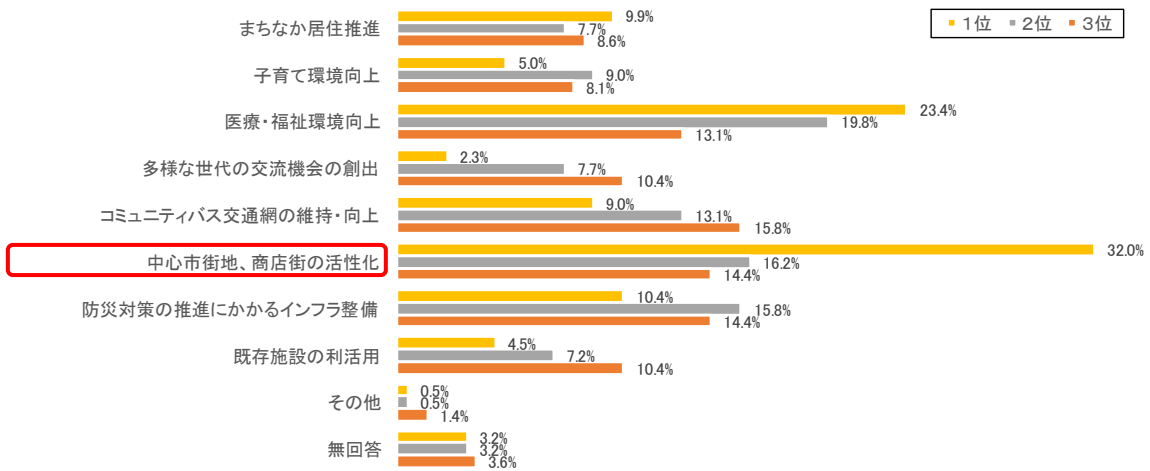


図. “コンパクトなまちづくり”に必要な施策について <N=222>

### ■年齢別（60歳代）

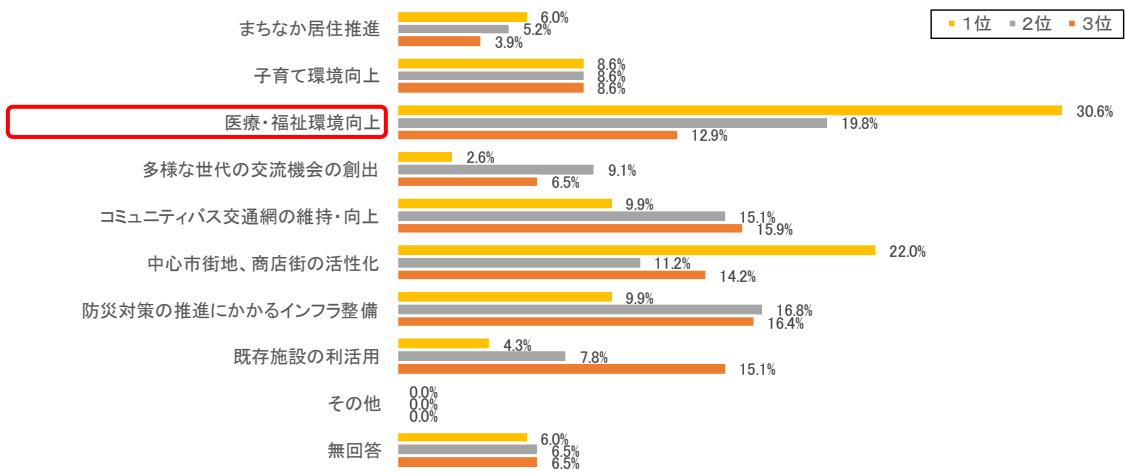


図. “コンパクトなまちづくり”に必要な施策について <N=232>

### ■年齢別（70歳代以上）

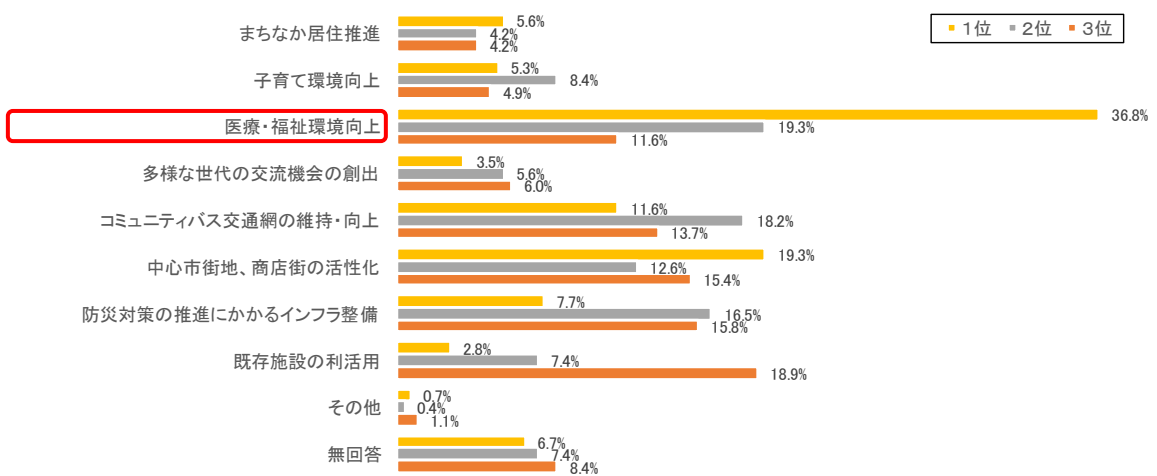


図. “コンパクトなまちづくり”に必要な施策について <N=285>



世帯構成別に見ると、1位について、“小・中・高校生の方がいる世帯”、“幼稚園児・保育園児の方がいる世帯”、“幼稚園・保育園に通っていない就学前児童の方がいる世帯”、“小・中・高校生、幼稚園児・保育園児、就学前児童の方がいる世帯”では、「中心市街地、商店街の活性化」、「高齢者（65歳以上）の方がいる世帯」では、「医療・福祉環境向上」の割合が最も高くなっています。

また、“幼稚園児・保育園児の方がいる世帯”では、「子育て環境向上」の割合も高くなっています。

### ■世帯構成別（高齢者（65歳以上）の方がいる世帯）

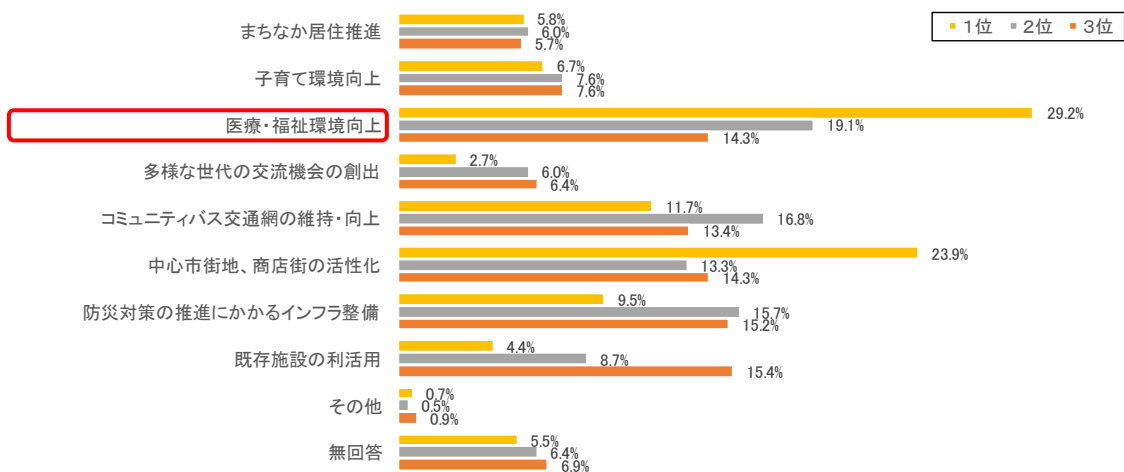


図. “コンパクトなまちづくり”に必要な施策について 〈N=566〉

### ■世帯構成別（小・中・高校生の方がいる世帯）

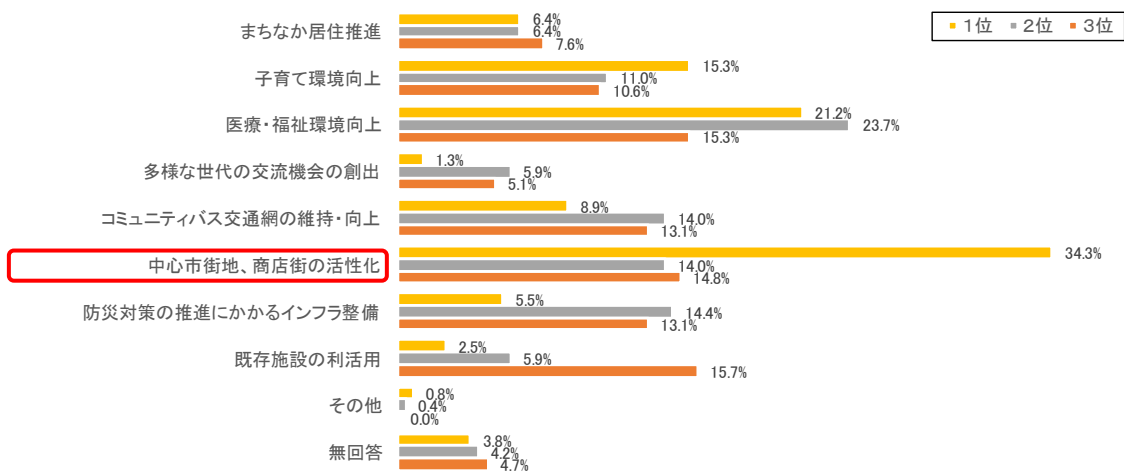


図. “コンパクトなまちづくり”に必要な施策について 〈N=236〉

■世帯構成別（幼稚園児・保育園児の方がいる世帯）

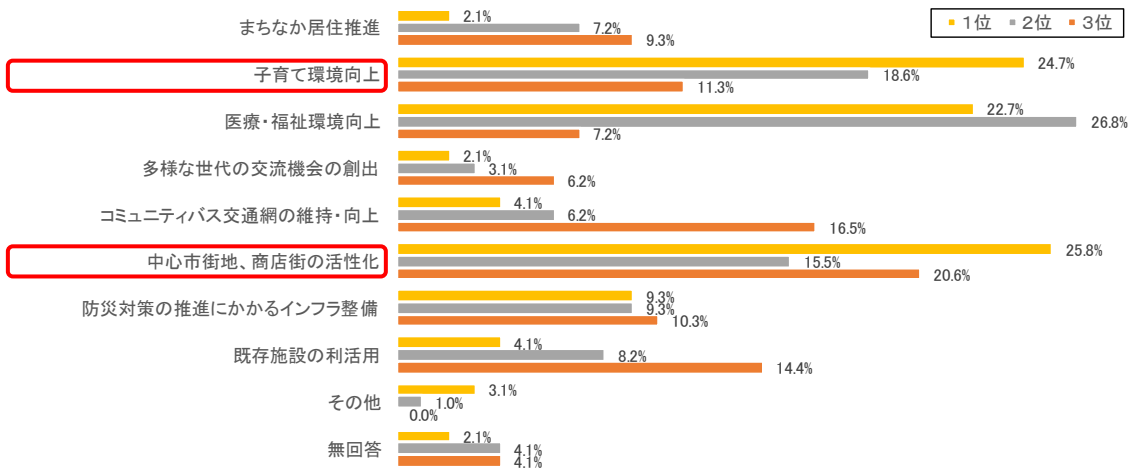


図. “コンパクトなまちづくり”に必要な施策について <N=97>

■世帯構成別（幼稚園・保育園に通っていない就学前児童の方がいる世帯）

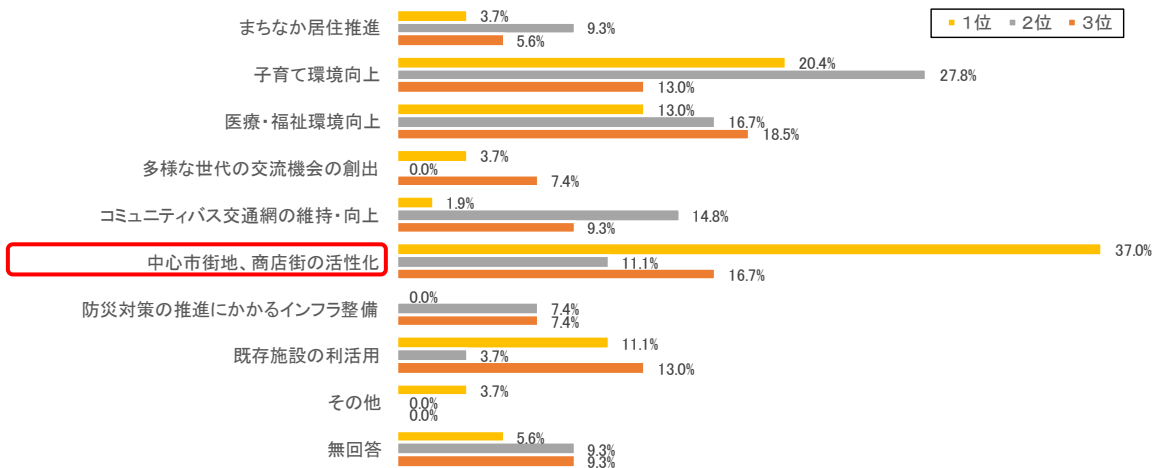


図. “コンパクトなまちづくり”に必要な施策について <N=54>

■世帯構成別（小・中・高校生、幼稚園児・保育園児、就学前児童の方がいる世帯）

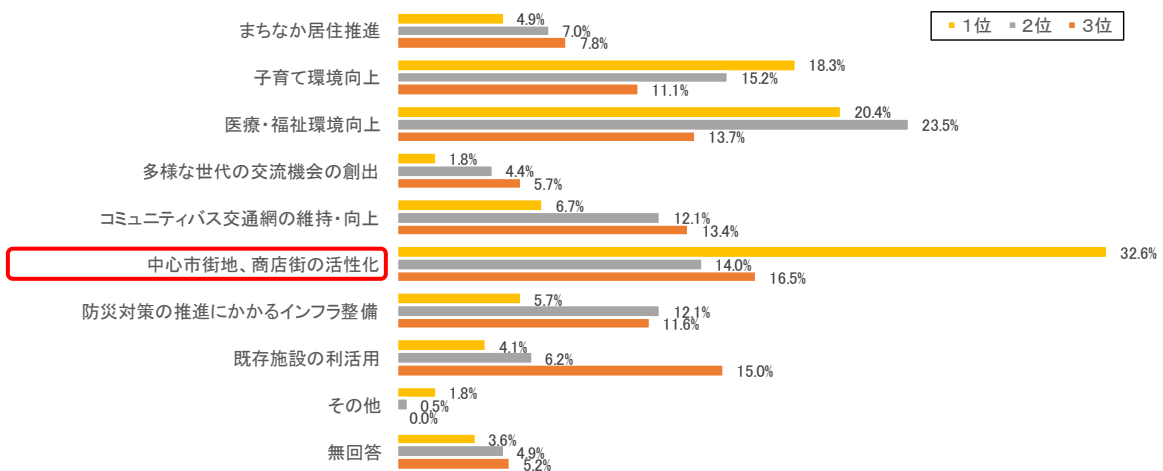
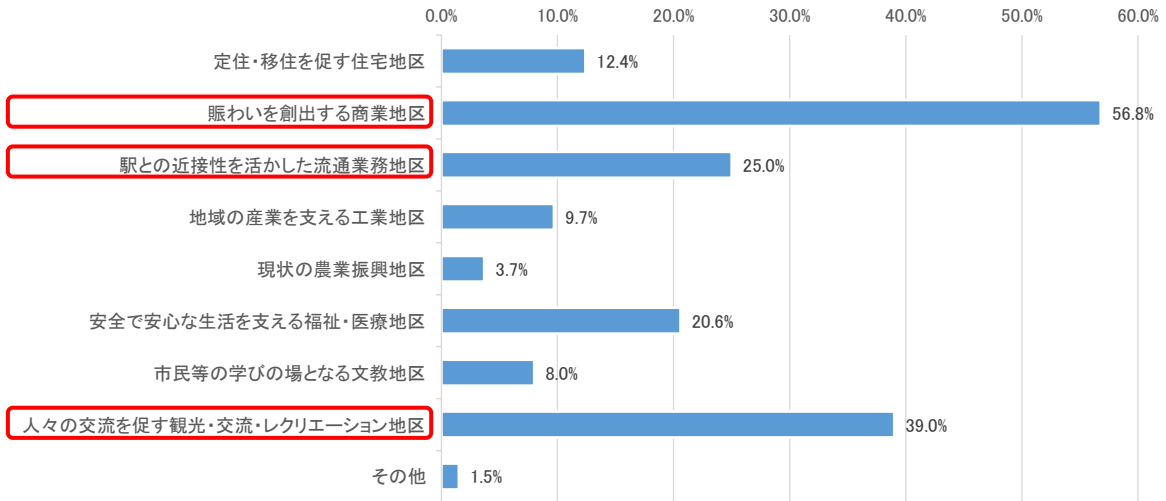


図. “コンパクトなまちづくり”に必要な施策について <N=387>

## 問22. 今後の敦賀駅周辺（駅東側）の土地利用について

今後の敦賀駅周辺（駅東側）の土地利用については、「賑わいを創出する商業地区」が56.8%を占め最も割合が高く、次いで「人々の交流を促す観光・交流・レクリエーション地区」（39.0%）、「駅との近接性を活かした流通業務地区」（25.0%）と続きます。

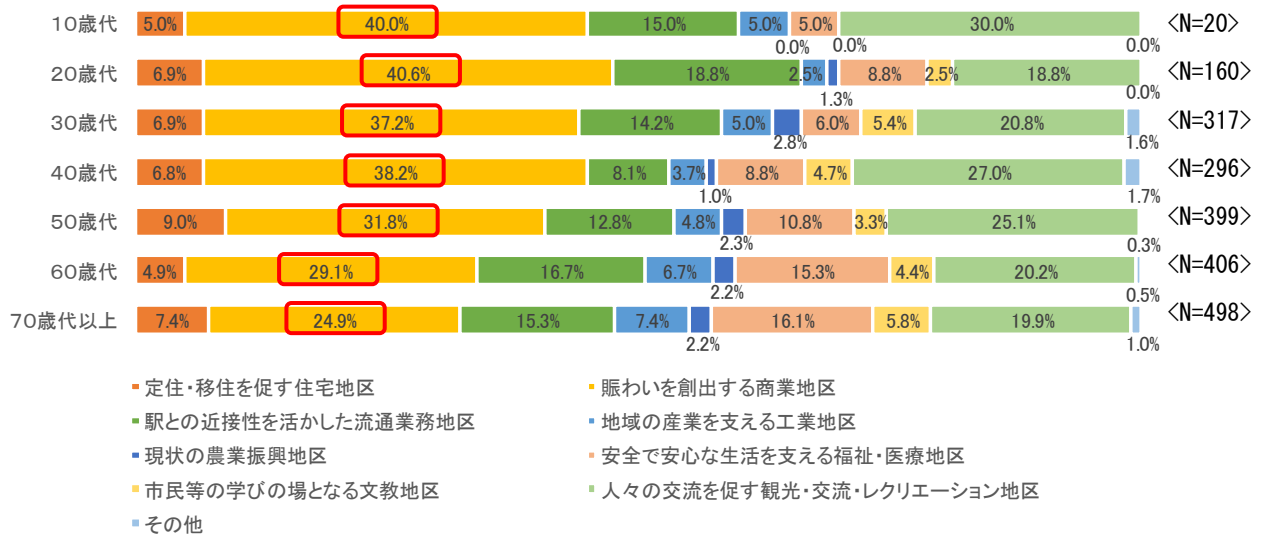


※無回答は表示していない

図. 今後の敦賀駅周辺（駅東側）の土地利用について 〈複数回答、N=1,190〉

年齢別に見ると、すべての年齢において、全体と同様に「賑わいを創出する商業地区」の割合が最も高くなっています。

### ■ 年齢別



※無回答は表示していない  
※回答数を母数としている

図. 今後の敦賀駅周辺（駅東側）の土地利用について 〈複数回答、年齢別、無回答を除く〉

## 2-5. 住民参加のまちづくりについて

### 問23. 今後の「まちづくり」への参加意思について

今後の「まちづくり」への参加意思については、「場合によっては参加を検討したい」が47.6%を占め最も割合が高く、次いで「わからない」(24.4%)、「参加意欲はない」(19.8%)と続きます。

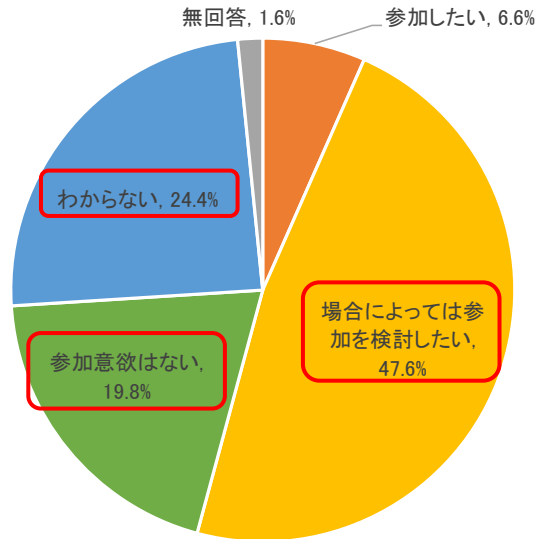


図. 今後の「まちづくり」への参加意思について <N=1,190>

今後の「まちづくり」への参加意思について、前回調査と比較し、今回調査では「参加意欲はない」が5.6ポイント、「わからない」が2.0ポイント、「参加したい」が0.9ポイント高くなっています。

#### ■ 前回調査との比較

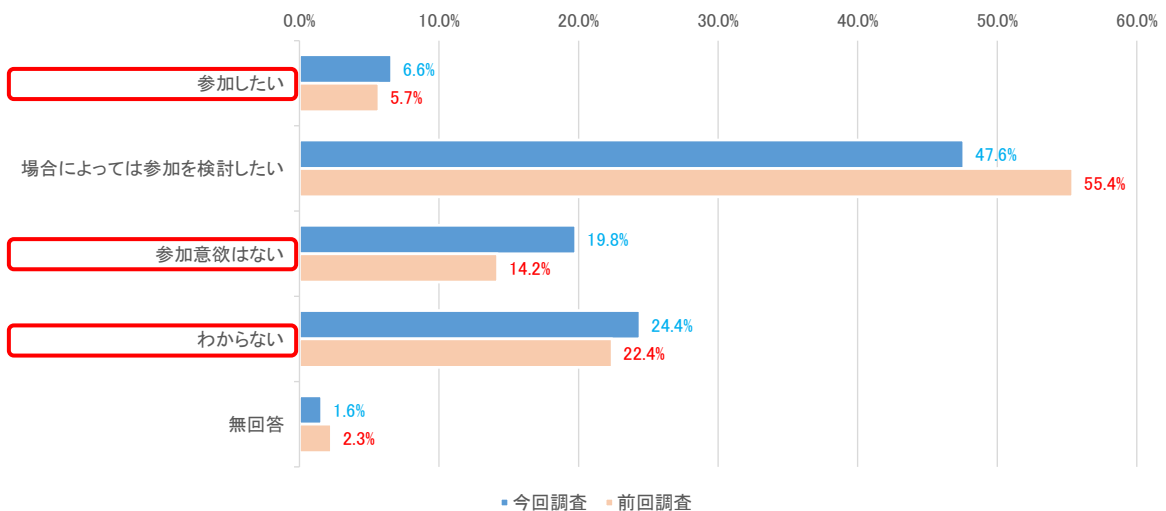


図. 今後の「まちづくり」への参加意思について <今回：N=1,190、前回：N=1,151>

## 問24. 「住民参加型のまちづくり」を進めるために大切なことについて

「住民参加型のまちづくり」を進めるために大切なことについては、「住民のアイデアや意見を募集する」が48.1%を占め最も割合が高く、次いで「アンケートなどによる住民意向の把握を行う」(28.3%)、「まちづくりに関する説明会や広報活動(広報誌など)を充実させる」(27.7%)と続きます。

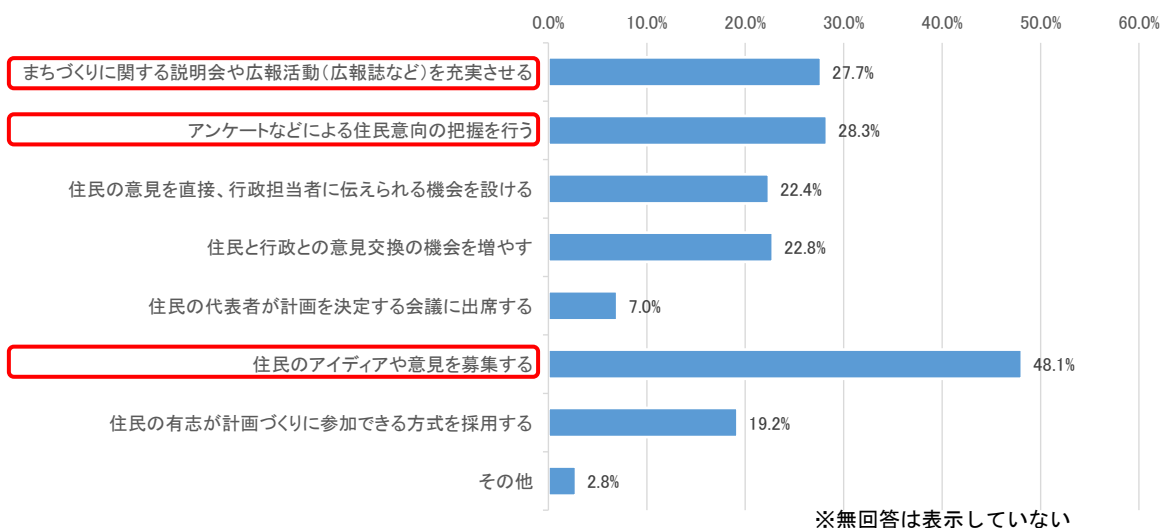


図. 「住民参加型のまちづくり」を進めるために大切なことについて <複数回答、N=1,190>

「住民参加型のまちづくり」を進めるために大切なことについて、選択数が異なるため単純比較できないが、前回調査と比較し、今回調査では「住民の意見を直接、行政担当者に伝えられる機会を設ける」、「住民と行政との意見交換の機会を増やす」、「アンケートなどによる住民意向の把握を行う」などの割合の減少が顕著となっています。(その他を除く。)

### ■ 前回調査との比較

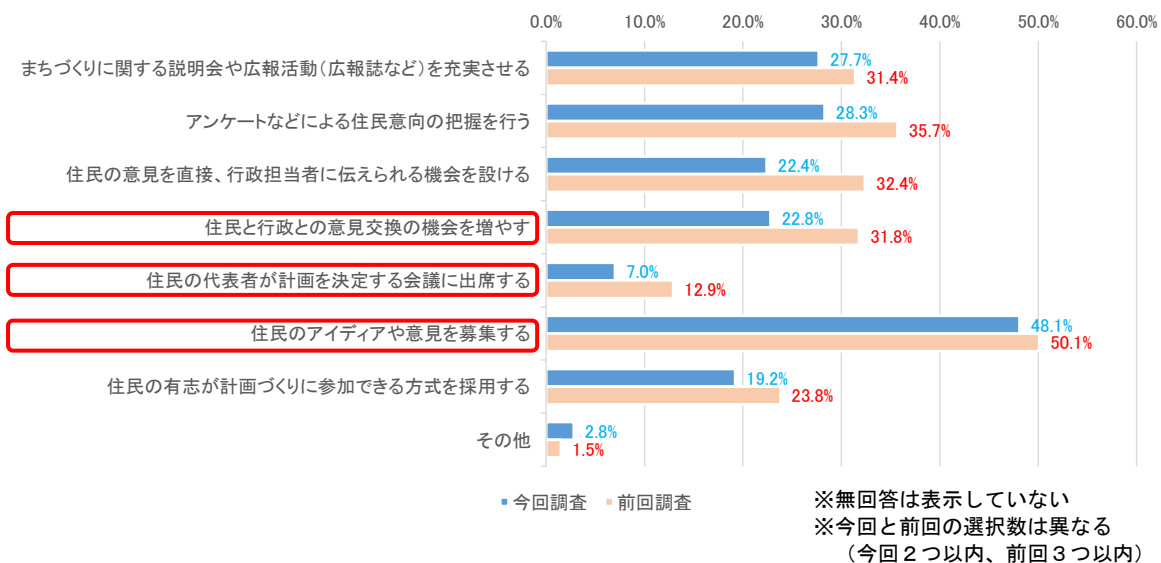


図. 「住民参加型のまちづくり」を進めるために大切なことについて

<複数回答、今回：N=1,190、前回：N=1,151>